



札幌医科大学教学 IR データブック 2024

札幌医科大学総合 IR センター

札幌医科大学教学 IR データブック 2024

札幌医科大学統合 IR センター

目次

1. 巻頭の言葉	4
2. 教員	5
2.1. 性別	5
2.1.1. 人数	5
2.1.2. 女性教員比率	6
2.2. 年齢	7
2.2.1. 人数	7
2.2.2. 若手教員比率	8
3. 教員学生比 (ST 比)	9
4. 入試	10
4.1. 性別ごと	10
4.1.1. 人数	10
4.1.2. 女子学生比率	11
4.1.3. 合格率	12
4.2. 道内外	13
4.2.1. 人数	13
4.2.2. 道内出身者比率	14
4.2.3. 合格率	15
4.3. 現役と既卒	16

4.3.1. 人数	16
4.3.2. 現役学生比率	17
4.3.3. 合格率	18
4.4. 共通テスト（センター試験）	19
4.4.1. 点数	19
4.4.2. 全国平均点との差	20
5. 在学生	21
5.1. 在籍人数	21
5.2. 女子学生比率	22
5.3. 定員充足率	23
5.4. 留年人数と留年率	24
5.5. 奨学金等人数と受給率	25
5.6. 卒業率	26
6. 国家試験	27
6.1. 人数	27
6.1.1. 新卒	27
6.1.2. 既卒	28
6.1.3. 新卒と既卒の合計	29
6.2. 合格率	30
6.2.1. 新卒	30
6.2.2. 既卒	31
6.2.3. 新卒と既卒の合計	32
7. 卒業後状況 初期研修・就職・進学先	33
7.1. 両学部	33

7.1.1 卒後進路の道内外（新卒者のみ）人数	33
7.1.2 卒後進路の道内比率（新卒者のみ）	34
7.2. 医学部	35
7.2.1. 初期研修先が道内の卒業生のみ、かつ新卒者のみのデータ	35
7.2.2. 初期研修先 一覧	37
7.3. 保健医療学部	39
7.3.1. 人数内訳	39
7.3.2. 就職・進学先 一覧（看護学科）	40
7.3.3. 就職・進学先 一覧（理学療法学科）	41
7.3.4. 就職・進学先 一覧（作業療法学科）	42
8. アンケート結果	43
8.1. 医学部	43
8.1.1. 新入生アンケート調査結果	43
8.1.2. 在学生アンケート調査結果	46
8.1.3. 卒業生（自己評価）アンケート調査結果	60
8.1.4. 卒業生（他者評価）アンケート調査結果	62
8.2. 保健医療学部	66
8.2.1. 新入生調査報告書	66
8.2.2. 在学生調査報告書	98
8.2.3. 卒業生・雇用者調査報告書	132
9. IR 活動年間スケジュール	133
10. 分野別作成担当者リスト	134
11. あとがき	135
索引	136

1. 巻頭の言葉

札幌医科大学は、創立以来「北海道の人々の健康と福祉に貢献する」という使命のもと、医学・看護学の教育、先進的研究、そして地域医療の実践に取り組んでまいりました。これまでの歩みは、地域社会と共に築いてきた歴史であり、未来を担う医療人を育成し続けてきた証でもあります。

「データブック」は、本学の教育・研究・診療・社会貢献の姿を広く示す基盤資料として編まれ、巻を重ねるごとに内容を充実させてまいりました。今回もまた、多くの関係者の協力により、より精緻で有用な情報を収録することができました。本書を通じて、本学の現状をご理解いただき、今後の発展を共に考える一助となれば幸いです。

近年、医療を取り巻く環境は急速に変化しており、人口構造の変動、感染症の脅威、さらには AI やデジタル技術の進展など、新たな課題と可能性が交錯しています。その中で本学は、高度な専門性と幅広い視野を併せ持つ医療人材の育成、基礎から臨床へとつなぐ研究の推進、そして地域に根ざしつつ国際社会へも開かれた大学を目指し、歩みを続けています。

結びにあたり、日頃より本学を支えてくださる学生、教職員、卒業生、そして地域社会の皆様に深く感謝申し上げます。札幌医科大学は今後も、北海道から世界へ、医療と学問の発展に貢献してまいります。

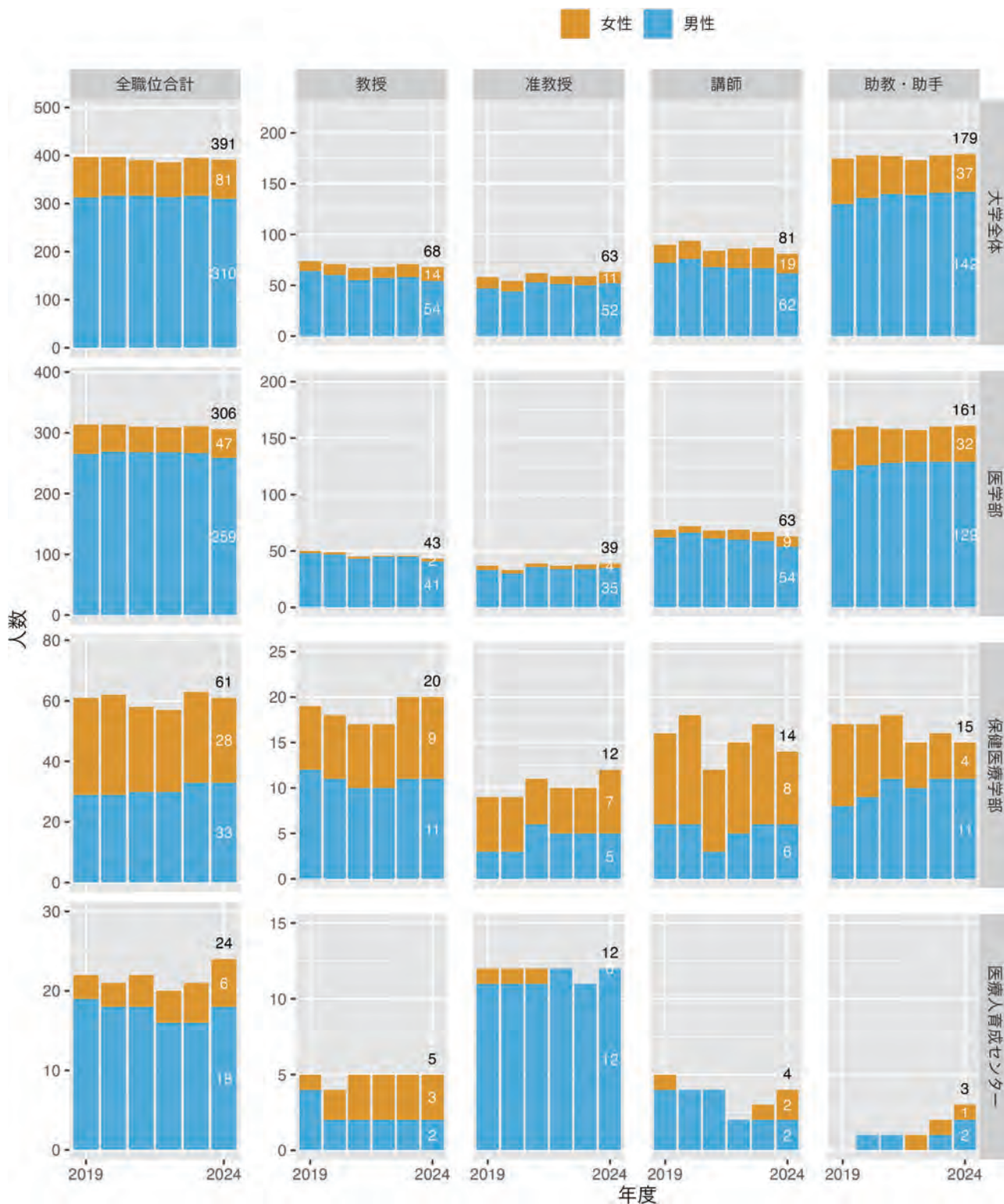
統合 IR センター長 辻 喜久

2. 教員

各年度の4月1日時点のデータです。

2.1 性別

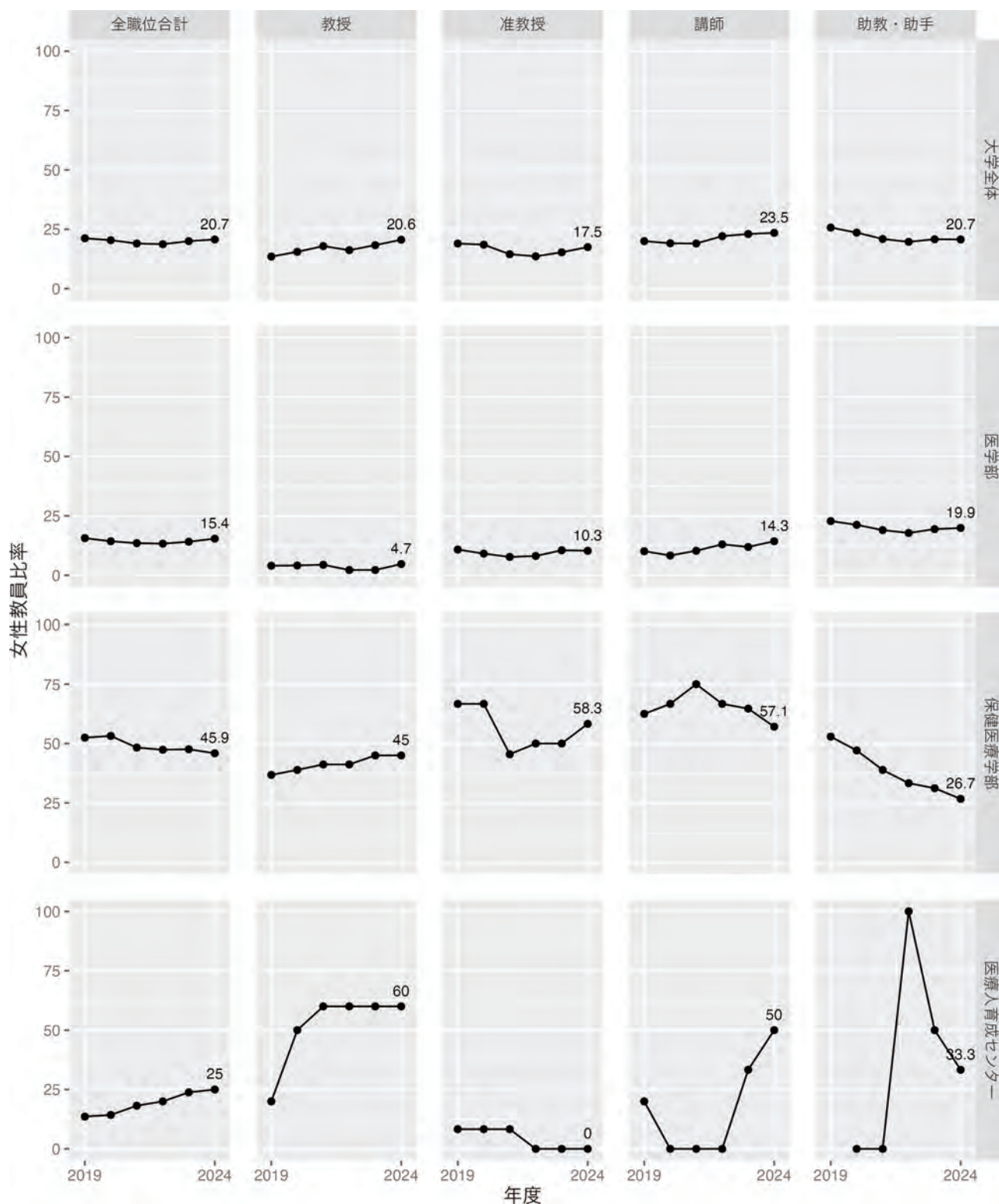
2.1.1 人数



2.1.2 女性教員比率

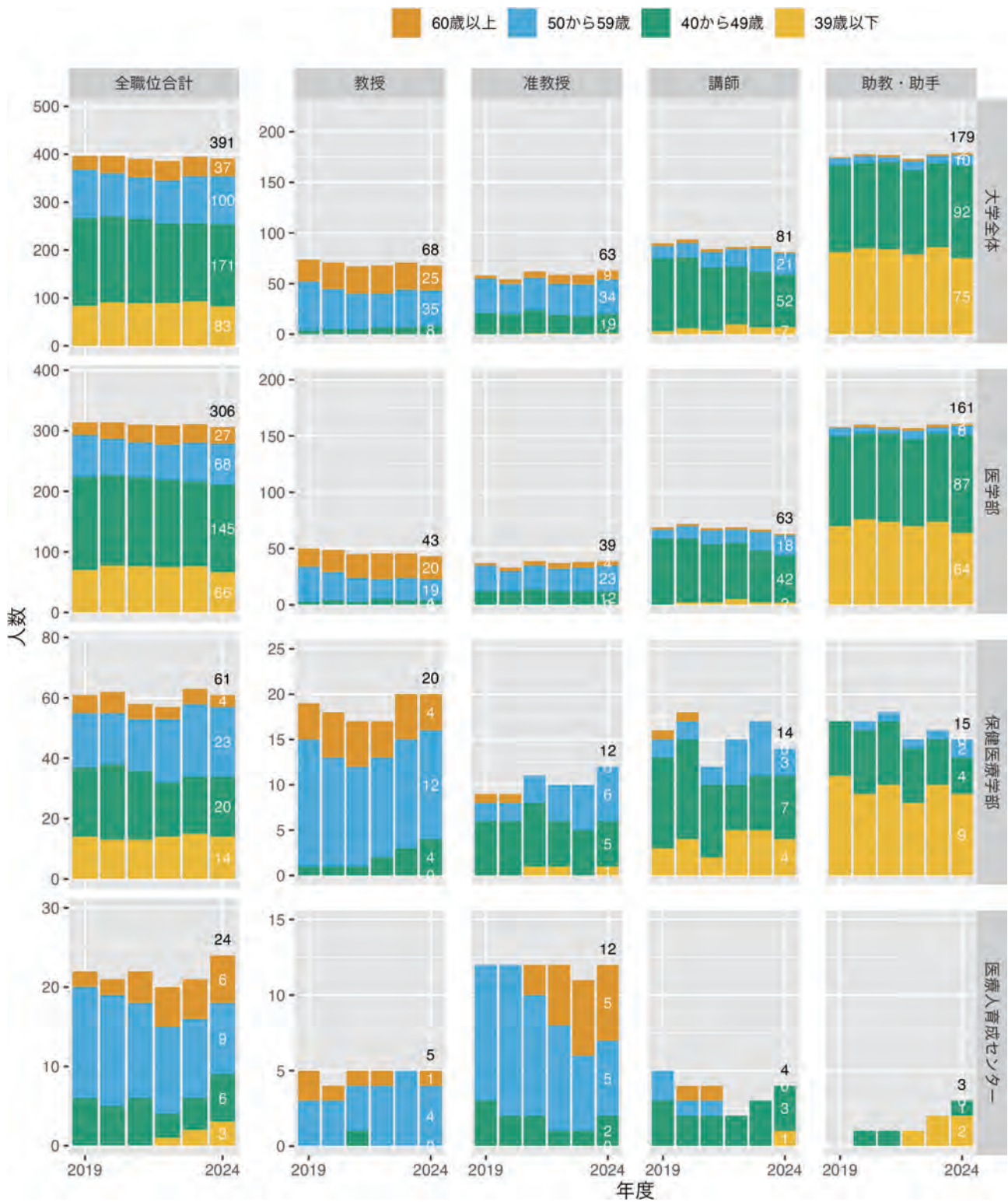
男女ともに0人の場合には、比率の計算ができないのでプロットしていません。

女性教員比率 = $100 \times \text{女性教員数} / \text{全教員数}$



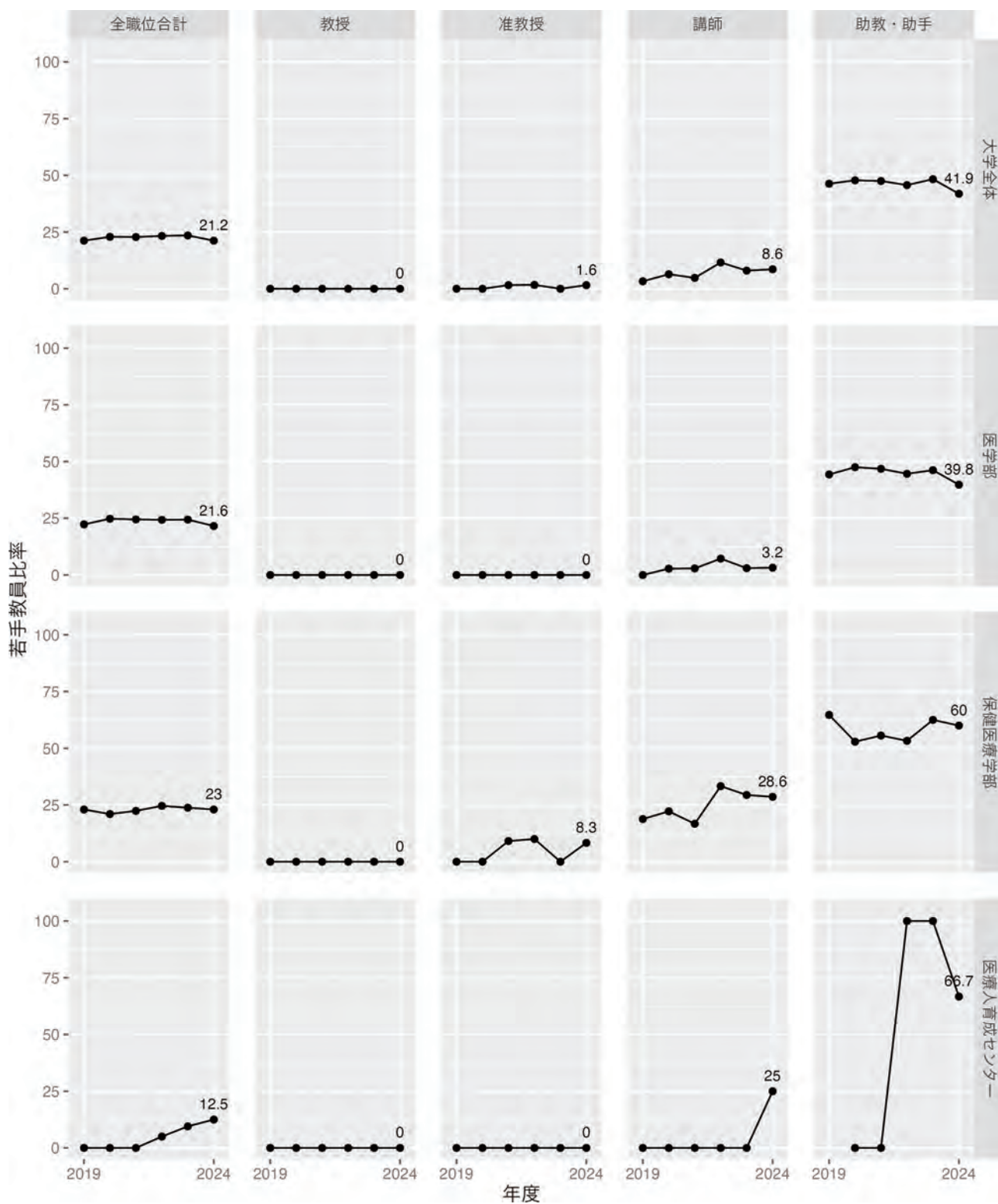
2.2 年齢

2.2.1 人数



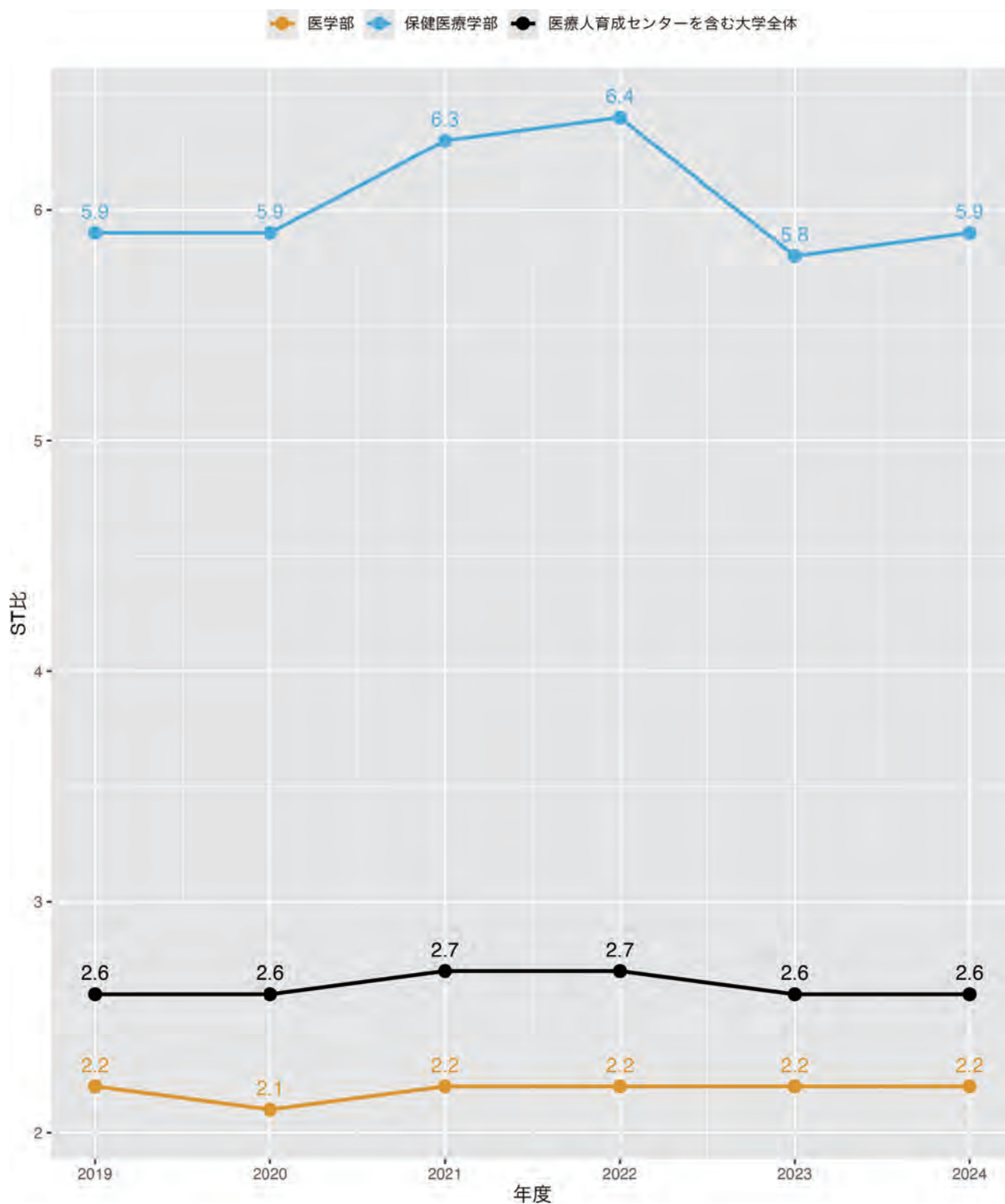
2.2.2 若手教員比率

若手教員比率 = 100×40 歳未満の教員数 / 全世代の教員数



3. 教員学生比 (ST比)

ST比 = 学生数 / 教員数。教員数には助手を含みます。

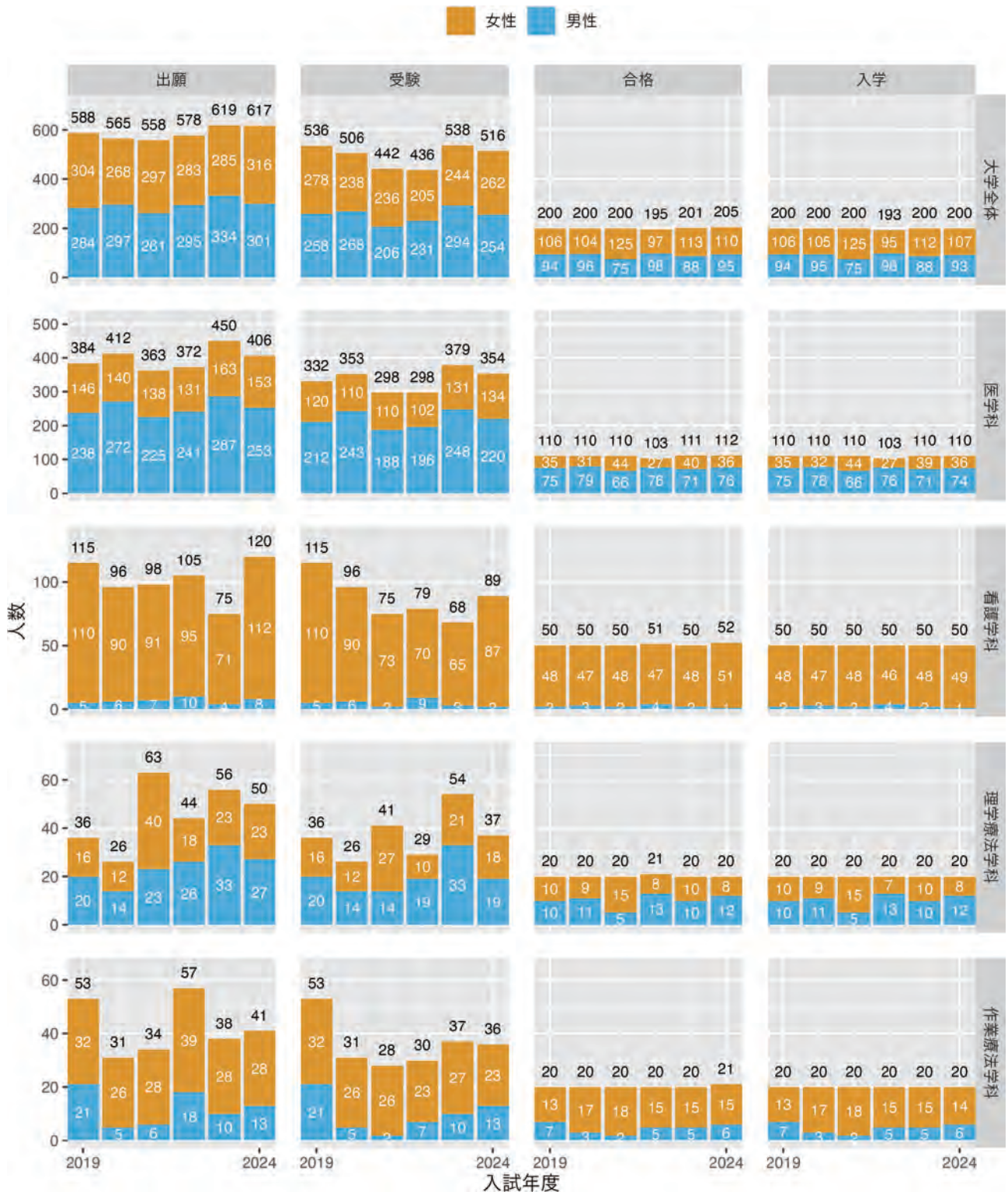


4. 入試

各年の2月に行われた入学試験のデータです。私費留学生は除いています。

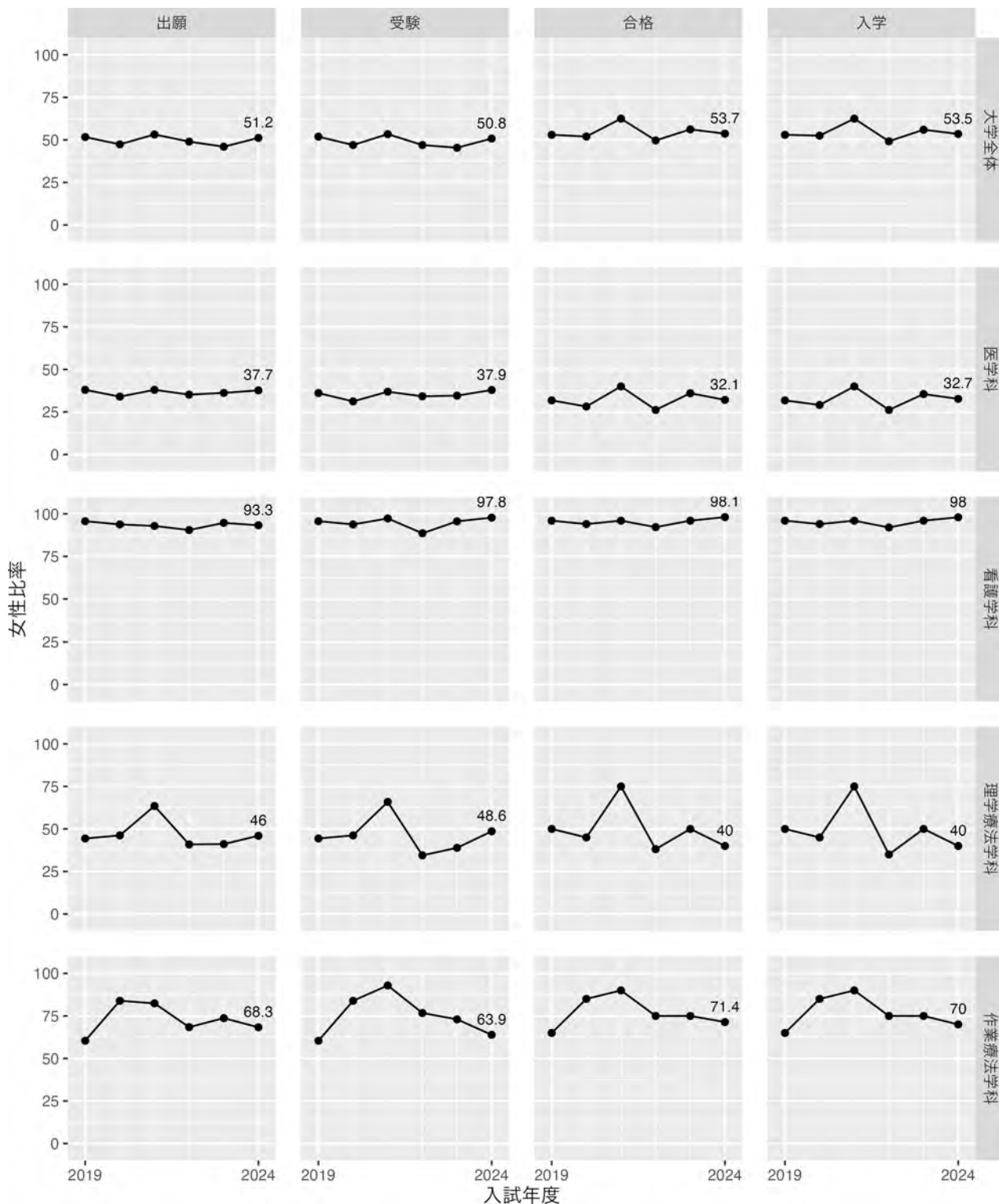
4.1 性別ごと

4.1.1 人数



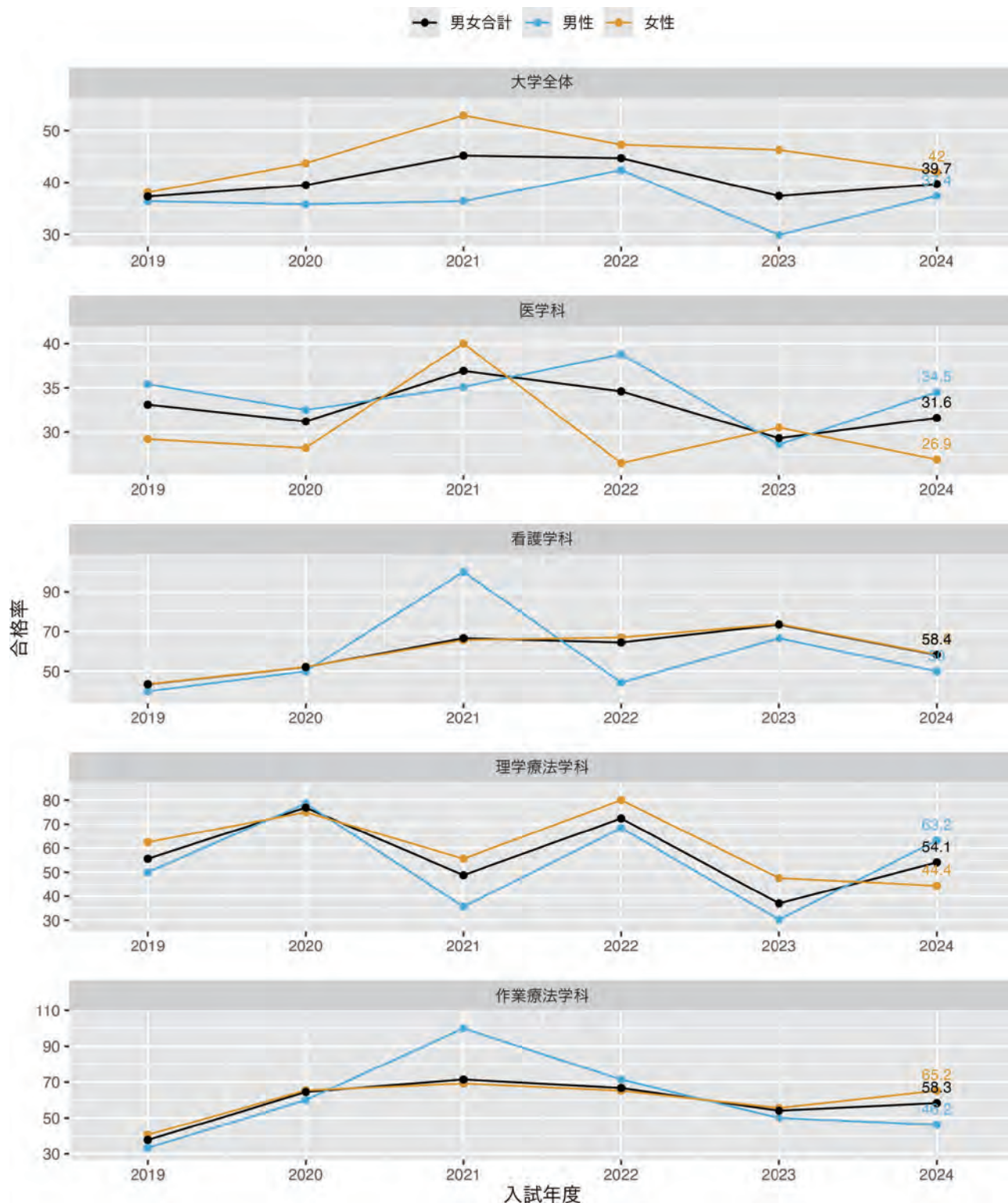
4.1.2 女子学生比率

女子学生比率 = 100 × 女子学生数 / 総学生数



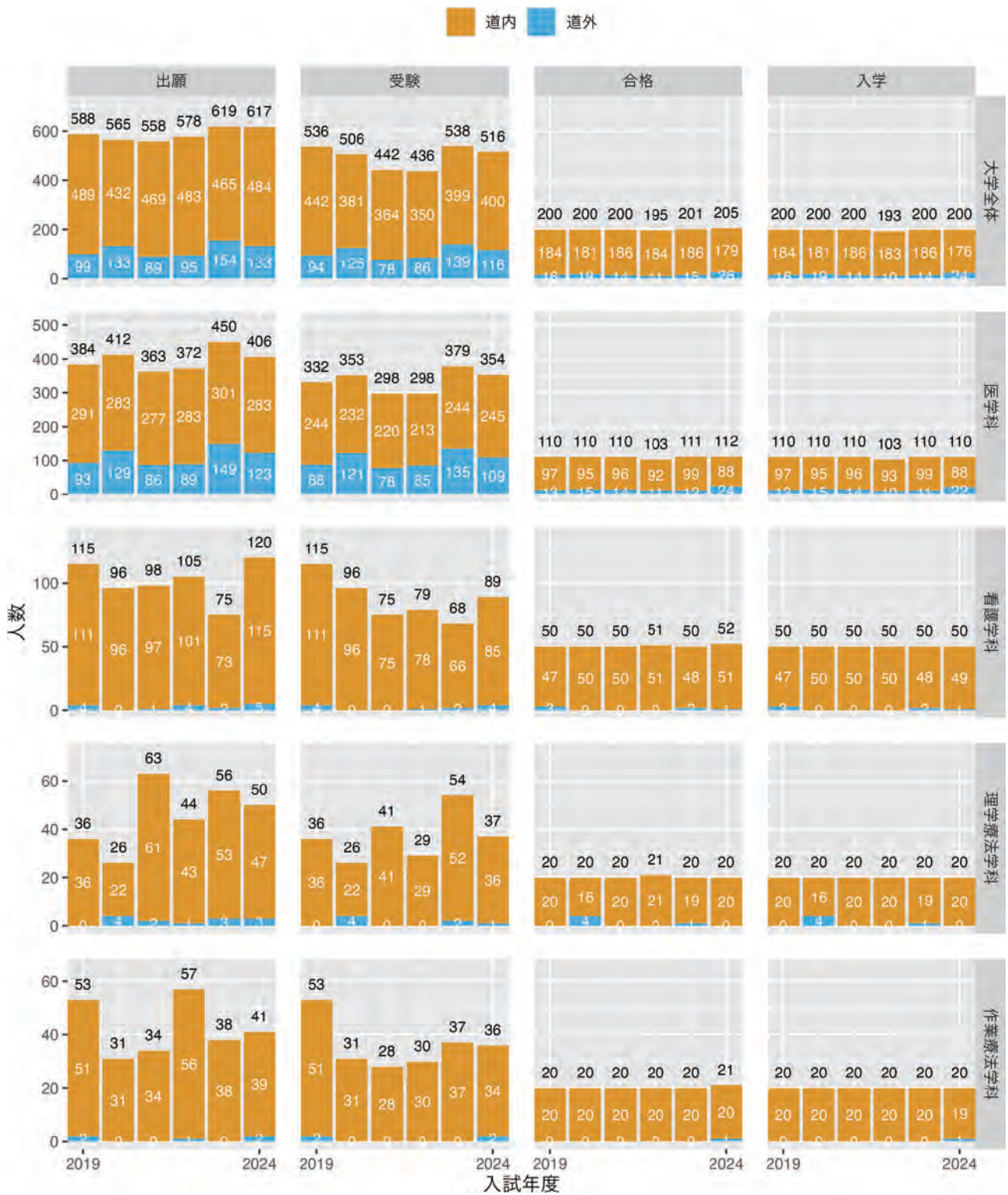
4.1.3 合格率

合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数



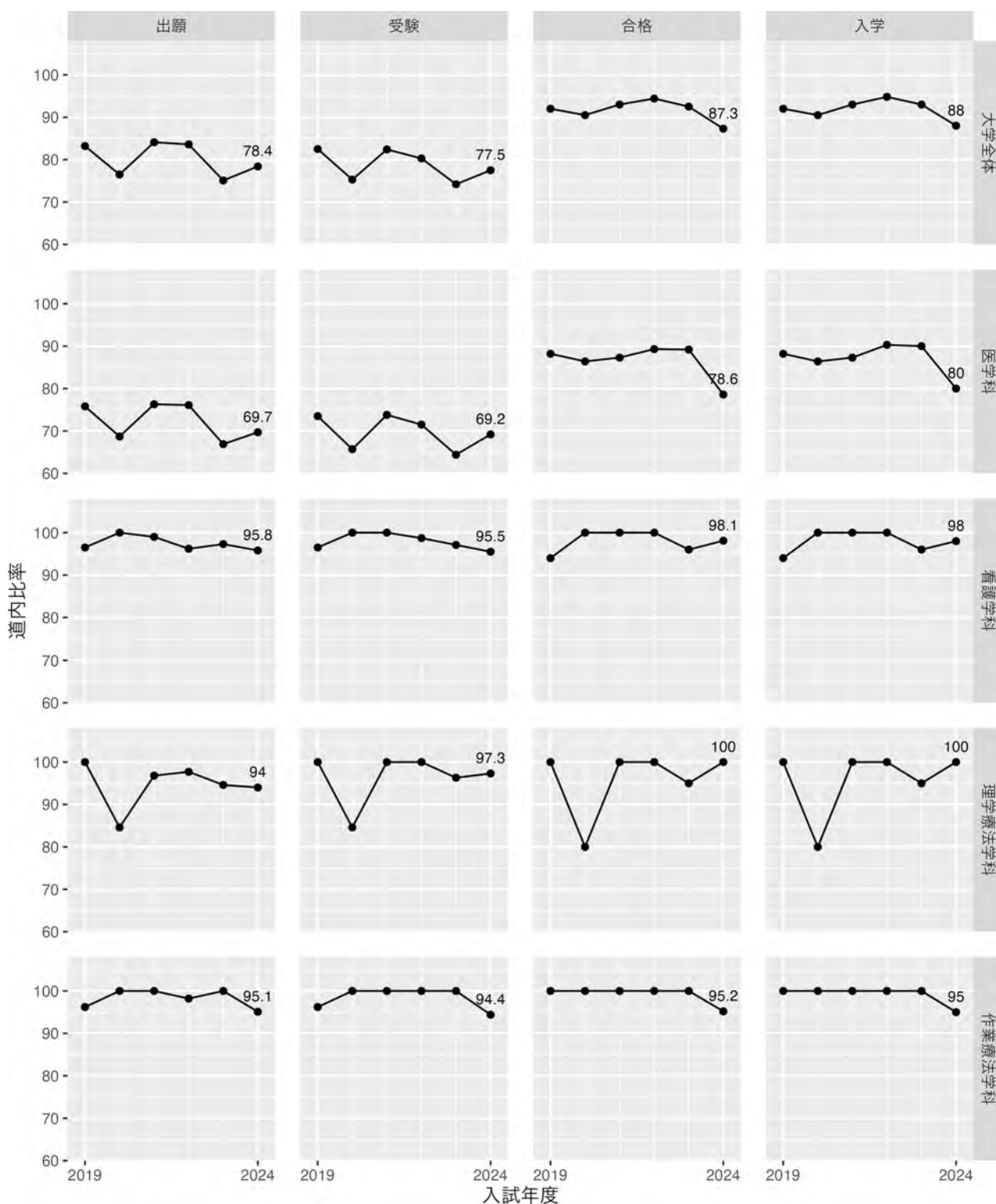
4.2 道内外

4.2.1 人数



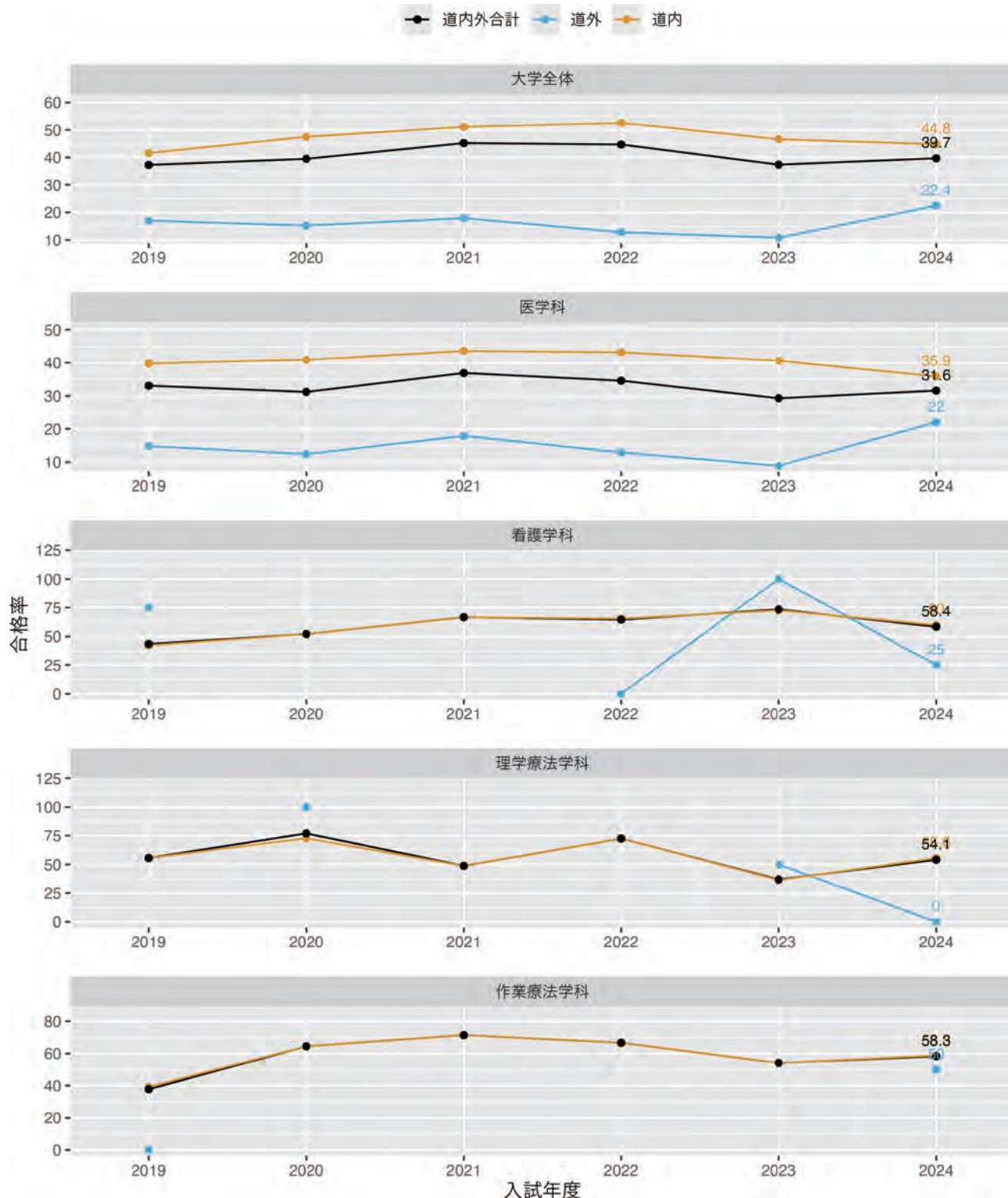
4.2.2 道内出身者比率

道内出身者率 = 100 × 道内出身者数 / 総学生数



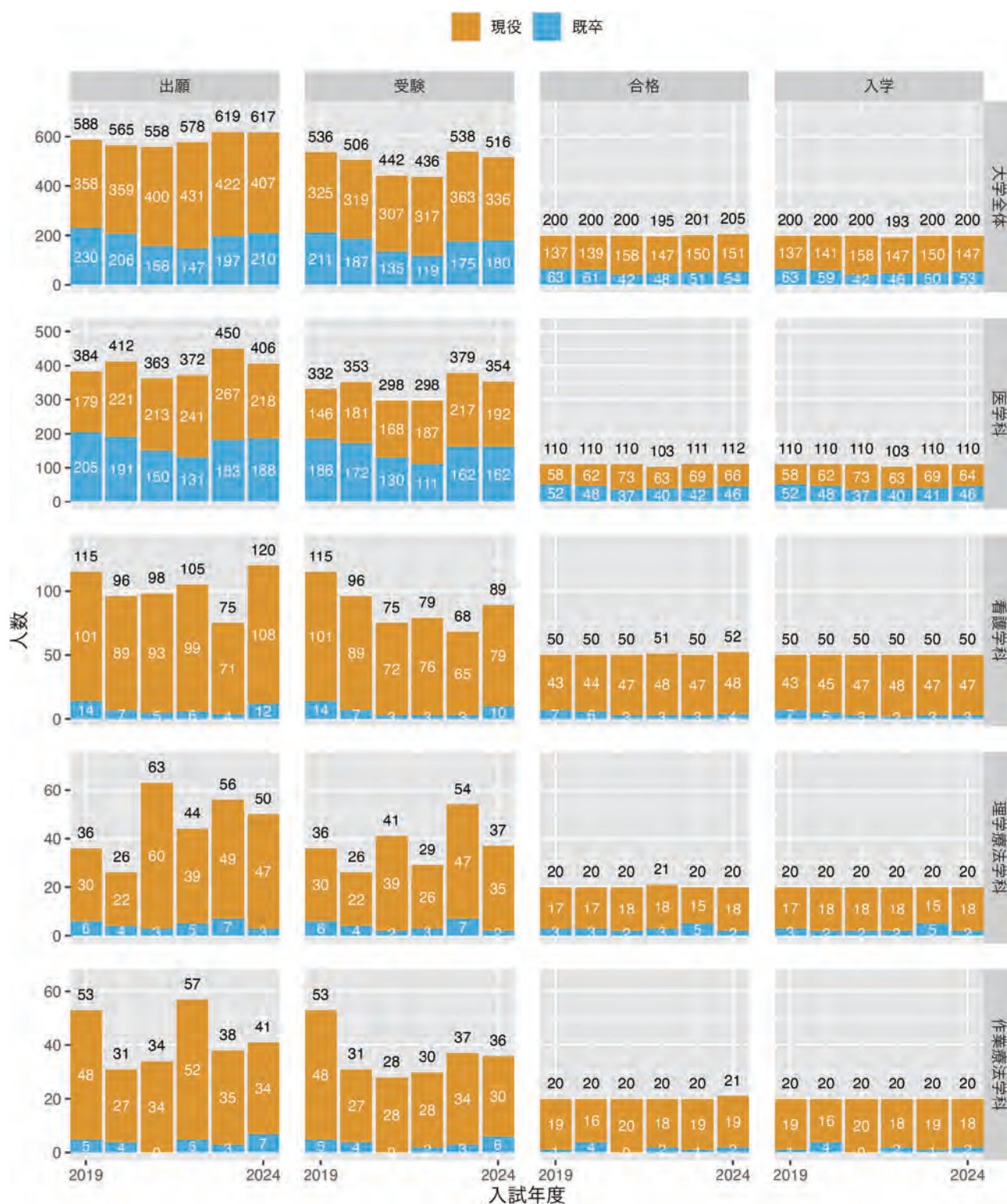
4.2.3 合格率

合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数



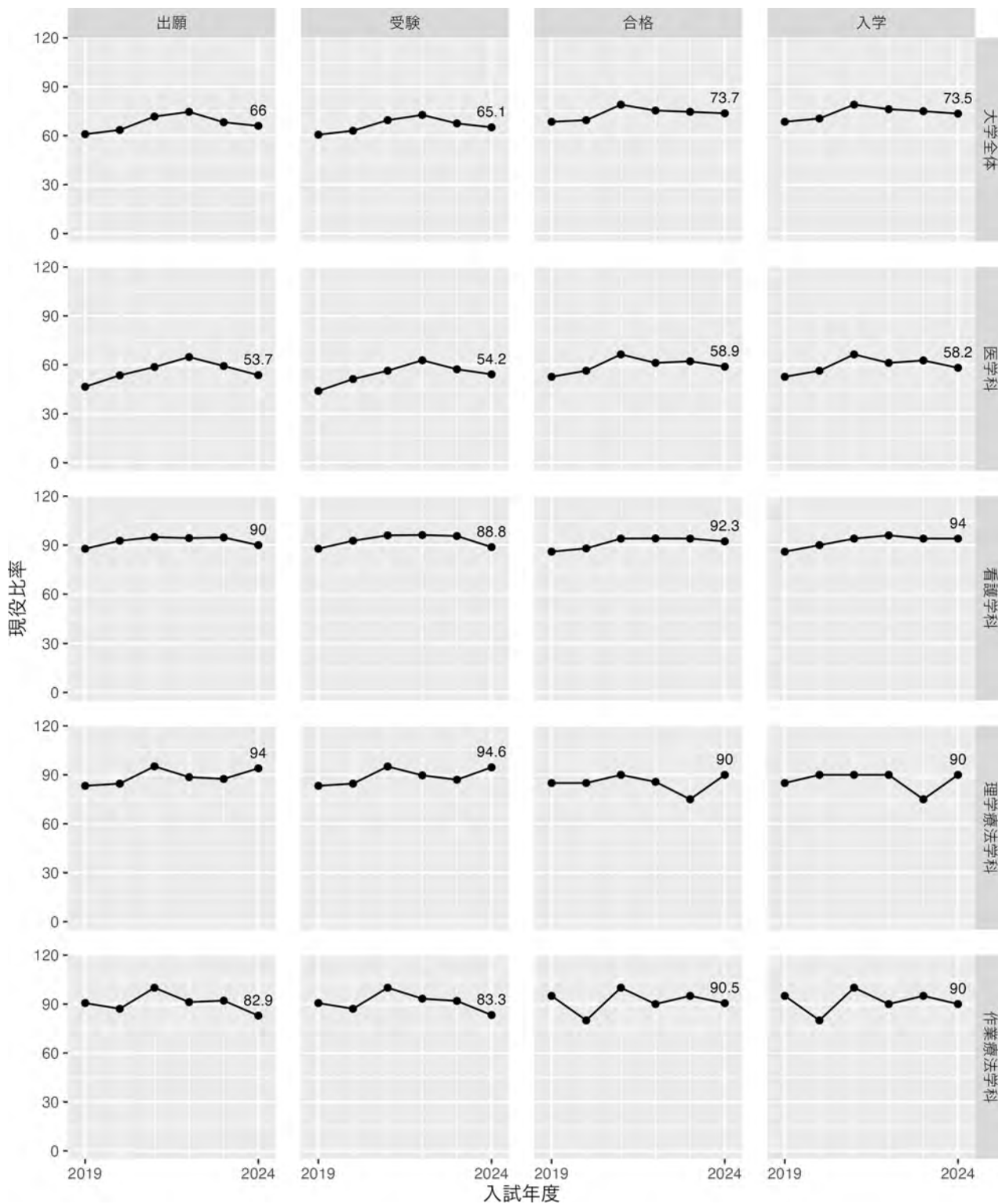
4.3 現役と既卒

4.3.1 人数



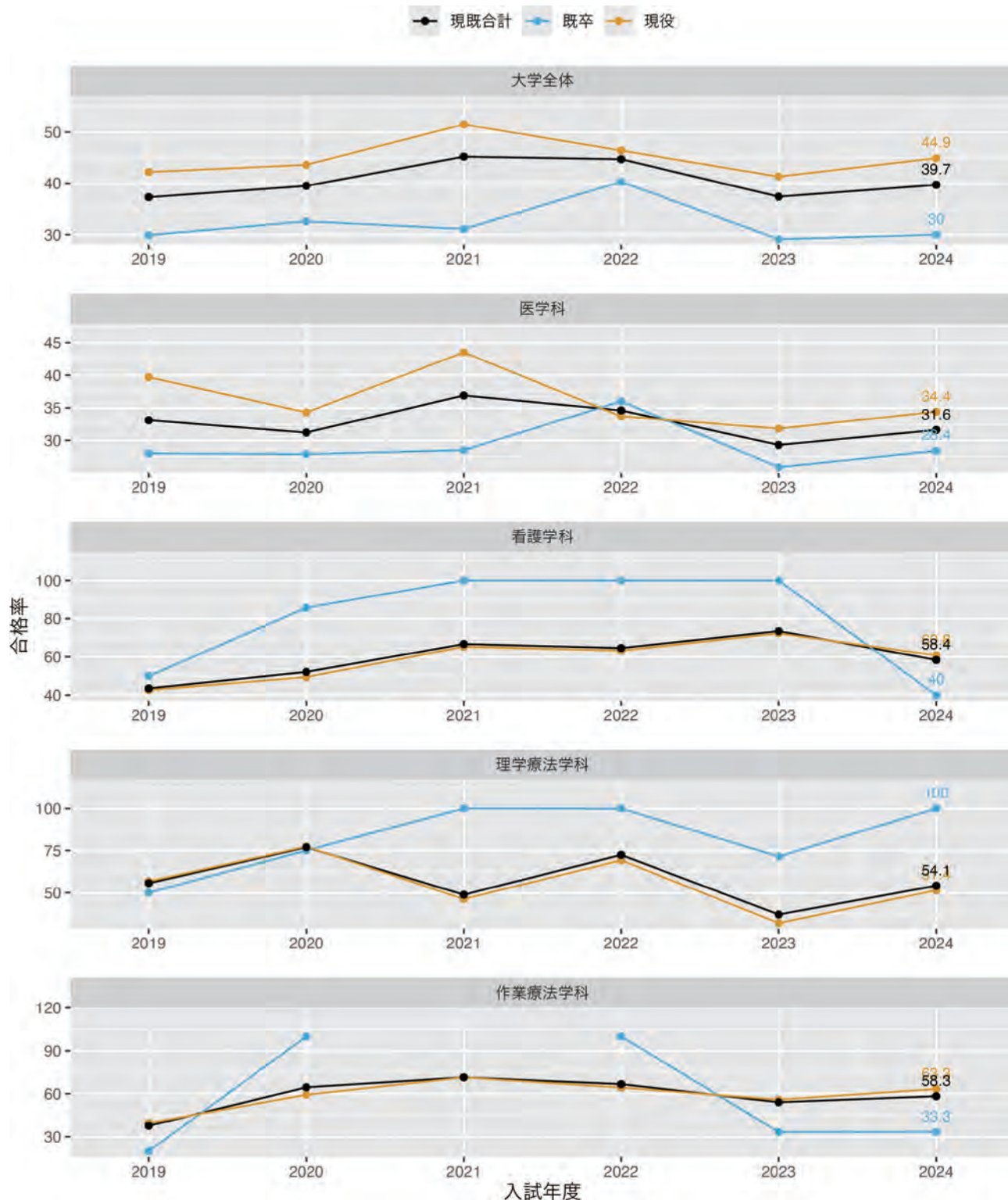
4.3.2 現役学生比率

現役学生比率 = 100 × 現役学生数 / 総学生数



4.3.3 合格率

合格率 = 100 × 合格者数 / 受験者数



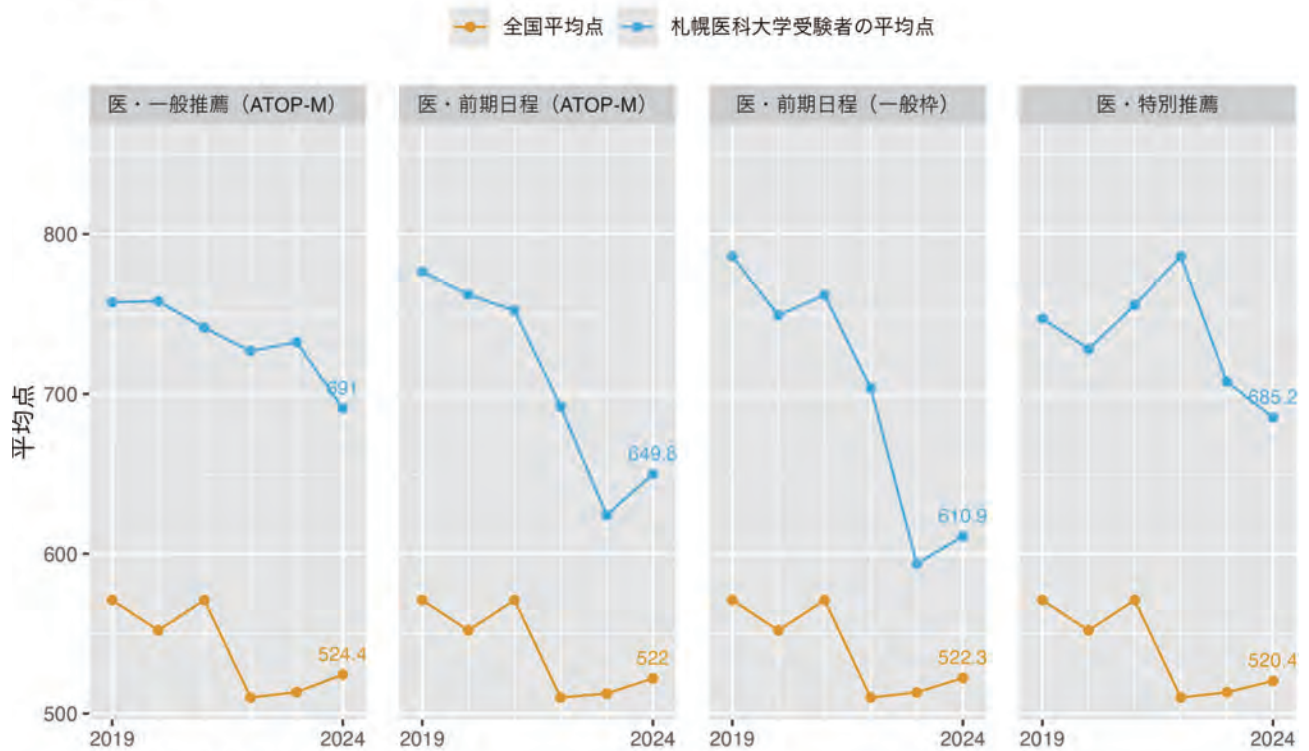
4.4 共通テスト（センター試験）

4.4.1 点数

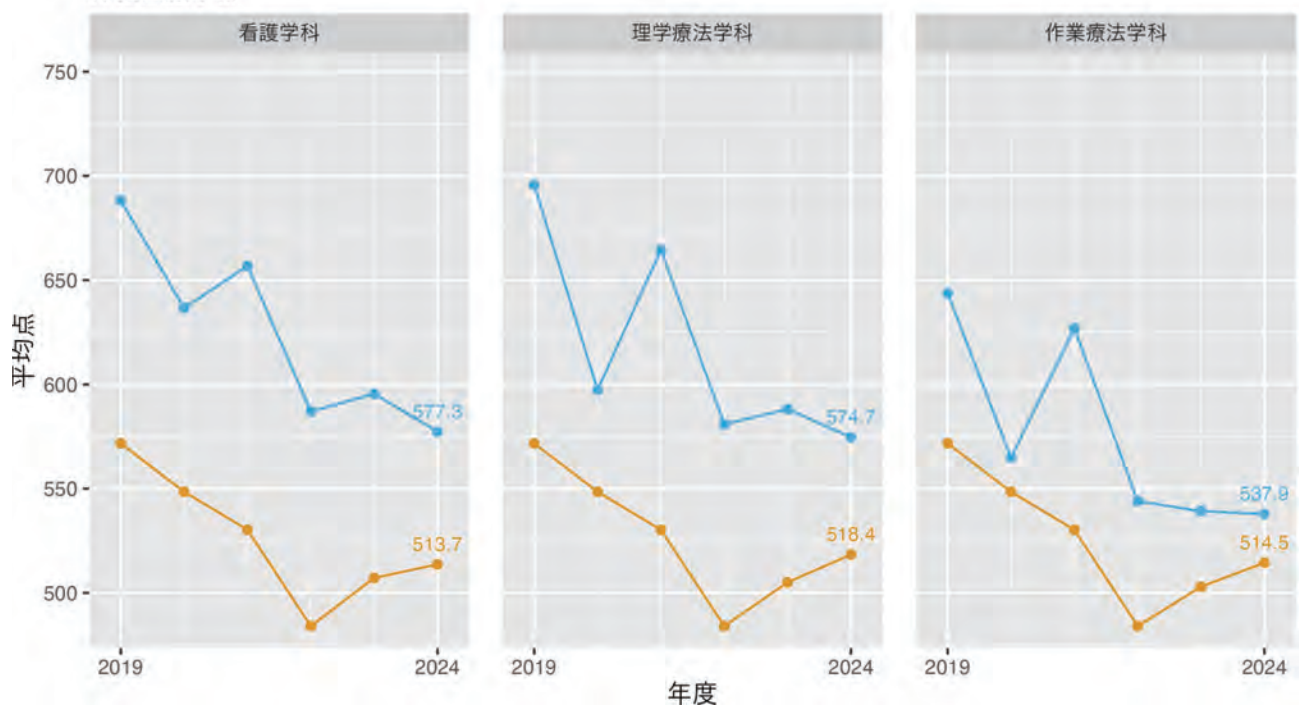
医学部：学科がひとつのみであるため、受験者ごとにわけました。満点は 900 点に換算しました。

保健医療学部：経過を追うことが可能なデータは一般枠のみですので、学科ごとにわけました。900 点に換算しました。

医学部

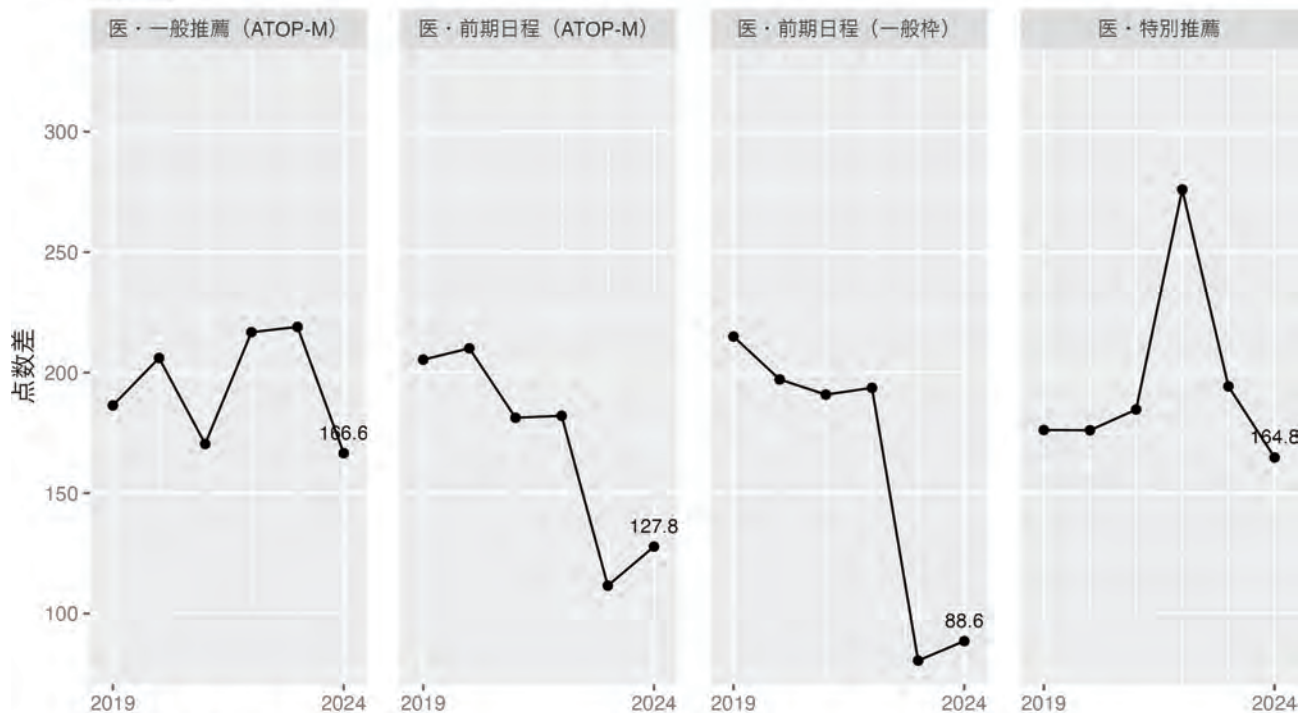


保健医療学部

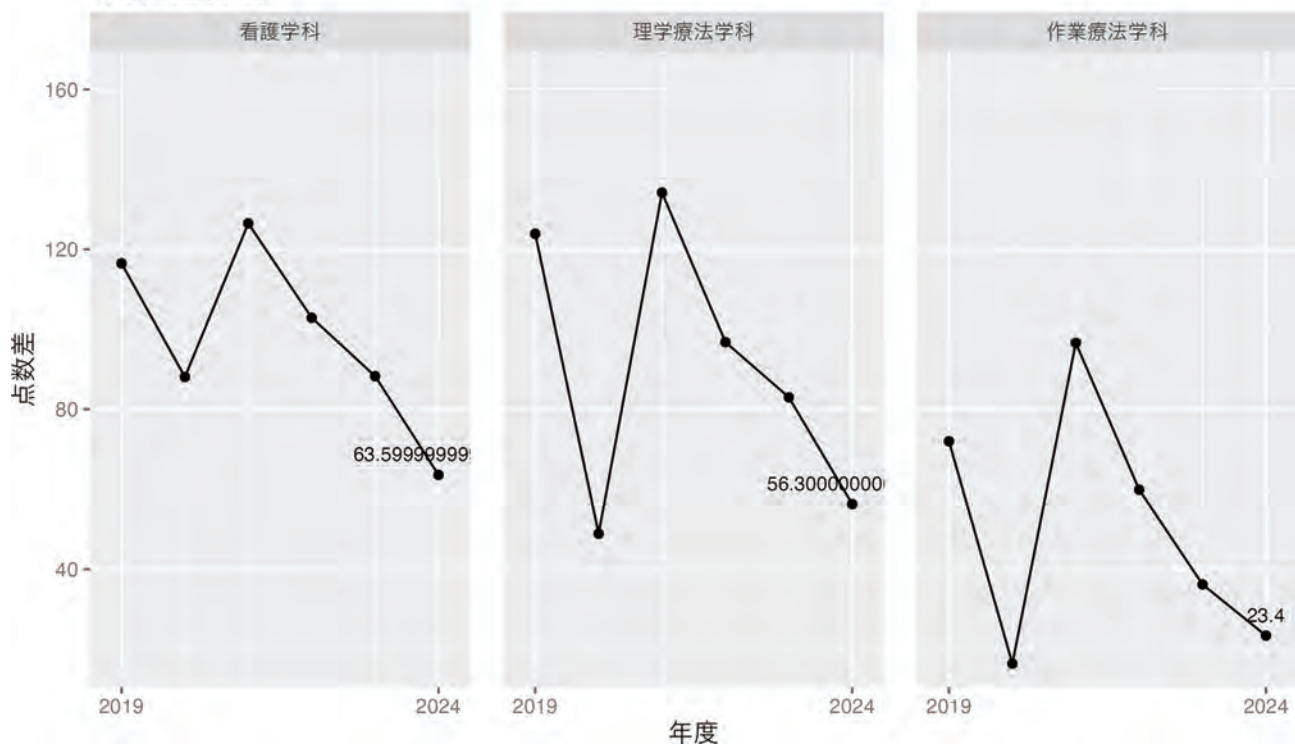


4.4.2 全国平均点との差

医学部



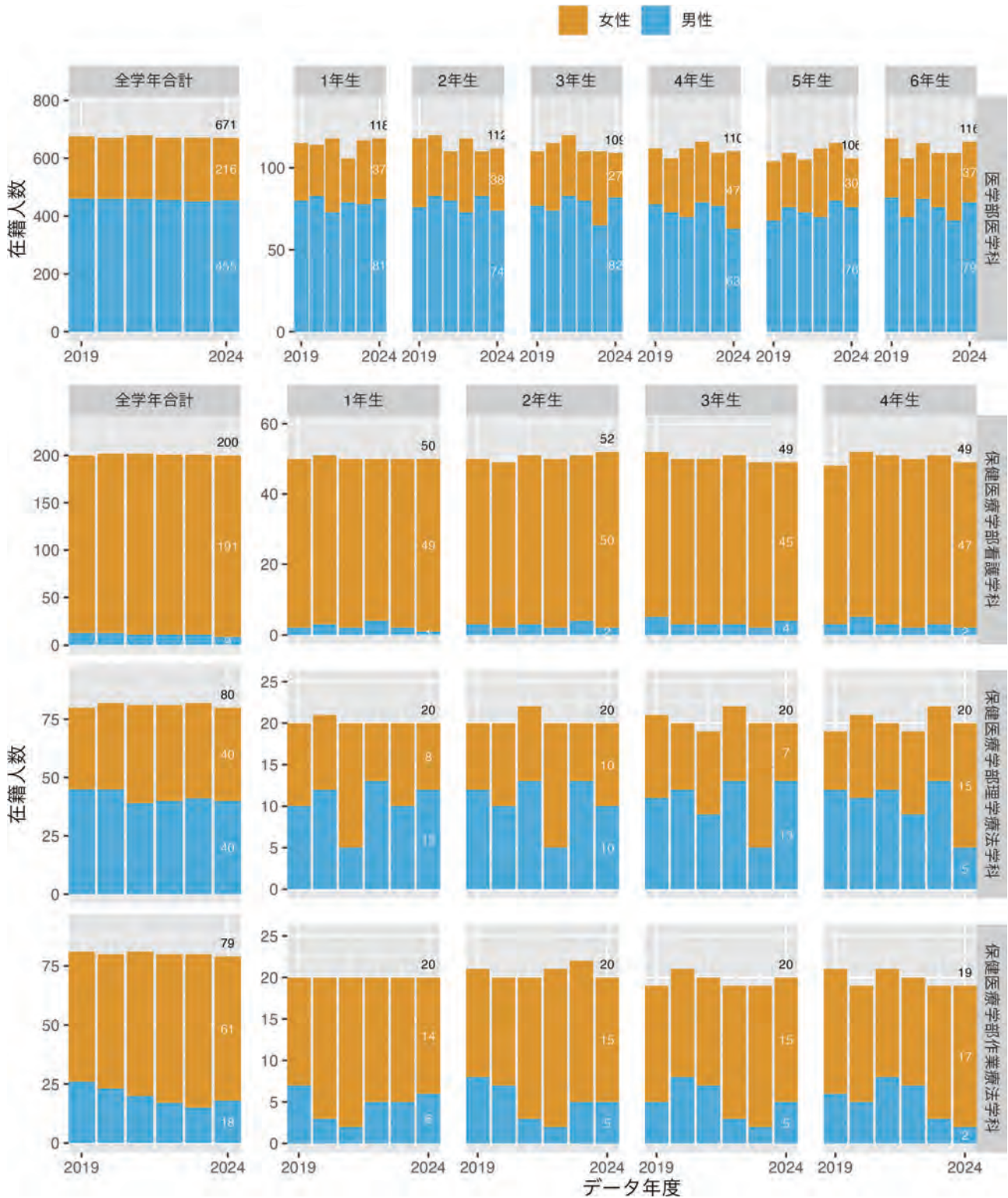
保健医療学部



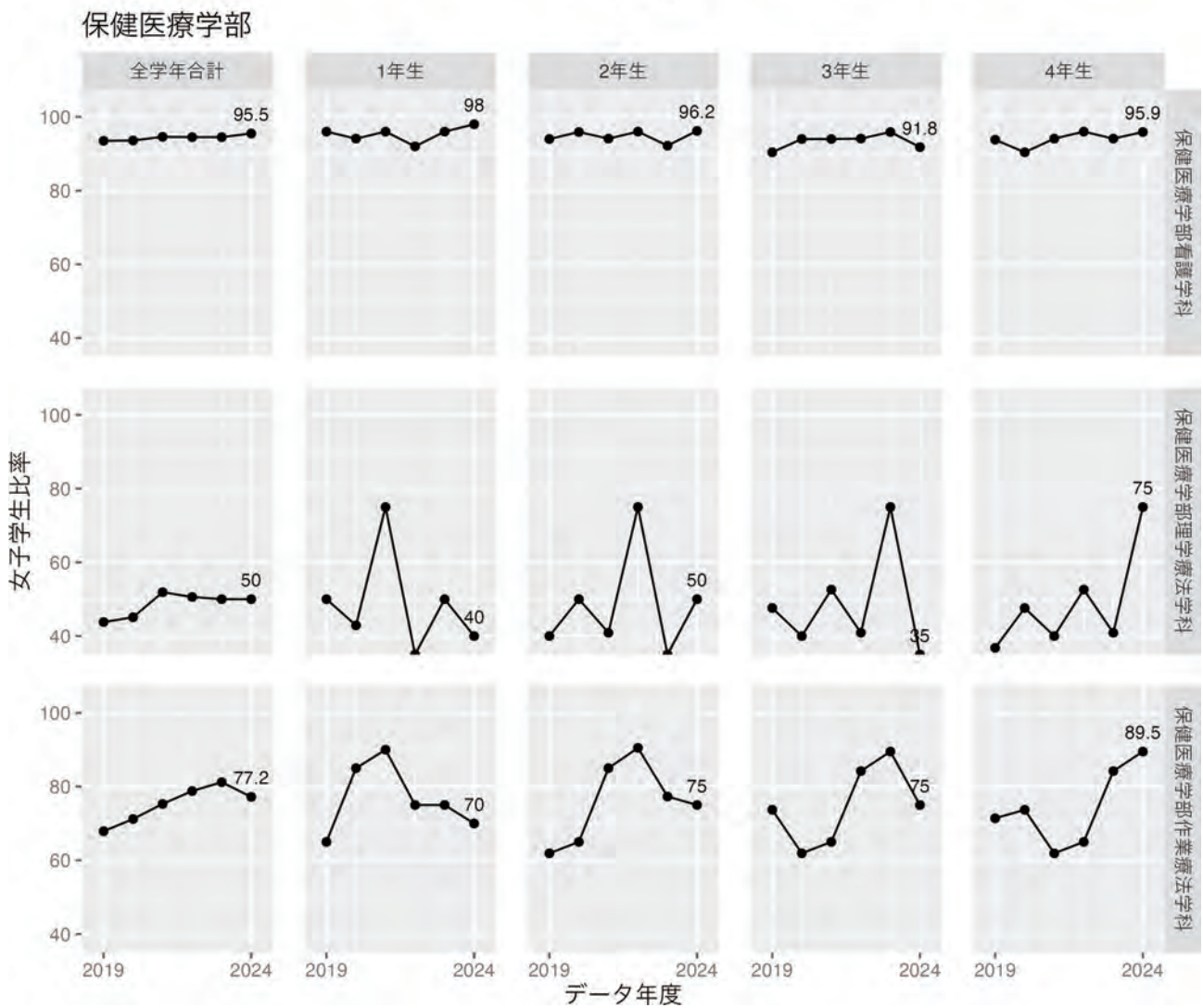
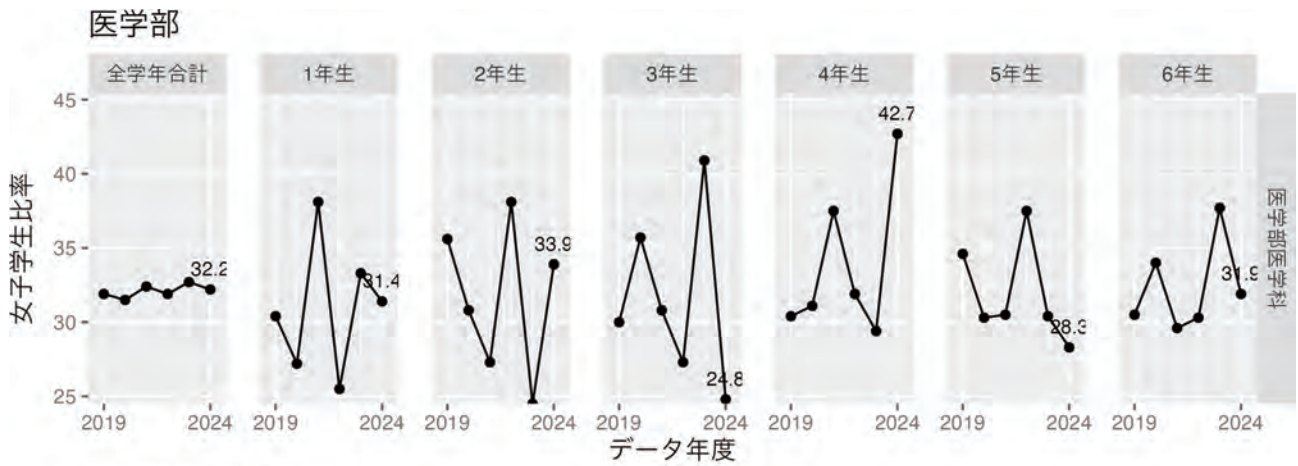
5. 在学生

各年度の4月1日時点のデータです。

5.1 在籍人数

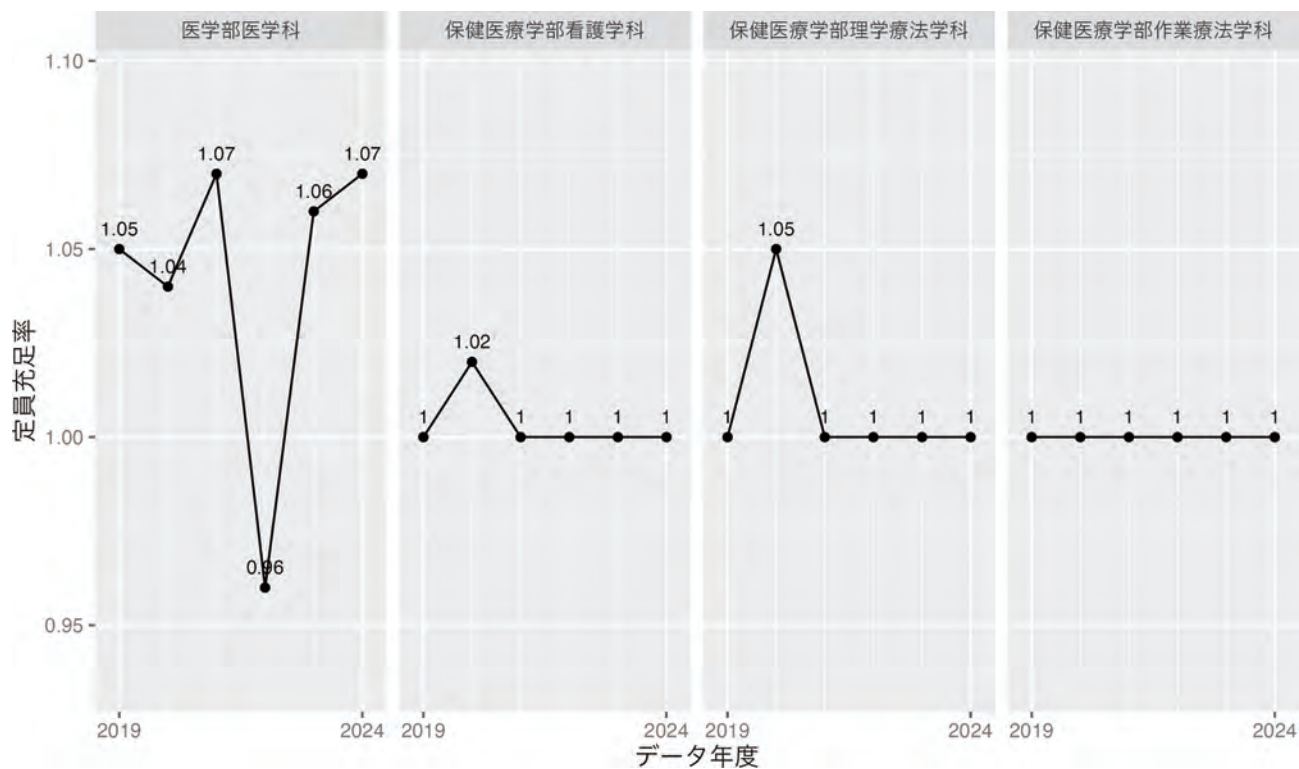


5.2 女子学生比率



5.3 定員充足率

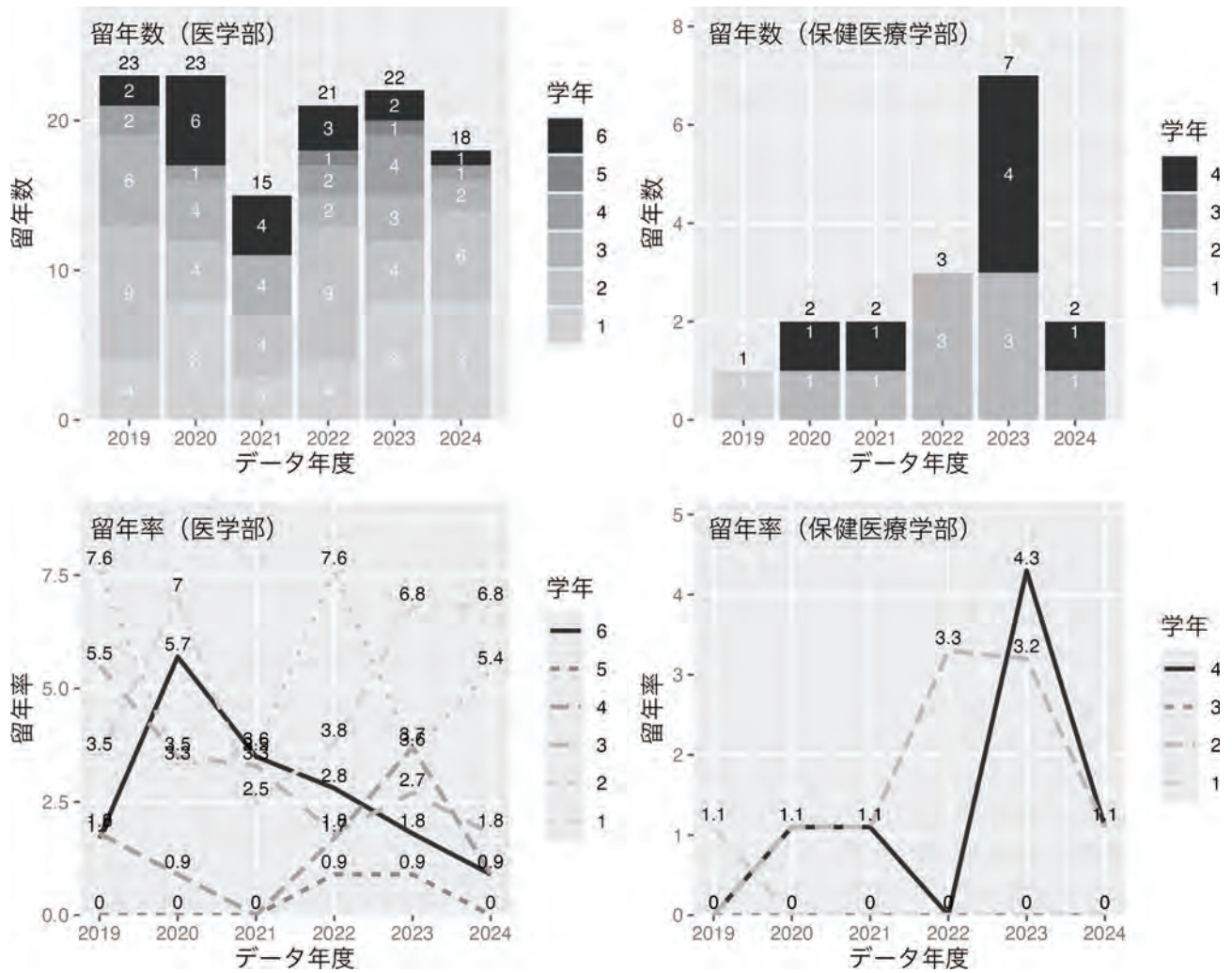
定員充足率 = 1年生の在籍人数 / 募集人数



5.4 留年人数と留年率

ここでの留年数とは、その年度に、次の年度へ留年し在学した学生数です。退学者は含めていません。例えば、医学部では2024年度に1年生は118人が在籍しており、そのうち8人が2024年度から2025年度にかけて留年したことを意味します。この8人には退学者は含めていません。

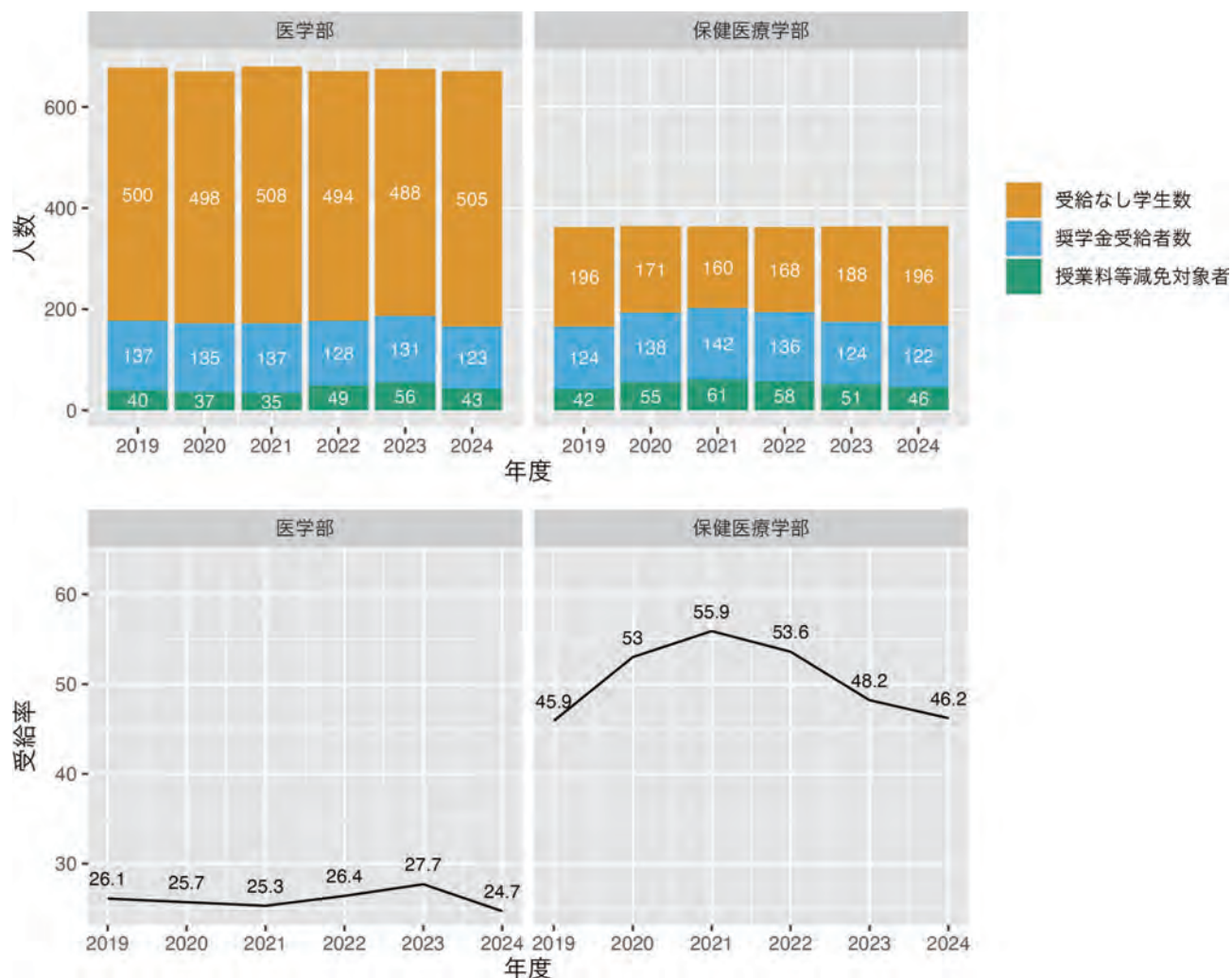
$$\text{留年率} = \text{留年数} / \text{在籍人数} \times 100$$



5.5 奨学金等人数と受給率

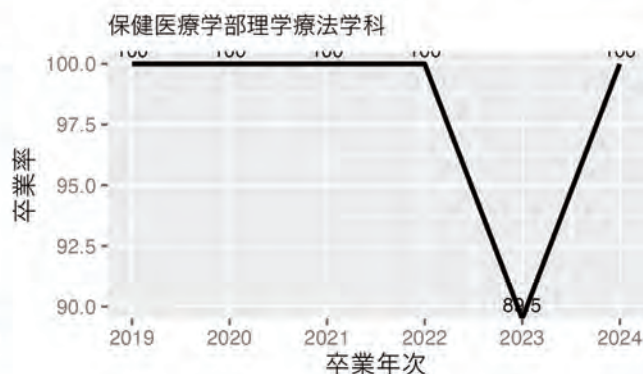
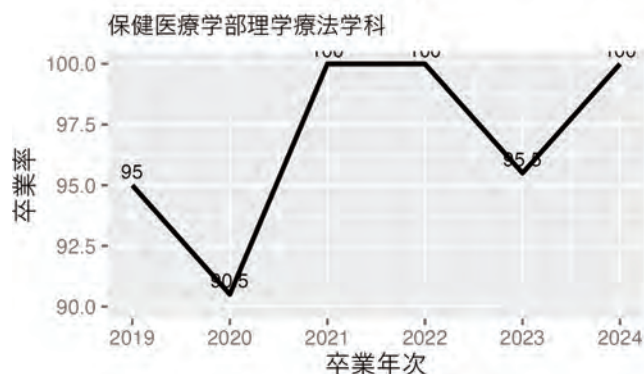
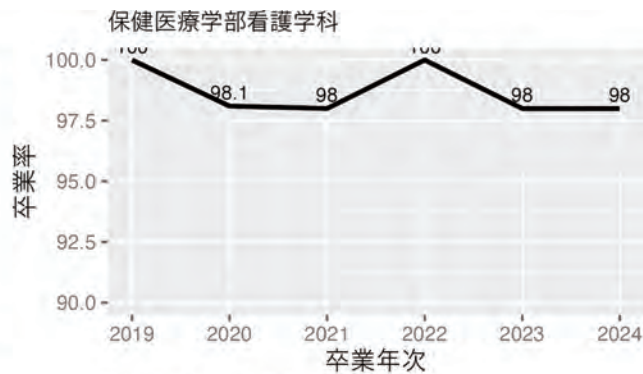
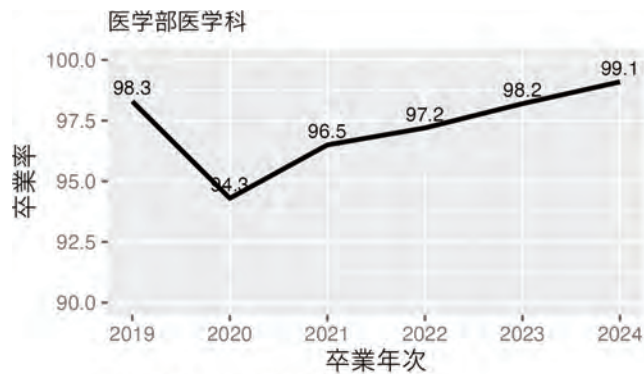
受給率 = 100 × (奨学金受給者数 + 授業料等減免対象者) / 全学生数

2020年度より高等教育の修学支援制度開始のため、授業料等減免対象者として、2020年度以降は独自と機構の合計の値を掲載しています。



5.6 卒業率

卒業率 = $100 \times \text{卒業者数} / \text{6年生の人数}$ (保健医療学部は4年生の人数)



6. 国家試験

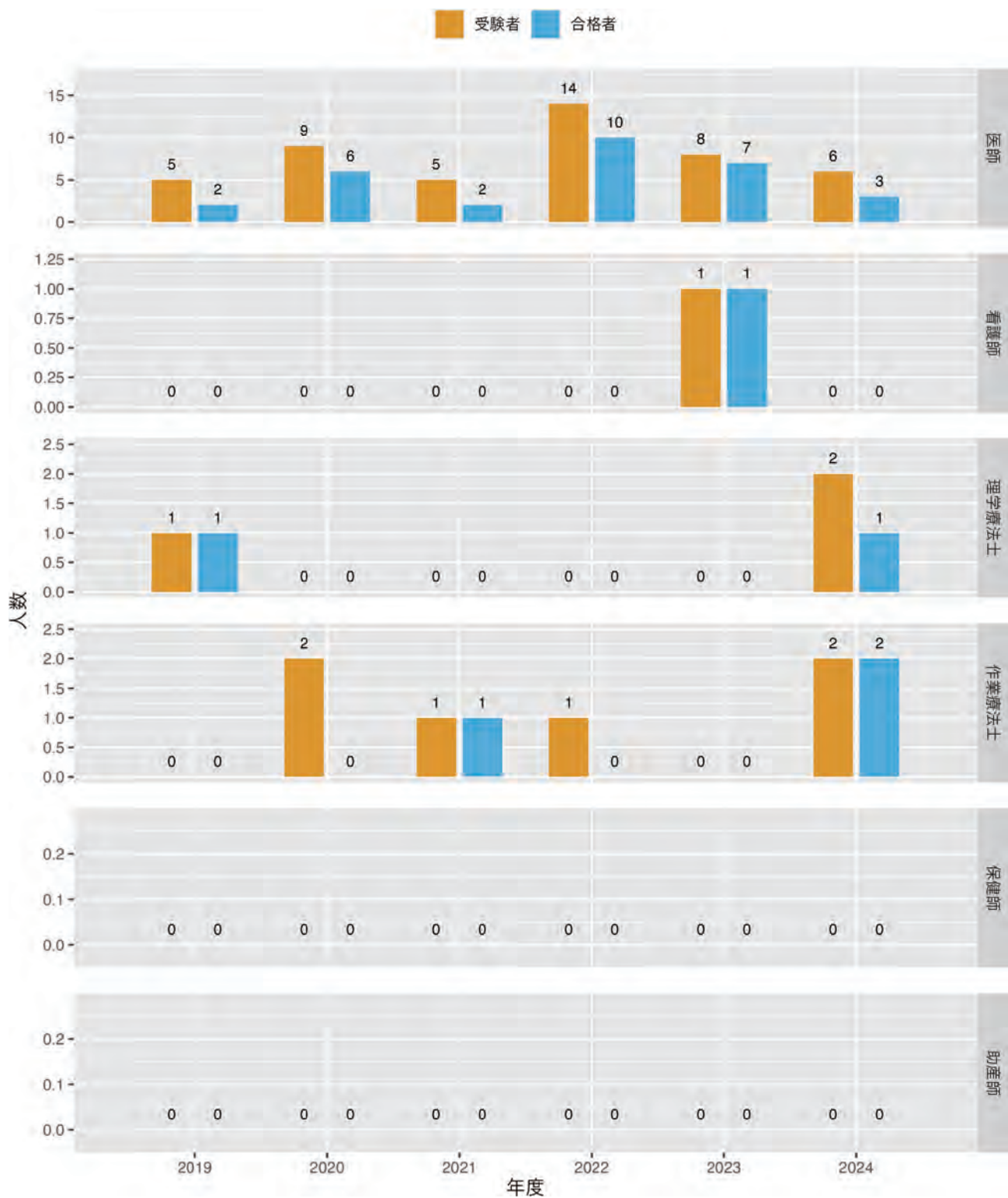
2024年4月1日時点での6年生（あるいは4年生）が2025年2月の国家試験を受験した結果です。

6.1 人数

6.1.1 新卒



6.1.2 既卒



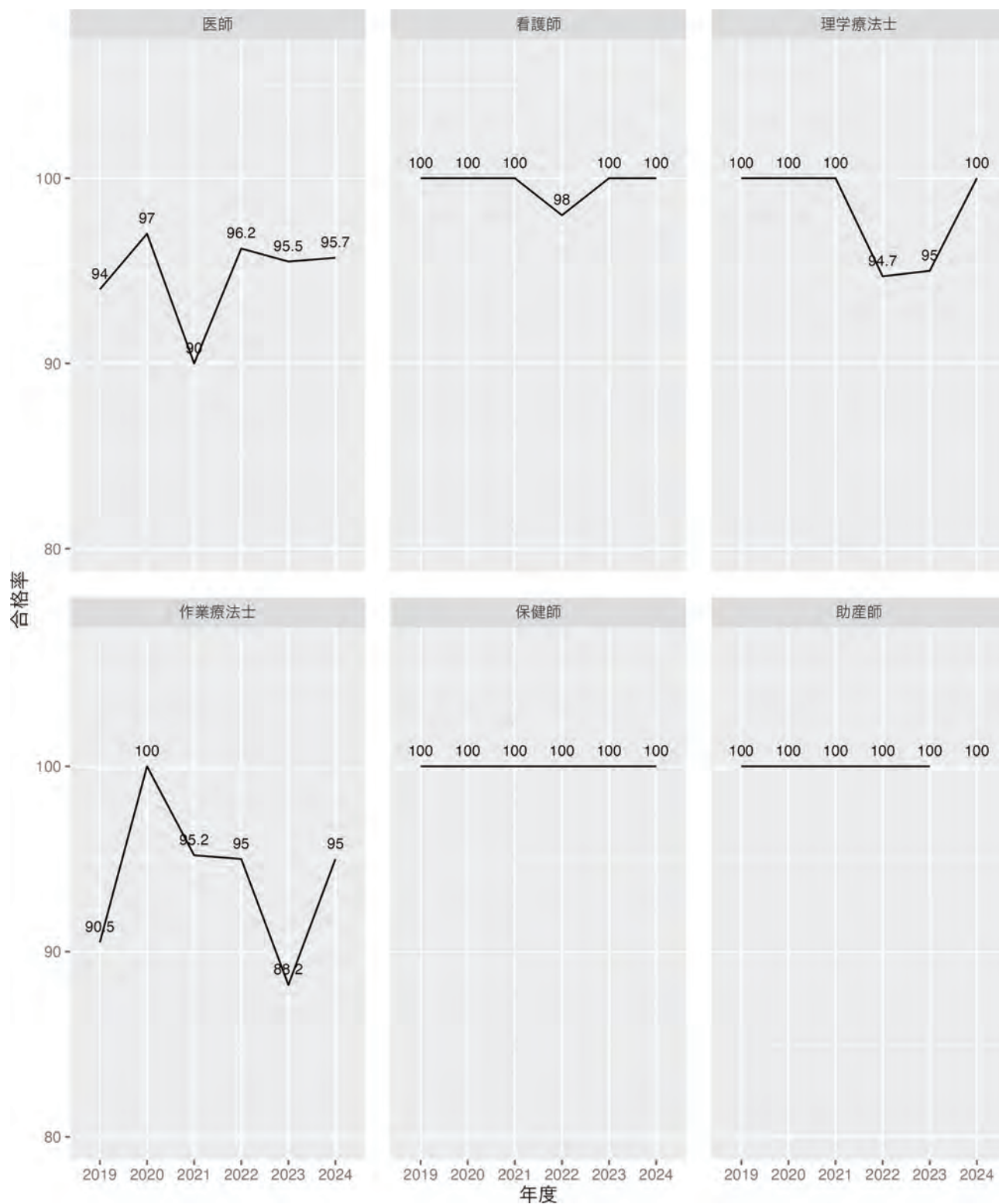
6.1.3 新卒と既卒の合計



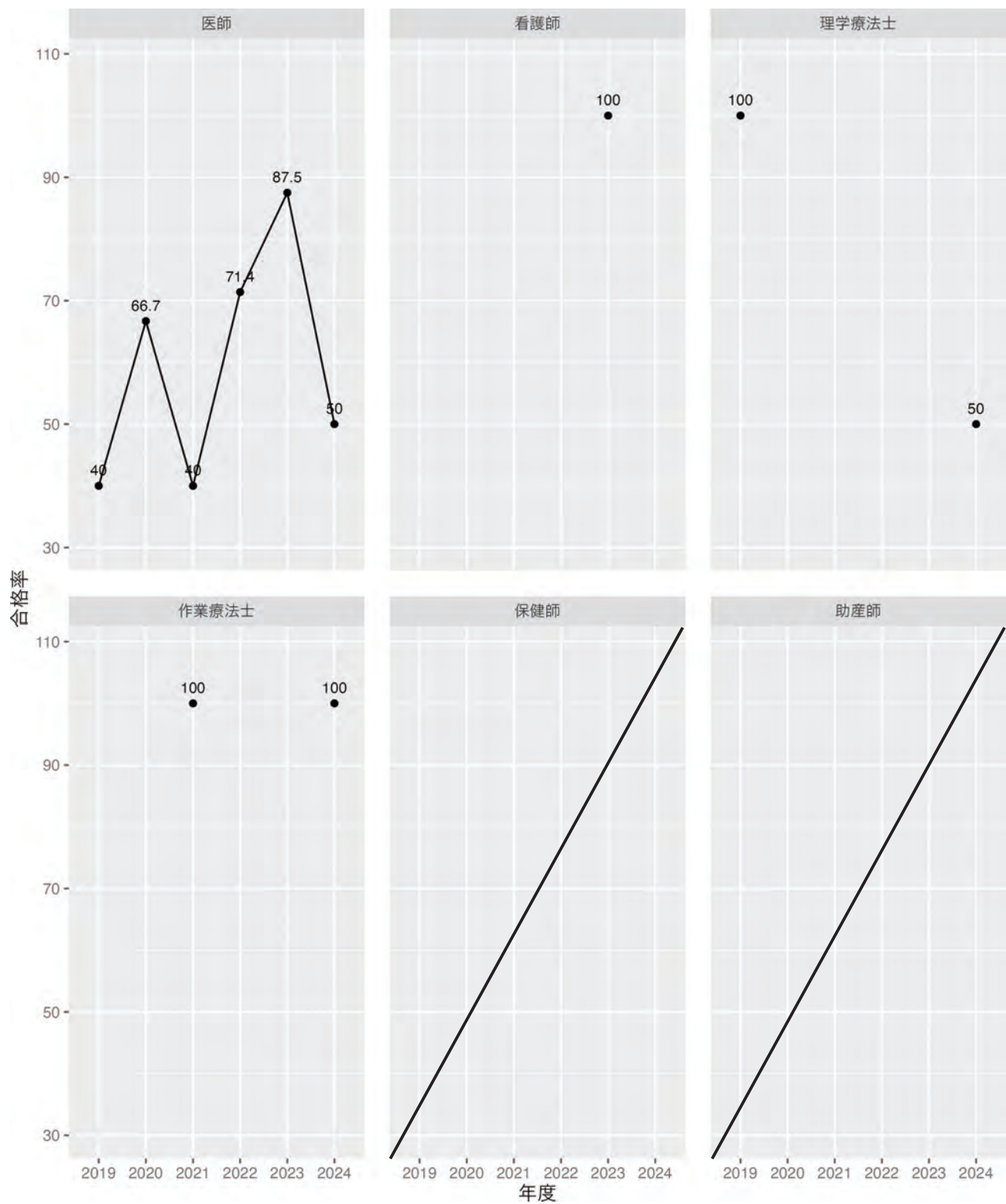
6.2 合格率

合格率 = $100 \times \text{合格者数} / \text{受験者数}$

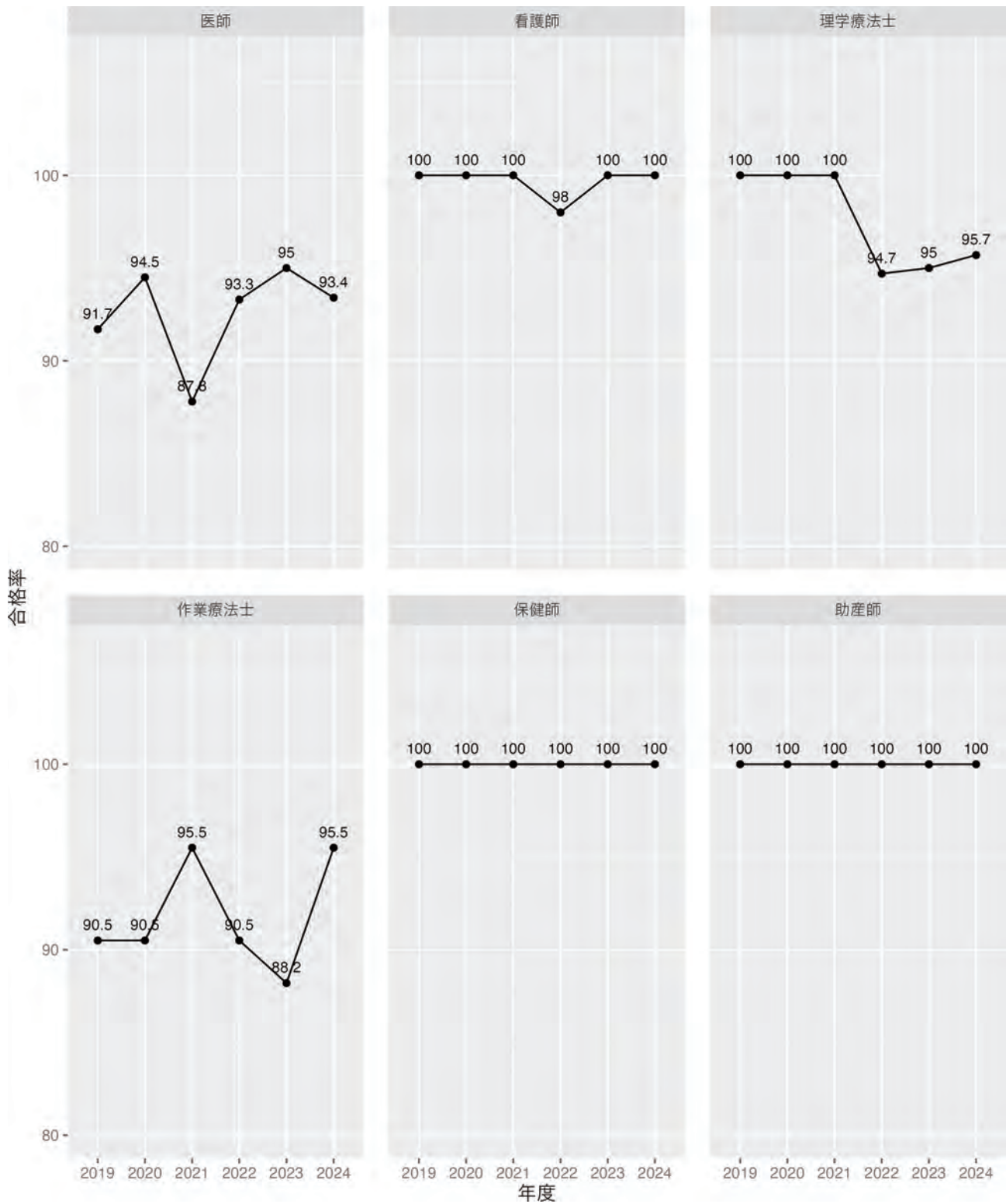
6.2.1 新卒



6.2.2 既卒



6.2.3 新卒と既卒の合計

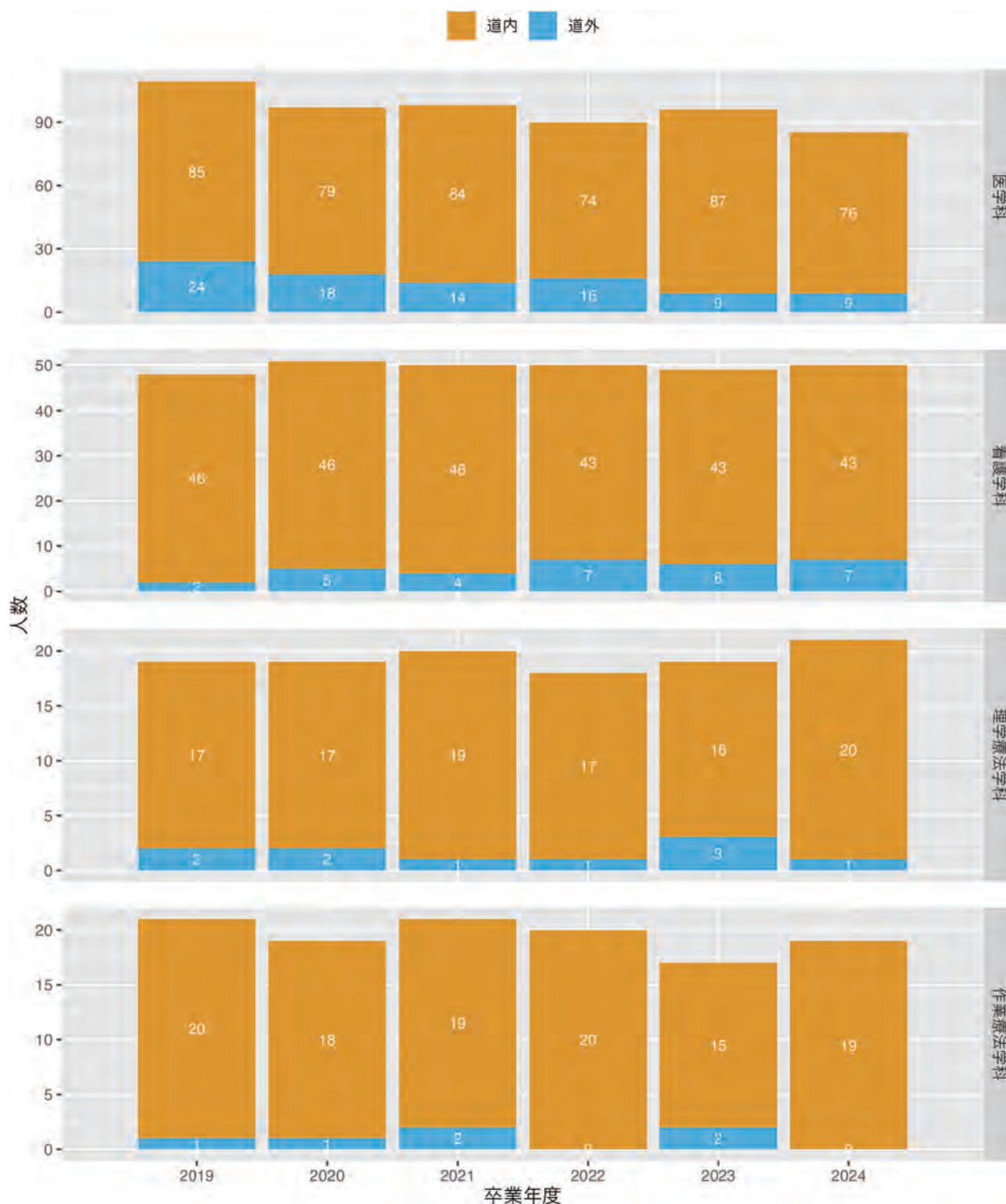


7. 卒業状況 初期研修・就職・進学先

7.1 両学部

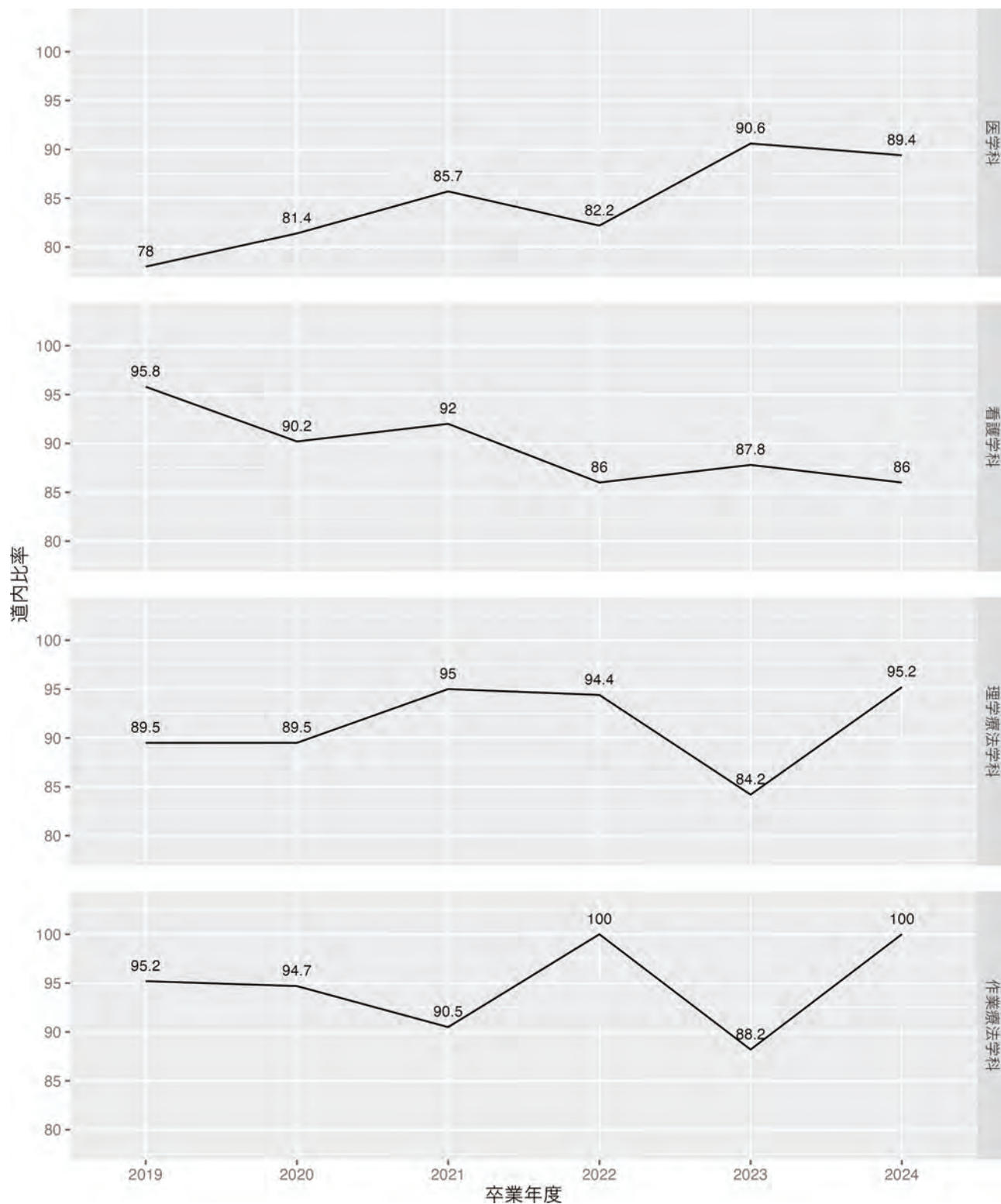
7.1.1 卒業進路の道内外（新卒者のみ）人数

進学も含まれているため、進学先が道内の場合は「道内」に含めました。



7.1.2 卒業進路の道内比率（新卒者のみ）

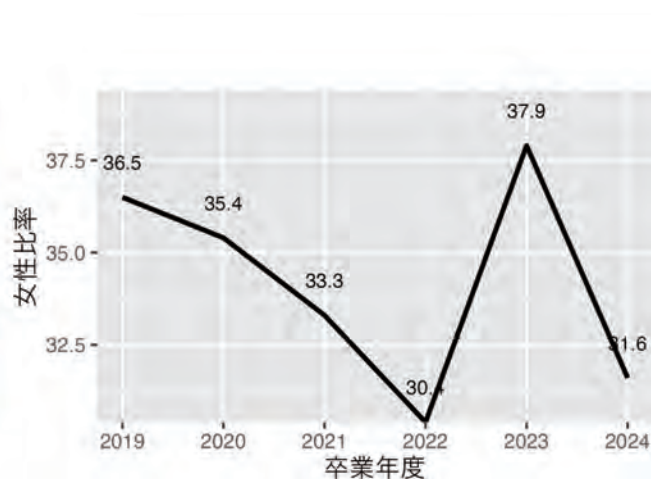
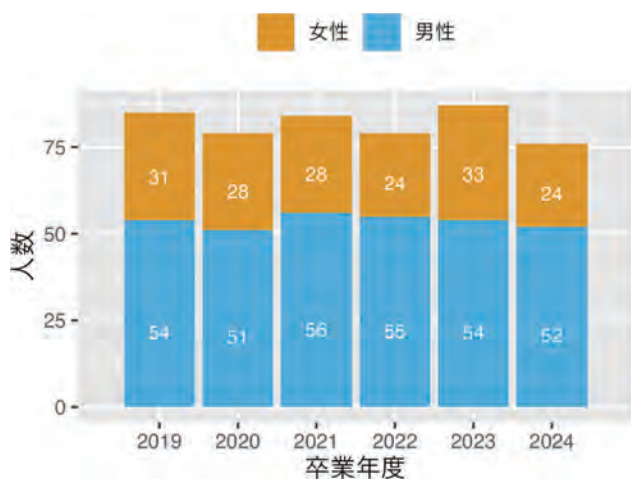
道内比率 = $100 \times \text{卒業進路が道内の人数} / \text{卒業生全員の人数}$



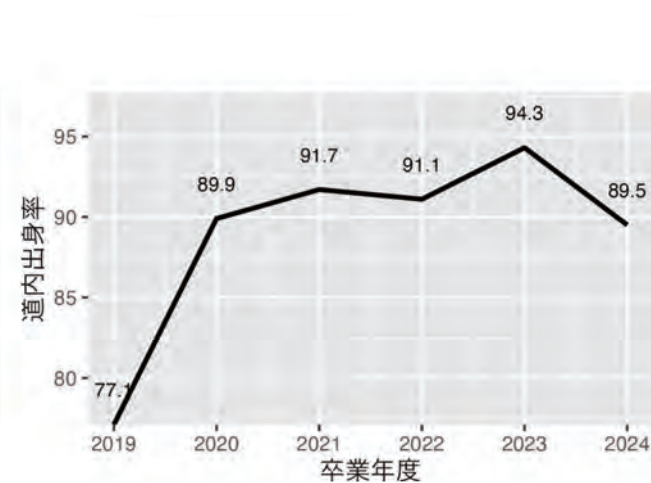
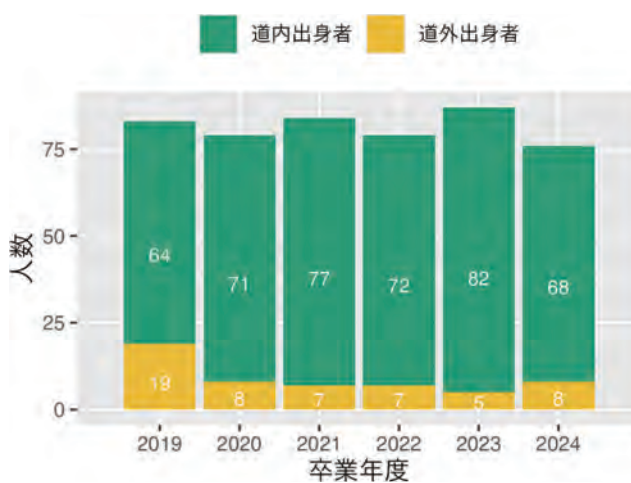
7.2 医学部

7.2.1 初期研修先が道内の卒業生のみ、かつ新卒者のみのデータ

性別ごとの人数とその比

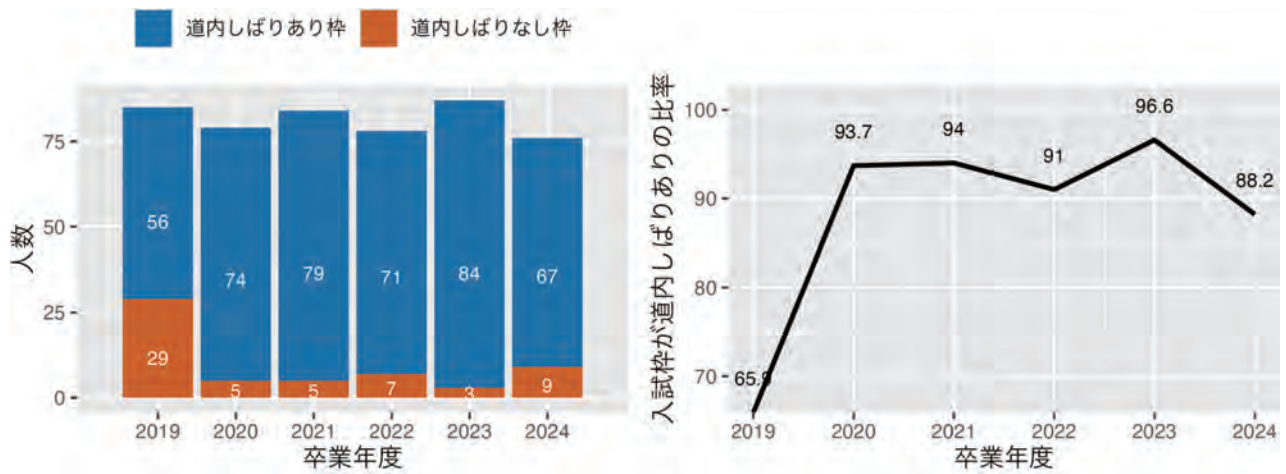


出身が道内か道外かの人数とその比



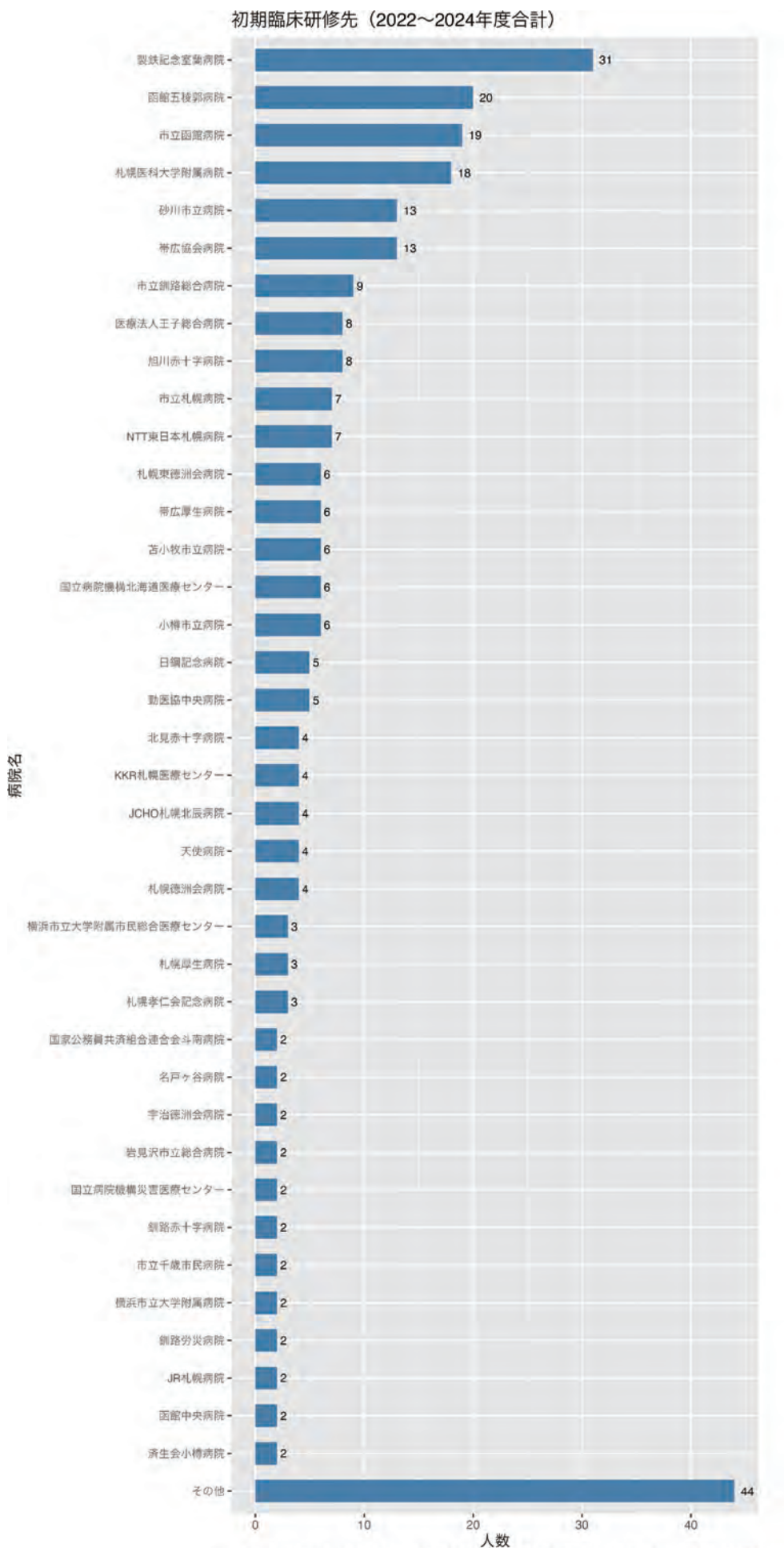
入試枠ごとの人数とその比（横軸が卒業年度であることに注意）

- 道内しほりあり枠 = 入試枠が、卒後に道内での研修を求めている枠（特別推薦、北海道医療枠、地域枠の合計）
- 道内しほりなし枠 = 求めているない枠（一般枠）



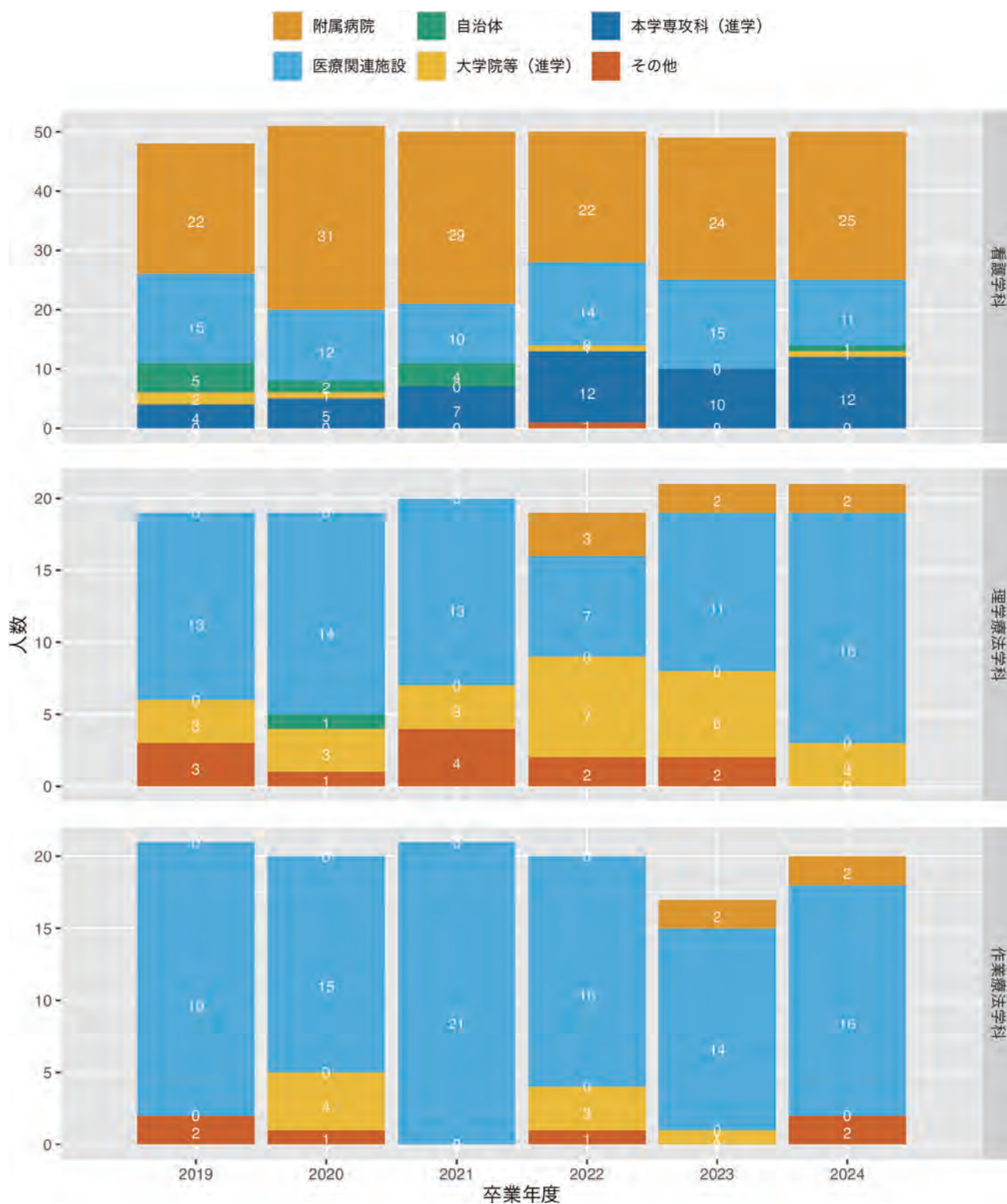
7.2.2 初期研修先 一覧

2022年度	2023年度	2024年度
北海道内	北海道内	北海道内
KKR札幌医療センター	JCHO札幌北辰病院	JR札幌病院
NTT東日本札幌病院	KKR札幌医療センター	KKR札幌医療センター
旭川赤十字病院	NTT東日本札幌病院	NTT東日本札幌病院
王子総合病院	札幌医科大学附属病院	旭川赤十字病院
小樽協会病院	旭川赤十字病院	王子総合病院
小樽市立病院	王子総合病院	岩見沢市立総合病院
帯広協会病院	勤医協中央病院	勤医協中央病院
帯広厚生病院	釧路赤十字病院	砂川市立病院
北見赤十字病院	釧路労災病院	済生会小樽病院
勤医協中央病院	江別市立病院	災害医療センター
五稜郭病院	砂川市立病院	札幌医科大学附属病院
済生会小樽病院	札幌厚生病院	札幌厚生病院
札幌医科大学附属病院	札幌孝仁会記念病院	札幌孝仁会記念病院
札幌東徳洲会病院	札幌東徳洲会病院	札幌徳洲会病院
市立釧路総合病院	札幌北辰病院	札幌北辰病院
市立札幌病院	市立釧路総合病院	市立釧路総合病院
市立千歳市民病院	市立札幌病院	市立札幌病院
市立函館病院	市立室蘭総合病院	市立函館病院
市立室蘭総合病院	市立千歳市民病院	小樽市立病院
砂川市立病院	市立函館病院	製鉄記念室蘭病院
製鉄記念室蘭病院	小樽協会病院	帯広協会病院
天使病院	小樽市立病院	帯広厚生病院
苫小牧市立病院	製鉄記念室蘭病院	天使病院
函館五稜郭病院	帯広協会病院	東徳洲会病院
北海道医療センター	帯広厚生病院	函館医療センター
留萌市立病院	天使病院	函館五稜郭病院
斗南病院	斗南病院	函館中央病院
	苫小牧市立病院	北海道医療センター
	函館五稜郭病院	北見赤十字病院
	函館中央病院	留萌市立病院
	北海道医療センター	
北海道外	北海道外	北海道外
うわまち病院	SUBARU健康保険組合太田記念病院	宇治徳洲会病院
上飯田病院	大阪急性期・総合医療センター	横浜市立大学医療センター
京都民医連中央病院	横浜市立市民病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター
公立西知多総合病院	横浜市立大学附属市民総合医療センター	横浜市立大学附属病院
国立埼玉病院	国立病院	機構災害医療センター沖縄県立宮古病院
坂総合病院	市立大津市民病院	沖縄県立南部医療センター
新百合ヶ丘総合病院	湘南鎌倉総合病院	金沢医療センター
西部医療センター	新潟大学医歯学総合病院	彩の国東大宮メディカルセンター
聖隷横浜病院	天理よろづ相談所病院	済生会川口総合病院
千葉徳洲会病院	東京慈恵医科大学附属柏病院	社会医療法人仁愛会浦添総合病院
筑波大学附属病院	東京都立多摩南部地域病院	川崎幸病院
東京都立墨東病院・千葉大学病院	板橋中央総合病院	東京都立多摩総合医療センター
東部地域病院	名戸ヶ谷病院	深谷赤十字病院
野崎徳洲会病院	和泉市立総合医療センター	
船橋市立医療センター		
横浜市立大学医学部附属センター		
横須賀共済病院		



7.3 保健医療学部

7.3.1 人数内訳



7.3.2 就職・進学先 一覧（看護学科）

2022年度	2023年度	2024年度
医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設
帯広協会病院	札幌医科大学附属病院	旭山病院
札幌医科大学附属病院	国家公務員共済組合連合会虎の門病院	慶應義塾大学病院
北里大学病院	さっぽろ香雪病院	航空保安大学校（航空管制官）
北見赤十字病院	済生会横浜市東部病院	済生会横浜市東部病院
国立がん研究センター中央病院	道立子ども総合医療・療育センター	札幌医科大学附属病院
国家公務員共済組合連合会虎の門病院	国立国際医療研究センター病院	日本医科大学多摩永山病院
札幌中央病院	大谷地病院	北海道立子ども医療・療育センター
札幌禎心会病院	東京慈恵会医科大学葛飾医療センター	医仁会中村記念病院
製鉄記念室蘭病院	札幌禎心会病院	国立がん研究センター中央病院
筑波大学附属病院	日本医科大学付属病院	千葉大学医学部附属病院
手稲溪仁会病院	訪問看護ステーション禎心会東	東京科学大学病院（旧東京医科歯科大学病院）
東京大学医学部附属病院	JCHO札幌北辰病院	
長野市民病院	時計台記念病院	
	森山病院	
自治体（保健師等）	自治体（保健師等）	自治体（保健師等）
なし	なし	公務員
進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）
札幌医科大学公衆衛生看護学専攻	札幌医科大学公衆衛生看護学専攻	札幌医科大学公衆衛生看護学専攻
札幌医科大学助産学専攻	札幌医科大学助産学専攻	札幌医科大学助産学専攻
札幌市立大学助産学専攻科		北海道教育大学函館校養護教諭特別科
西南女学院大学助産別科		

7.3.3 就職・進学先 一覧（理学療法学科）

2022年度	2023年度	2024年度
医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設
羊ヶ丘病院 北斗病院・十勝リハ病院 ソレイユの森宮の沢 整形外科北新病院 新さっぽろ脳外科病院 円山整形外科	中村記念病院 手稲溪仁会病院 八王子スポーツ整形外科 高齢者総合ケアセンターやすらぎ園 北斗病院・十勝リハ 函館整形外科病院 函館五稜郭病院 勤医協中央病院 清田整形 東苗穂病院	JCHO北海道病院 イムス札幌消化器中央総合病院 イムス東京葛飾総合病院 クラーク病院 札幌柏葉会病院 旭川リハビリテーション病院 華岡青洲記念病院 札幌円山整形外科病院 札幌山の上病院 札幌禎心会病院 整形外科北新病院 斗南病院 北斗病院
自治体	自治体	自治体
進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）
札幌医科大学大学院 筑波大学大学院	札幌医科大学大学院 京都大学	札幌医科大学大学院保健医療学研究科
その他	その他	その他
札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター 株式会社O.H.G	札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター	札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修センター

7.3.4 就職・進学先 一覧（作業療法学科）

2022年度	2023年度	2024年度
医療関連施設	医療関連施設	医療関連施設
旭川リハビリテーション病院	札幌・すがた医院	イムス札幌内科リハビリテーション病院
北海道社会事業協会帯広病院	社会医療法人医仁会 中村記念病院	グラーネ北の沢
北海道脳神経内科病院	医療法人溪仁会 定山溪病院	みどりの里
医療法人 札幌山の上病院	医療法人ひまわり会 札幌病院	札幌すがた病院
柏葉脳神経外科病院	医療法人溪仁会 札幌西円山病院	札幌秀友会病院
医療法人喬成会 花川病院	北海道済生会みどりの里	札幌西円山病院
医療法人秀友会 札幌秀友会病院	医療法人讃生会 宮の森記念病院	札幌鈴木病院
社会医療法人医仁会 中村記念病院	江別すずらん病院	製鉄記念室蘭病院
医療法人社団大蔵会 札幌佐藤病院	医療法人新新会 多摩あおば病院	手稲溪仁会病院
十勝リハビリテーションセンター	札幌美しが丘脳神経外科病院	定山溪病院
イムス札幌内科リハビリテーション病院	医療法人秀友会 札幌秀友会病院	苫小牧市立病院
岩見沢市立総合病院	医療法人 札幌山の上病院	北海道大学病院
医療法人ひまわり会 札幌病院		林下病院
札幌宮の沢脳神経外科病院		
医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院		
社会医療法人社団三草会 クラーク病院		
進学（大学院等）	進学（大学院等）	進学（大学院等）
札幌医科大学大学院医学研究科	札幌医科大学大学院保健医療学研究科	
札幌医科大学大学院保健医療学研究科		
その他	その他	その他
	札幌医科大学附属病院理学療法士・作業療法士研修プログラム	札幌医科大学附属病院PT・OT研修センター
	株式会社LITALICO	NTT関連企業（一般企業）
		警察行政職員

8. アンケート結果

8.1 医学部

8.1.1 新入生アンケート調査結果

I. 概要

実施：2024年4月～5月

実施主体：統合IRセンター

方法：Qookerを用いたWeb調査

回収率：91% (107/118名)

II. 結果

- あなたの出身都道府県を教えてください。

北海道内：79% 北海道外：21%

- あなたが入学した入試区分を選択してください。

ATOP-M (一般選抜)：58%、ATOP-M (学校推薦型選抜)：20%、

特別枠 (学校推薦型選抜)：12%、一般枠 (一般選抜)：10%

- 進路選択に役立った情報 (複数選択)

大学パンフレット：48%、大学ホームページ：32%、受験雑誌：7%、

受験企業等のWEBサイト：6%、大学ポスター：3%、新聞記事等：2%、その他：2%

- 本学を知るうえで役立った情報源 (複数選択)

高校の先生：24%、予備校：18%、**オープンキャンパス：14%**、家族・親戚：10%、

広告媒体：9%、入試相談・説明会：9%、知人・先輩：9%、**出前授業：5%**、その他：2%

- 入学決定にあたっての気持ち

希望大学：64%、どちらかといえば希望大学：27%、

希望学部：95%、どちらかといえば希望学部：4%

- 高校時代の学習経験 (「ある」の比率 (%))

質問・相談：88%、自主学習：80%、プレゼン：79%、課題学習：90%、ディスカッション：89%

- 本学を受験しようとした時期

高校3年生1月以降：29%、高校3年生4～12月：22%、高校卒業後：19%、高校2年生：18%、

高校1年生：9%、高校入学前：3%

- 札幌医科大学を選んだ理由（上位）
立地・周辺環境、自分の能力レベル、入学金・学費、通学利便性、両親・先生の勧め、ブランド、カリキュラム、教授陣
- 入学決定で重視した意見・アドバイス
両親：33%、高校の先生：25%、塾・予備校の先生：22%、
相談しなかった：13%（前年20%、2年前15%）、在学生：4%、兄弟姉妹：3%、親戚・知人：1%
- 説明会の満足度（満足の比率（%））
高校で実施された大学説明会：30%、オープンキャンパス：27%、
塾・予備校で実施された大学説明会：18%、一般の会場で実施された大学説明会：8%、
その他、模擬授業など：8%
- 札幌医科大学の魅力（「そう思う」の比率（%））
周辺環境：76%、施設・設備：74%、カリキュラム：53%、教授陣：40%
- 建学の精神・アドミッションポリシー（「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」の比率（%））
建学の精神理解：58%、アドミッション・ポリシー理解：65%
- 知識・能力の自己評価
専門知識、コミュニケーション能力、異文化理解力が備わっていないと認識
- 大学生活で力を入れたい活動（「特に力を入れたい」の比率（%））
専門勉強：80%、語学：41%、サークル：50%、ボランティア：21%、留学：15%、
アルバイト：23%
- 入学後の住まい
自宅：58%、アパート：35%、下宿・寮：6%、その他：2%
- 通学手段
徒歩：34%、自転車：27%、地下鉄：27%、バス：8%、市電：3%、その他：3%
- 入学にあたって不安に思っていること
学業：36%、進路：16%、友人関係：13%、経済：10%、健康：8%、特にない：8%
- 所有端末
スマホ：60%、タブレット：40%、ガラケー：1%
パソコン：93%

● 喫煙歴

喫煙歴なし：100%

● 入学時年齢

18歳：57%、19歳：33%、20歳以上：10%

● 性別

男性：60%、女性：31%、無回答：9%

Ⅲ. まとめ

- ・進路選択に役立つ情報は前年同様「大学パンフレット」「大学ホームページ」が中心。
- ・受験決定の情報源は「高校の先生」や「予備校」。情報源として、オープンキャンパス、広告媒体、出前授業の比率が上昇。
- ・相談せずに決めた割合が年々減少傾向。
- ・建学の精神・アドミッションポリシーの認知は依然として高水準。
- ・入学の動機、不安要素、生活環境や端末所有率は前年とほぼ変わらず。
- ・喫煙歴は0%であった。

8.1.2 在学生アンケート調査結果

I. 概要

実施：2024年5月

実施主体：医療人育成センター総合 IR 部門

方法：Qooker を用いた Web 調査

回収率：92% (511/553 名) (前年度 74%)

① 学年

学年	割合
全体	92% (前年 74%、2 年前 68%)
2 年生	98%
3 年生	94%
4 年生	99%
5 年生	87% (前年 38%、2 年前 28%)
6 年生	85% (前年 40%、2 年前 26%)

② 性別

性別	男性	女性	答えたくない
割合	65%	34%	1%

③ 入学時年齢

入学時年齢	18 歳	19 歳	20 歳以上
割合	56%	23%	22%

④ 入試枠

入試枠	北海道医療枠	地域枠	特別推薦	一般枠	一般推薦
割合	51%	22%	13%	3%	11%

Ⅱ．結果

① 居住形態

学年	自宅	下宿、アパート、 学生寮など
全体	62%	38%
2年生	63%	37%
3年生	68%	32%
4年生	72%	28%
5年生	54%	46%
6年生	54%	46%

北海道医療卒	66%	34%
地域卒	68%	32%
推薦入試（特別卒）	40%	60%
一般選抜（一般卒）	61%	39%
一般推薦	61%	39%

② 通学時間（片道）

学年	15分未満	15分以上
全体	52%	48%
2年生	44%	56%
3年生	48%	52%
4年生	52%	48%
5年生	59%	41%
6年生	61%	39%

北海道医療卒	50%	50%
地域卒	50%	50%
推薦入試（特別卒）	68%	32%
一般選抜（一般卒）	50%	50%
一般推薦	55%	45%

③ 部活動・サークルの加入状況

学年	運動+文化系	運動系	文科系	加入していない
全体	15%	62%	12%	12%
2年生	25% (前年 15%)	62%	11%	2% (前年 11%)
3年生	13%	63%	14%	11%
4年生	10%	60%	17%	14%
5年生	13%	57%	9%	21%
6年生	13%	70%	9%	7%

北海道医療卒	11%	62%	11%	12%
地域卒	17%	59%	10%	14%
推薦入試(特別卒)	22%	72%	3%	3%
一般選抜(一般卒)	20%	53%	17%	9%
一般推薦	14%	67%	4%	14%

④ 部活動・サークルの1週間当たりの活動回数

学年	週1回	週1回以上
全体	23%	77%
2年生	22%	78%
3年生	21%	79%
4年生	22%	78%
5年生	31%	69%
6年生	22%	78%

⑤ 部活動でどのようなことを得られましたか（複数選択）

	割合
人格形成・忍耐・責任感	69%
コミュニケーション能力を養えた	66%
授業では得られない知識・教養を得た	50%
健康の増進	48%
問題対応能力	39%
実践能力	36%
情報通信技術の能力	15%

⑥ 平日の平均睡眠時間

学年	5 時間未満	5 ～ 6 時間	6 ～ 7 時間	7 ～ 8 時間	8 時間以上
全体	5% (前年 6%)	24% (前年 35%、 2 年前 27%)	49% (前年 40%)	16% (前年 16%)	6% (前年 3%)
2 年生	5%	26%	48%	13%	7%
3 年生	4%	25%	48%	18%	6%
4 年生	6%	24%	49%	17%	5%
5 年生	4%	31%	47%	13%	4%
6 年生	3%	17%	52%	20%	7%

⑦ 食事

学年	3 食きちんと食べている	3 食は食べないことが多い
全体	62% (前年 64%、2 年前 78%)	38% (前年 36%、2 年前 22%)
2 年生	66%	35%
3 年生	58%	42%
4 年生	64%	36%
5 年生	65%	35%
6 年生	59%	41%

⑧ 1週間当たりのアルバイト時間

学年	3時間以上	3時間未満	していない
全体	75% (前年 69%、 2年前 59%)	9% (前年 11%、 2年前 10%)	16% (前年 20%、 2年前 31%)
2年生	63%	16%	21%
3年生	76%	7%	17%
4年生	79%	8%	13%
5年生	78%	7%	15%
6年生	79%	7%	14%

北海道医療卒	75%	10%	18%
地域卒	74%	8%	18%
推薦入試(特別卒)	77%	7%	17%
一般選抜(一般卒)	78%	11%	11%
一般推薦	82%	10%	8%

⑨ アルバイトでどのようなことを得られましたか(複数選択)

	割合
コミュニケーション能力を養えた	67%
人格形成・忍耐・責任感	60%
授業では得られない知識・教養を得た	51%
問題対応能力	51%
実践能力	46%
情報通信技術の能力	14%
健康の増進	12%

⑩ 1日当たりのPC・スマホ・タブレット等でのコミュニケーション時間

学年	使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
全体	1%	22% (前年 23%、 2年前 35%)	39% (前年 44%、 2年前 41%)	38% (前年 32%、 2年前 24%)
2年生	0%	35%	38%	27%
3年生	0%	22%	41%	37%
4年生	2%	20%	42%	36%
5年生	1%	21%	37%	41%
6年生	3%	13%	35%	48%

北海道医療卒	1%	22%	38%	40%
地域卒	0%	24%	40%	37%
推薦入試(特別卒)	3%	25%	42%	30%
一般選抜(一般卒)	2%	13%	41%	45%
一般推薦	0%	33%	39%	29%

⑪ 1日当たりのYouTube、Twitter、Instagram等の閲覧時間

学年	1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
全体	11% (前年 12%、 2年前 29%)	60% (前年 65%、 2年前 50%)	21% (前年 16%、 2年前 12%)	8% (前年 8%、 2年前 9%)
2年生	14%	54%	21%	12%
3年生	13%	62%	18%	8%
4年生	12%	61%	21%	6%
5年生	4%	70%	18%	8%
6年生	9%	58%	25%	8%

北海道医療卒	11%	64%	19%	7%
地域卒	10%	60%	20%	10%
推薦入試(特別卒)	17%	50%	22%	12%
一般選抜(一般卒)	6%	55%	28%	10%
一般推薦	10%	63%	20%	6%

⑫ 1日当たりの読書（マンガ・雑誌を除く）時間

学年	していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
全体	50% (前年 51%、 2年前 44%)	32% (前年 31%、 2年前 28%)	14% (前年 15%、 2年前 23%)	3% (前年 3%、 2年前 4%)
2年生	55%	29%	15%	1%
3年生	48%	31%	16%	5%
4年生	52%	32%	12%	4%
5年生	54%	33%	11%	2%
6年生	42%	33%	19%	5%

北海道医療卒	53%	34%	9%	3%
地域卒	52%	28%	17%	2%
推薦入試（特別卒）	47%	23%	27%	3%
一般選抜（一般卒）	41%	34%	20%	5%
一般推薦	51%	33%	12%	4%

⑬ この1年間に、ボランティア活動をしましたか

学年	した	していない
全体	12% (前年 11%、 2年前 7%)	88% (前年 89%、 2年前 93%)
2年生	10%	90%
3年生	9%	91%
4年生	20%	80%
5年生	9%	91%
6年生	12%	88%

北海道医療卒	12%	88%
地域卒	10%	90%
推薦入試（特別卒）	22%	78%
一般選抜（一般卒）	6%	94%
一般推薦	12%	88%

⑭ 友人（学内外問いません）

学年	大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
全体	17% (前年 17%、 2 年前 11%)	52% (前年 51%、 2 年前 51%)	27% (前年 29%、 2 年前 31%)	4% (前年 3%、 2 年前 7%)
2 年生	25%	55%	19%	1%
3 年生	18%	49%	30%	3%
4 年生	15%	47%	30%	8%
5 年生	10%	60%	27%	2%
6 年生	16%	51%	28%	5%

北海道医療卒	16%	51%	30%	4%
地域卒	17%	56%	23%	4%
推薦入試（特別卒）	27%	47%	22%	5%
一般選抜（一般卒）	11%	52%	33%	5%
一般推薦	18%	57%	22%	2%

⑮ 卒業までに身につけたい能力をどの程度まで獲得できましたか（1全く身につかなかった 2あまり見につかなかった 3ある程度身についた 4とても身についた）（カッコ内は前年度）

学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
倫理	3.3 (3.2)	3.3 (3.2)	3.4 (3.3)	3.3 (3.2)	3.4 (3.3)
リーダーシップ	2.7 (2.8)	2.8 (2.8)	3.0 (2.9)	3.0 (3.0)	3.2 (2.8)
時間厳守	3.2 (3.2)	3.2 (3.2)	3.4 (3.3)	3.3 (3.2)	3.3 (3.5)
チャレンジ精神	3.1 (3.0)	3.0 (3.0)	3.1 (3.1)	3.1 (2.9)	3.4 (3.2)
専門知識の活用	2.7 (2.7)	2.9 (2.9)	3.1 (3.0)	3.2 (3.0)	3.2 (3.1)
問題分析	3.1 (3.0)	3.1 (3.1)	3.2 (3.2)	3.2 (3.2)	3.3 (3.2)
目標設定・問題解決	3.0 (2.9)	3.1 (3.1)	3.2 (3.0)	3.1 (3.1)	3.2 (3.1)
批判的・多面的思考	3.1 (3.1)	3.1 (3.2)	3.3 (3.2)	3.2 (3.0)	3.2 (3.2)
人間関係調整・相互理解	3.0 (3.1)	3.1 (3.0)	3.2 (3.1)	3.3 (3.2)	3.3 (3.2)
医学研究遂行能力・意欲	2.7 (2.8)	2.9 (2.9)	3.1 (3.0)	2.8 (3.1)	3.2 (3.0)
地域医療	2.7	3.0	3.1	3.1	3.3
外国語能力	2.6 (2.7)	2.7 (2.6)	2.7 (2.5)	2.3 (2.4)	2.7 (2.6)
コンピュータ利用能力	2.7 (2.8)	2.8 (2.9)	3.1 (3.0)	3.0 (3.0)	3.1 (3.1)

入試枠	北海道医療枠	地域枠	推薦入試(特別枠)	一般選抜(一般枠)	一般推薦
倫理	3.3 (3.2)	3.3 (3.2)	3.3 (3.4)	3.3 (3.2)	3.3 (3.2)
リーダーシップ	2.9 (2.9)	2.9 (2.8)	2.9 (2.9)	3.0 (2.8)	3.0 (2.9)
時間厳守	3.3 (3.3)	3.2 (3.3)	3.3 (3.4)	3.1 (3.2)	3.4 (3.3)
チャレンジ精神	3.1 (3.0)	3.1 (3.1)	3.1 (3.1)	3.1 (2.9)	3.2 (3.0)
専門知識の活用	3.1 (2.9)	2.8 (2.8)	2.9 (3.2)	3.0 (2.9)	3.0 (3.0)
問題分析	3.2 (3.1)	3.2 (3.1)	3.1 (3.2)	3.2 (3.0)	3.2 (3.2)
目標設定、問題解決能力	3.1 (3.0)	3.1 (3.1)	3.1 (3.3)	3.1 (2.9)	3.3 (3.1)
批判的・多面的思考能力	3.2 (3.1)	3.2 (3.2)	3.1 (3.3)	3.2 (3.0)	3.2 (3.1)
人間関係の調整と相互理解	3.1 (3.0)	3.2 (3.2)	3.2 (3.3)	3.1 (2.9)	3.3 (3.1)
医学研究の遂行能力・意欲	3.0 (2.9)	2.8 (2.9)	2.9 (3.1)	3.0 (2.9)	2.9 (2.9)
地域医療	3.2	2.9	3.2	2.9	3.2
外国語能力	2.6 (2.5)	2.6 (2.6)	2.4 (2.7)	2.8 (2.6)	2.7 (2.5)
コンピュータ利用能力	3.0 (3.0)	2.7 (2.9)	2.9 (3.1)	2.9 (2.8)	3.1 (2.8)

⑩ 現在悩みや不安はありますか？

学年	たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
全体	7%	32%	31%	21%	9%
2年生	9%	42%	27%	16%	5%
3年生	9%	21%	29%	23%	19%
4年生	5%	40%	36%	14%	6%
5年生	3%	21%	41%	27%	8%
6年生	9%	32%	23%	24%	11%

北海道医療枠	5%	29%	36%	19%	11%
地域枠	9%	39%	22%	24%	7%
推薦入試(特別枠)	8%	35%	23%	25%	12%
一般選抜(一般枠)	8%	31%	34%	16%	11%
一般推薦	10%	31%	33%	20%	6%

⑰ 悩みや不安の内容上位（複数選択可）

	学業	進路	経済状態	対人関係
全体	40%	24%	7%	27%

⑱ 悩みや不安への対処

学年	ほとんど できている	まあまあ できている	どちらとも いえない	あまり できていない	できて いない
全体	15%	51%	27%	6%	1%
2年生	9%	53%	30%	6%	1%
3年生	15%	48%	25%	10%	1%
4年生	11%	49%	31%	7%	3%
5年生	16%	56%	25%	3%	0%
6年生	24%	48%	22%	5%	1%

北海道医療卒	15%	49%	28%	7%	2%
地域卒	13%	61%	18%	7%	1%
推薦入試（特別卒）	18%	53%	21%	5%	4%
一般選抜（一般卒）	14%	45%	36%	5%	0%
一般推薦	14%	47%	34%	5%	0%

⑲ 相談相手上位（複数選択可）

	全体
家族・友人	80%（前年 83%）
学担・副学担	10%（前年 3%）
学担・副学担以外の教員	4%（前年 3%）
学内相談窓口（保健管理センター等）	5%（前年 6%）
学外相談窓口	1%（前年 2%）
SNS、インターネット等	4%（前年 4%）
その他	2%（前年 2%）

⑳ 授業料、生活費の支弁者

学年	親・親族	自分自身	全額免除 されている	その他
全体	84%	9%	7%	1%
2年生	85%	7%	7%	1%
3年生	84%	12%	2%	1%
4年生	80%	10%	8%	2%
5年生	86%	7%	8%	0%
6年生	85%	7%	8%	0%

北海道医療卒	90%	8%	1%	0%
地域卒	85%	12%	2%	1%
推薦入試（特別卒）	42%	12%	45%	2%
一般選抜（一般卒）	92%	5%	2%	2%
一般推薦	92%	6%	2%	0%

㉑ 奨学金の受給について

学年	受給していない	受給している
全体	73%	27%
2年生	74%	26%
3年生	74%	26%
4年生	75%	25%
5年生	67%	33%
6年生	74%	26%

北海道医療卒	78%	22%
地域卒	73%	27%
推薦入試（特別卒）	50%	50%
一般選抜（一般卒）	77%	23%
一般推薦	71%	29%

②② 経済的な支援の必要性について

	ある	ない
全体	15% (前年 18%)	85% (前年 88%)

②③ 学生担当教員（学担・副学担）制度

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	5% (前年 3%、 2 年前 3%)	25% (前年 20%、 2 年前 12%)	59% (前年 66%、 2 年前 69%)	11% (前年 11%、 2 年前 16%)
2 年生	5%	34%	47%	15%
3 年生	7%	24%	59%	11%
4 年生	2%	19%	72%	7%
5 年生	2%	22%	52%	12%
6 年生	8%	27%	52%	12%

②④ 保健管理センターについて

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	13% (前年 11%)	29% (前年 31%)	54% (前年 55%)	3% (前年 3%)
2 年生	11%	32%	53%	5%
3 年生	11%	23%	63%	4%
4 年生	13%	32%	53%	2%
5 年生	15%	30%	52%	3%
6 年生	16%	30%	51%	3%

②⑤ 学部内のハラスメント相談窓口について

学年	使って良かった	よく知っている	聞いたことはある	知らない
全体	2% (前年 1%)	15% (前年 11%)	53% (前年 54%)	30% (前年 34%)
2 年生	0%	12%	45%	43%
3 年生	0%	14%	47%	39%
4 年生	1%	12%	57%	30%
5 年生	1%	16%	64%	19%
6 年生	6%	23%	53%	17%

②⑥ 充実を希望する支援内容（複数選択可）

	割合
進路	49%（前年 52%）
国家試験対策	48%（前年 50%）
学習	51%（前年 49%）
キャリア教育	33%（前年 36%）
課外活動	27%（前年 27%）
就職	30%（前年 22%）
経済	18%（前年 18%）
留学制度に関する支援	19%（前年 17%）
生活	18%（前年 16%）

②⑦ 喫煙状態

	以前喫煙していた	喫煙歴はない	現在喫煙している
全体	3%	95%	2%
2年生	4%	96%	0%
3年生	3%	96%	1%
4年生	1%	94%	6%
5年生	3%	97%	2%
6年生	5%	93%	2%

Ⅲ. まとめ

1. 回収率の大幅改善：5・6年生の調査タイミングを対面授業に合わせた結果、全体回収率は92%（前年74%）、5年生38%→87%、6年生40%→85%と大きく向上した。
2. 部活動・サークルの参加拡大：2年生の加入率は98%へ上昇した。
3. 睡眠時間の改善傾向：平日の睡眠「5～6時間」層は2年前27%、前年35%から今回24%と減少し、短時間化の流れに歯止めが掛かった。
4. 食生活の課題：「3食きちんと食べている」割合は62%で2年前78%、前年64%であり低下傾向が続く。
5. アルバイト時間の増加：週3時間以上アルバイトをする学生は75%（前年69%、2年前59%）へ拡大している。
6. デジタル利用増・読書減：1日あたりデジタルコミュニケーション「2時間以上」は24%→32%→38%に伸長。オンライン閲覧「3時間以上」は29%（前年24%、2年前21%）。一方、読書「していない」は50%（前年51%、2年前44%）と高水準。
7. 卒業時能力の自己評価向上：13項目の自己評価が全体にわたり上昇傾向にある。
8. 相談体制の認知・利用向上：相談相手として「学生担任・副学生担任」を選ぶ学生は10%（前年3%）へ増加。また、認知度が上昇している。ハラスメント相談窓口の「よく知っている」は15%（前年11%）に徐々に上昇している。
9. 経済的支援ニーズの変化：「経済的支援が必要」回答は15%で前年18%から減少。奨学金受給率は27%で前年並み。
10. 支援希望内容のシフト：「就職支援の充実」は30%（前年22%）と大きく伸び、引き続き「進路」「国家試験対策」「学習」支援も高需要。
11. 喫煙率（初調査）：学生の喫煙率は2%であった。

8.1.3 卒業生（自己評価）アンケート調査

I. 概要

実施：2024年12月 - 2025年1月

調査対象：本学教室に関連する本学卒業生

および他学卒業生、卒後6、12、15、18年目にアンケート調査

回収率：26.2% (34/130名)

II. 結果

基本属性（出身都道府県、性別、卒業大学、勤務地、現職、学位有無）

1 出身都道府県

卒業年	北海道内 (n = 30)	北海道外 (n = 4)
2010	11 (36.7%)	0 (0.0%)
2016	3 (10.0%)	2 (50.0%)
2019	6 (20.0%)	1 (25.0%)
2022	10 (33.3%)	1 (25.0%)

2 性別

男性	女性	答えたくない
19 (55.9%)	15 (44.1%)	0 (0.0%)

3 卒業大学 札幌医科大学 34 (100%)

4 勤務地

北海道内	北海道外
32 (94.1%)	2 (5.9%)

到達度評価（学位、役職、自身のコンピテンシーの認識）

5 学位有無

卒業年	学位あり (n = 7)	学位なし (n = 27)
2010	7 (63.6%)	4 (36.4%)
2016	0 (0.0%)	5 (100.0%)
2019	0 (0.0%)	7 (100.0%)
2022	0 (0.0%)	11 (100.0%)

6 現職

卒業年	一般病院 (n = 15)	開業医 (n = 0)	大学 (n = 6)	専攻医・後期研修医 (n = 25)	その他 (n = 0)
2010	3 (27.3%)	2 (18.2%)	6 (54.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
2016	2 (40.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)
2019	3 (42.8%)	0 (0.0%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)
2022	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (100.0%)	0 (0.0%)

自身のコンピテンシーの認識

卒業年	高い倫理観	幅広い視野	基本的な医学 知識と技術	現状に潜む 問題点	社会的責任
2010 (n=11)	3.9	3.3	3.8	3.8	3.7
2016 (n= 5)	3.2	3.2	4.4	3.4	4.0
2019 (n= 7)	3.6	3.6	4.0	4.0	3.4
2022 (n=11)	3.5	3.3	3.6	3.4	3.5

その他（カリキュラム評価）

卒業年	総合教育	基礎教育	PBL	臨床実習全体	満足度
2010 (n=11)	2.9	3.3	3.5	3.4	3.5
2016 (n= 5)	3.4	4.0	3.8	4.4	3.6
2019 (n= 7)	2.9	3.3	3.3	3.7	3.3
2022 (n=11)	3.3	3.5	3.0	2.7	3.1

8.1.4 卒業生（他者評価）アンケート調査結果

■ 趣旨

JACME 評価基準のうち「卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良すること（Q2.8.1）」を達成するために体系的に情報収集する調査である。

■ 方法

【調査内容】

- A. 本学卒業生のコンピテンスの到達度
- B. 本学卒業生のコンピテンス到達度の他大学卒業生との比較
- C. 地域や社会の立場から重点的に教育して欲しいコンピテンス項目、医学部教育科目

【調査対象と回答者】

- I. 初期臨床研修医 → 臨床研修責任者
- II. 後期臨床研修医 → 施設長
- III. 専門医 → 施設長

※対象者個人ではなく、施設全体としての評価を依頼。

【調査施設（28 施設、順不同）】

道内臨床研修施設（都市部）：市立函館病院、函館中央病院、北海道医療センター、札幌厚生病院、岩見沢市立病院、JCHO 北海道病院、手稲溪仁会病院、天使病院、勤医協中央病院、KKR 札幌医療センター、KKR 札幌医療センター斗南病院、旭川医療センター、札幌徳洲会病院

道内臨床研修施設（地方部）：帯広厚生病院、砂川市立病院、市立釧路総合病院、苫小牧市立病院、市立室蘭総合病院、釧路労災病院、八雲総合病院、北斗病院、恵み野病院、小樽協会病院、江別市立病院、帯広第一病院、留萌市立病院、市立千歳市民病院、済生会小樽病院

【調査方法】

郵送によるアンケート依頼・回収（回収は WEB および郵送）。3 種のアンケートを各施設長に送付した。

3. アンケート項目と評価

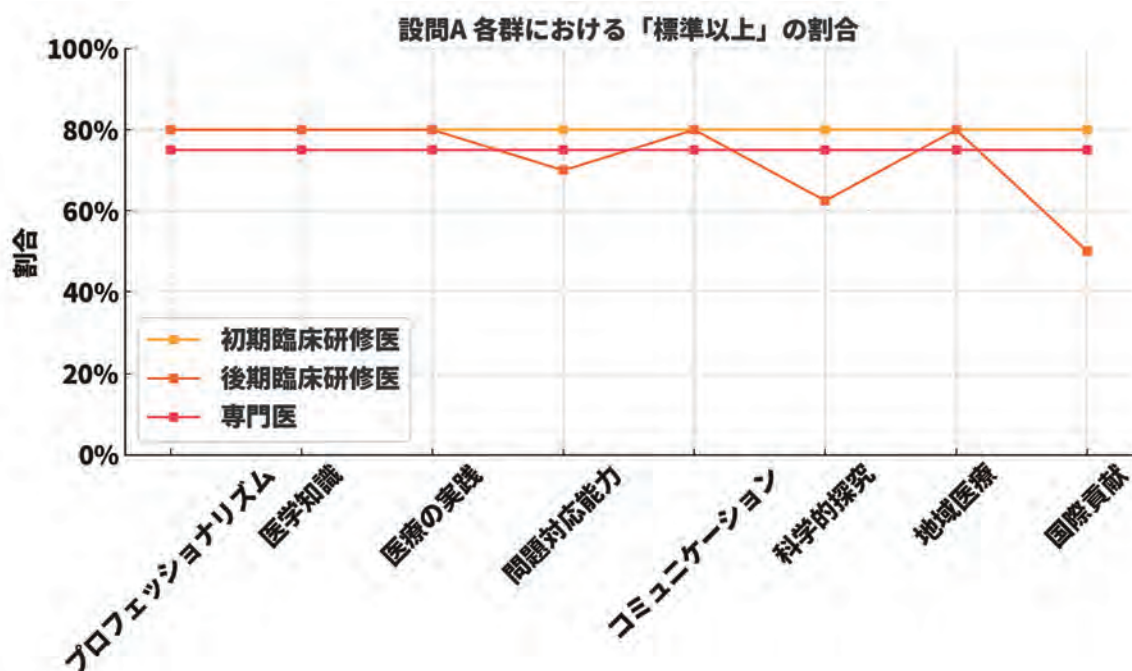
アンケート項目	
項目1：プロフェッショナリズム	医療倫理および生命倫理の原則を理解し、人の命及び健康を守る医師の使命と職責を自覚し行動できていますか。
項目2：医学知識	医学の基礎となる自然科学、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を有し活用できていますか。
項目3：医療の実践	臨床情報を収集、整理して臨床推論から診断を導き、根拠に基づいた医療技術を個々の状況に応じて実践できていますか。
項目4：問題対応能力	既存の知識や技能では対応できない問題を抽出し、問題解決に向けた情報を収集、分析して構想を示すことができますか。
項目5：コミュニケーション	患者・家族、医療チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができますか。
項目6：科学的探求	科学的思考に基づいた探究心を持ち、医学研究を遂行する意欲と基礎的素養を有していますか。
項目7：地域医療	地域における医療専門職の役割を理解し、地域社会の健康の向上及び増進に向けた医療を実践できていますか。
項目8：国際貢献	国際的視野に立って医療・保健に関わる知識を活用することができますか。
本学卒業生のコンピテンス到達度	本学卒業生のコンピテンス到達度の他大学卒業生との比較
1：できていない	○：評価不可能
2：あまりできていない	1：劣っている
3：標準的にできている	2：同じレベルにある
4：標準以上にできている	3：優れている
5：極めて優れている	

アンケート回収率：10/28（35.7%）と、前回調査（88.4%）に比べて低下していた。

■ 各群の到達度評価（設問 A）表およびグラフ参照

設問	初期臨床研修医	後期臨床研修医	専門医
プロフェッショナリズム	80%	75%	75%
医学知識	80%	75%	75%
医療の実践	80%	75%	75%
問題対応能力	80%	75%	75%
コミュニケーション	70%	75%	75%
科学的探究	80%	62.5%	75%
地域医療	80%	75%	75%
国際貢献	50%	50%	75%

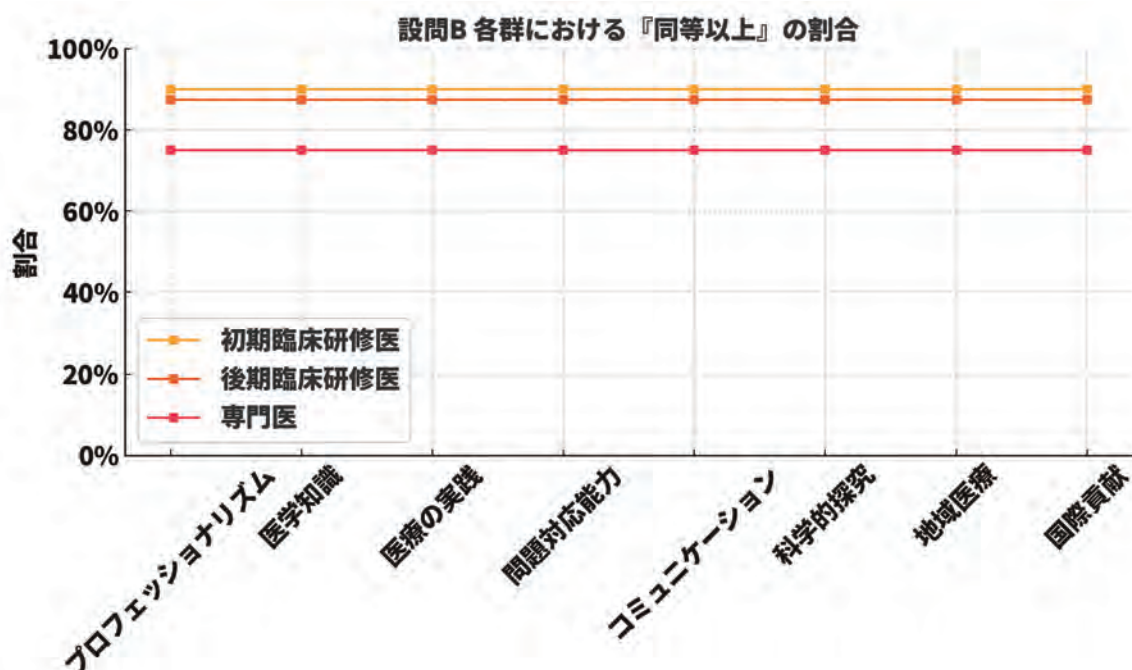
グラフ：設問Aに対する各群の評価割合



■ 他大学との比較評価（設問 B）

- ・ 初期臨床研修医：約90%が「同等」または「優れている」と評価。
- ・ 後期臨床研修医：「同等」87.5%、「優れている」12.5%。
- ・ 専門医：75%が「同等」と回答。一部に「評価不能」「劣っている」との記載あり。

グラフ：設問B（他大学との比較）に対する各群の『同等以上』の評価割合



■ コメント・自由記載欄（抜粋）

【初期臨床研修医】

- 学習意欲が高く、明朗で協調性がある。
- チーム医療への順応性あり。
- 国際的視点や英語運用能力、リサーチ志向が課題。

【後期臨床研修医】

- コミュニケーション能力が高い。
- 地域医療への意欲や使命感が求められる。
- 国際学会発表・英語でのディスカッションに課題。

【専門医】

- 地域医療（特に救急）への貢献が評価。
- アカデミックマインドや国際視野の欠如が課題。
- 患者対応力と協調性は良好。

■ まとめ

初期研修医：各項目において概ね75%の達成度が示され、標準的な水準で修得できていることがうかがえた。一方で、「国際貢献」に関しては十分に実践できていないとする回答が約半数を占め、今後の課題と考えられる。

後期臨床研修医：「コミュニケーション能力」において高い到達度が認められ、他大学との比較においても同等水準であるとの評価が得られた。一方で、英語能力や国際的視野の拡充が求められている。

専門医：全体的に高い評価が得られており、特にチーム医療や地域医療での実践力が評価された。今後は、マネジメント能力や国際的活躍への準備が求められる。

■ 今後の課題

今年度は例年と比較してアンケートの回収率が低下していた。回収率の向上が次年度の課題である。

8.2 保健医療学部

8.2.1 新入生調査報告書

I. 新入生調査の概要

① 目的

本調査は、統合IRセンターが学部別に実施している調査の一環で、保健医療学部では2023年から調査を実施している。本調査は、1年生を対象に入学直後に調査を行うことから、1) 学習、生活、心理面などさまざまな観点から新入生に必要な支援を検討することと、高校生時代に本学を受験することを決定した過程や学習の状況について調査を行い、翌年度以降の2) 入学試験のあり方や各高校／高校生への情報提供や広報のあり方を検討する資料を得ることを目的としている。

② 方法

(1) 調査期間

2024年4月

(2) 調査方法

アプリケーションQookerを用いたインターネット調査

(3) 調査対象

2024年度保健医療学部入学生（1年生）90名

(4) 調査内容

2023年度に統合IRセンター、保健医療学部IR連携WGにて内容を検討し、保健医療学部拡大学科長会議、保健医療学部教務委員会／カリキュラム委員会での審議を経て内容を確定し、2024年度は一部の項目を改定して調査を行った。

(ア) 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）

(イ) 自身のコンピテンシーの認識

(ウ) 高校生時代の生活、学習、意思決定について（進路選択、学習時間、学習経験）

(エ) 本学との関わり、認識（オープンキャンパス等への参加、本学の魅力、建学の精神やアドミッションポリシーの認知）

(オ) 大学生活への期待・不安、抱負

③ 結果・考察

(1) 回収率

1年生全90名を対象とし、70名から回答を得た（回収率77.8%）。学科別では、看護学科42名（84.0%）、理学療法学科9名（45.0%）、作業療法学科19名（95.0%）から回収が得られた。今年は理学療法学科からの回答が十分に得られなかったため、調査結果の読み取りについては、選択バイアスが生じる可能性について留意する必要がある。

(2) 基本属性（居住地、交通手段、PC等の保有）

入学前の居住地は「札幌市外（北海道内）」が57.1%、「札幌市内」が40.0%で、「北海道外」（2.9%）はわずかであった（図2）。入学後の居住形態は「自宅（親所有の家・マンション等）」が最も多く

(67.1%)、次いで「アパート（賃貸）」が32.9%であった（図3）。

主な通学手段（複数選択可）は「地下鉄」（56.5%）、「徒歩」（50.7%）、「自転車」（34.8%）が多かった（図4）。

情報機器の所有状況は、「PC（自分専用）」「プリンタ」の所有率はそれぞれ92.9%、71.0%であった（図6）。2023年度からは大きな変化は無い。プリンタの必要性については、入学前から情報提供を行って準備を促す必要性がうかがえる。

(3) 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

高校3年生9月頃における平日の勉強時間は「3～5時間未満」（53.6%）が最も多かったが、それよりも短いまたは長いなど、個人差が認められた（図7）。高校時代における能動的な学習については、例年同様に「学習したことについてプレゼンテーションを行う」（68.6%）が最も低く、大学での学習に適応するための指導が必要とされる（図8）。知識・能力の自己評価については、今年新設した「他者とのコミュニケーション能力」は78.5%が備わっているとの回答が得られた。昨年との比較では、「パソコンのソフトウェアの操作」が15.8%（2023年度は29.3%）と低いため、入学後早期の教育においては、学生の能力を考慮した課題提示が必要と考えられる。

(4) 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

札幌医科大学を受験することを決定した時期は「高校3年生4～12月」（34.3%）が最も多かったが、個人によって決定時期は高校入学前から卒業後まで大きく異なる（図12）。時期に合わせた情報提供が求められる。

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」（94.3%）と「大学ホームページ」（80.0%）が最も活用されていた（図13）。これらの媒体の内容のさらなる充実を図るとともに、他の媒体の有効性について検討する必要がある。

本学を知るうえで役立った情報源（複数回答）は「オープンキャンパス」（50.7%）が最も多く、前年度からの伸びも大きい（図15）。「オープンキャンパス」の参加率は半数強（54.3%）であったが（表1）、満足度は97.4%と高く、その内訳も今年度は「満足」がほとんどであるため（図17）、本学の魅力を伝える有効な手段として、オープンキャンパスの重要性は増しているといえる。

本学を知るうえで役立った情報源（複数回答）は、「オープンキャンパス」に次いで「高校の先生」（47.8%）、「入試相談・説明会」（43.5%）が多くなっていた（図15）。また、「高校で実施された大学説明会」への参加率も77.1%と高いため（表1）、各高校との連携が今後重要になると考えられる。

本学への入学（受験）を決めるにあたり意見やアドバイスを最も重視した相手は、「高校の先生」（40.0%）が最も多く、次いで「両親・保護者」（28.6%）、「塾・予備校の先生」（17.1%）であった（図19）。本学を知る上での情報源も「高校の先生」や「家族」が挙げられていることから、高校生本人の周囲の者までを視野に入れた情報提供のあり方を検討する必要がある。

本学を選択した理由は、「カリキュラムや授業構成」（69.8%）、「教授・講師陣が充実している」（67.7%）、「入学金・学費などの適切性（国公立だからを含む）」（63.9%）、「キャンパスの立地や周辺環境」（62.5%）が多くなっていた（図20）。これらの強みを活かした広報戦略が求められる。

(5) 大学入学後の不安・期待、活動について

札幌医科大学が入学を希望していた大学／学部であるかどうかは、2024年度については「大学」

(97.2%)、「学部」(97.2%)のいずれも学生が肯定的な回答をしていた(図26, 図27)。入学にあたって、不安に思っていることは、「学業についての不安」(72.5%)が最も多く、次いで「友人などの人間環境」(50.7%)が多かった(図28, 図29)。各学科の学生の状況をふまえ、学生が相談できる環境の構築とその周知が肝要と考えられる。

大学生活の中で『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(97.2%)、「一般教育科目の勉強」(88.2%)、「語学に関する勉強」(84.3%)、「アルバイト」(77.1%)、「部活・サークル活動」(74.3%)だった(図30)。「海外への短期留学」は、『力を入れたいと思わない』と回答した学生も多く(34.3%)、引き続き、国際化に向けた啓発が必要と考えられる。札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについては、「専門的な知識や技術の習得」、「コミュニケーション能力の獲得」が挙げられており、学生のニーズを満たすこれらの教育について、一層の充実が望まれる(表3)。

II. 結果・考察

① 基本属性

(1) 入試区分(図1)

入試区分について、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」の二肢択一で回答を得た。学校推薦型選抜の合格者数及び回答者数の変動に応じて、学科・年度による入試区分別合格者の割合は異なっていた。

(2) 入学前の居住地(2月時点)(図2)

出身地について、「札幌市内」、「札幌市外(北海道内)」、「北海道外」の三肢択一で回答を得た。

その結果、2023年度は「札幌市内」と「札幌市外(北海道内)」がほぼ同数であったが、2024年度は札幌市外(北海道内)出身の学生が多くなっていた(57.1%)。

(3) 入学後の住まい(図3)

入学後の住まいについて、「自宅(親所有の家・マンション等)」、「アパート(賃貸)」、「下宿・寮」、「その他」の四肢択一で尋ねた。

その結果、学部全体では、「自宅(親所有の家・マンション等)」が最も多く67.1%を占めていた。次いで、「アパート(賃貸)」が32.9%を占め、「下宿・寮」「その他」はいなかった。今年度は、学科による住まいに大きな違いは見られなかった。

(4) 主な通学手段(複数選択可)(図4, 図5)

主な通学手段について、「徒歩」、「自転車」、「地下鉄」、「バス」、「市電」、「JR」、「その他」のうち複数選択可で尋ねた。

その結果、最も多かったのは「地下鉄」で56.5%を占め、次いで「徒歩」が50.7%であった。さらに「自転車」、「JR」、「バス」、「市電」の順で回答が多かった。

(5) 情報端末の所有(図6)

自分専用のパソコンと印刷できるプリンタの所有状況を尋ねた。

その結果、「PC(自分専用)」の所有率は学部全体で92.9%であった。看護学科は95.2%で、理学療法学科88.9%、作業療法学科89.5%よりも高い所有率であった。「プリンタ」の所有率は学部全体

で71.0%であり、理学療法学科は55.6%と他学科よりも低い結果であった。

本結果から、レポートや講義・実習資料の印刷などの学習への準備性において、継続した検討課題であることがわかった。一方で、学生自身がタブレット等を用いて授業資料をデジタル化して学習する場面も多く見受けられるため、講義・演習におけるペーパーレス化も検討すべき課題であると考えられる。

② 高校生時代からの学習状況、知識・能力の自己評価

(1) 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）(図7)

高校3年生の9月頃における平日の勉強時間について、「ほとんどしなかった」、「1時間未満」、「1～3時間未満」、「3～5時間未満」、「5～7時間未満」、「8時間以上」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「3～5時間未満」が最も多く53.6%、次いで「1～3時間未満」が20.3%、「5～7時間未満」が15.9%であった。2023年度と比較すると「3～5時間未満」が増え、「1～3時間未満」と「5～7時間未満」がともに減少していた。学科別にみると、理学療法学科が「5～7時間未満」の割合が22.2%と他学科より高く、看護学科と作業療法学科では、「8時間以上」の者が10%程度を占めていた。

(2) 高校時代における能動的な学習の経験(図8, 図9)

高校時代における能動的な学習について、「自分から先生に質問や相談に行く」、「自分で設定したテーマについて学習する」、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」、「複数の学生で一つのテーマ(課題)に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」の経験の有無について回答を得た。

その結果、「複数の学生で一つのテーマ(課題)に取り組む」、「学生同士でディスカッションを行う」、「自分から先生に質問や相談に行く」は90%前後が経験していた。しかし、「自分で設定したテーマについて学習する」は77.1%、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」は68.6%であった。

年度別では、2022年度、2023年度の結果とほぼ同様の傾向であった。

学科別では、理学療法学科において「自分で設定したテーマについて学習する」(55.6%)、「学習したことについてプレゼンテーションを行う」(44.4%)について、経験した学生の割合が低くなっていた。

自分自身でテーマを設定した経験やプレゼンテーションを積極的に行なった経験は、自分の学習課題や医療・社会全般の課題を主体的に提起することにつながる。医療専門職を目指す本学部の学習において、能動的学習は必須であり、上記経験の少ない学生への意識・動機付け、指導が必要であると考えられる。

(3) 現時点(4月)での知識・能力の自己評価(図10, 図11)

新入生の知識・能力について、「医療系の専門に係る知識」、「幅広い教養」、「英語(外国語)の運用能力」、「社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力」、「課題を解決するための問題解決力」、「異文化や異なる背景をもつ人々に対する理解力」、「他者とのコミュニケーション能力(2024年度調査からの新設項目)」、「パソコンのソフトウェアの操作(Ms-Office等)(2023年度調査からの新設項目)」、「SNSを安全に使うためのルール・方法(2023年度調査からの新設項目)」の7項目

がどの程度備わっているのか、『充分備わっている』から『全く備わっていない』の五肢択一の回答を得た。

その結果、『あまり備わっていない』と『全く備わっていない』をあわせた回答の割合が高いのは、「医療系の専門に係る知識」(71.4%)、「パソコンのソフトウェアの操作」(67.1%)、「英語(外国語)の運用能力」(31.4%)であった。一方で、「SNSを安全に使うためのルール・方法」は『充分備わっている』または『ある程度は備わっている』と回答した割合が、2023年度と同様に高かった(95.7%)。学科別にみると、全体的な傾向は学科間で同様であるが、理学療法学科で「医療系の専門に係る知識」と「パソコンのソフトウェアの操作」の項目で『あまり備わっていない』または『全く備わっていない』と回答した割合が高く、他学科よりも自己評価が低い結果であった。

2022年度から2024年度までの傾向は、ほぼ同様の回答結果であった。新入生は医療系に関する専門知識を高校で学修していないこと、また日常の学習機会の中でパソコン(ソフトウェア)を操作する時間が少ないことが、この結果に反映されたものと推察される。英語(外国語)同様に、情報処理を含めた一般教育科目の充実、さらに入学早期からの専門科目への学習の動機付けを図る必要性があると考えられる。一方で、「SNSを安全に使うためのルール・方法」の自己評価が高かったことは、現代の社会環境として、スマートフォンによるSNSの利活用が高校生の中にも広まっているものと考えられる。医療職への道を歩む学生に対しては、情報リテラシーの理解をさらに深めるための教育、指導が必要である。

③ 進路選択に関わる情報収集と意思決定について

(1) 札幌医科大学を受験することを決定した時期(図12)

札幌医科大学を受験することを決定した時期について、「高校入学前」、「高校1年生」、「高校2年生」、「高校3年生4~12月」、「高校3年生1月以降」、「高校卒業後」の六肢択一で回答を得た。

その結果、「高校3年生4~12月」が最も多く34.3%、次いで「高校1年生」と「高校2年生」が同率で20.0%であった。学科別でみると、看護学科は「高校3年生4~12月」、理学療法学科は「高校1年生」と「高校2年生」、作業療法学科は「高校3年生4~12月」の割合が最も高かった。理学療法学科は高校2年生より前に本学への受験を決定している学生が6割以上であり、他の学科よりも決定が早い傾向がみられた。

高校での履修科目決定時期も踏まえ、できる限り早期に本学の魅力ならびに、受験に関わる情報を発信していく必要がある。

(2) 進路選択をする際に役立った情報(複数選択)(図13, 図14)

進路選択をする際に役立った情報について、「大学パンフレット」、「大学ホームページ」、「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「大学ポスター」、「新聞記事等」、「その他」から複数回答可で回答を得た。

その結果、「大学パンフレット」が最も多く94.3%で、次いで「大学ホームページ」が80.0%であった。「受験企業等のWEBサイト」、「受験雑誌」、「新聞記事等」、「その他」については1.4~10.0%であり、「大学ポスター」の回答はなかった。学科別にみると、理学療法学科は、他の学科と比較して、「大学ホームページ」が55.6%と少なく、「新聞記事等」が11.1%と多い傾向にあった。

大学パンフレットは高校訪問等で冊子を配布している他、大学ホームページに掲載しており、活用のしやすさがあったと思われる。このように受験希望者がいつでも閲覧できる媒体の充実が必要

であるといえる。また、大学ホームページは、令和5年度に保健医療学部も全学のホームページに統合され、検索のしやすさや視認性等が向上し、以前よりも利用しやすい状況にある。今後はさまざまな情報をふまえ、その有用性を確認し、より効果的な媒体による情報提供をしていく必要があると考える。

(3) 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）（図15, 図16）

本学を知るうえで役立った情報源として、「広告媒体」「出前講座」「家族・親戚」「オープンキャンパス」「高校の先生」「知人・先輩」「入試相談・説明会」「予備校」「その他」から、複数回答可で回答を得た。

その結果、「オープンキャンパス」が50.7%と最も多く、次いで「高校の先生」が47.8%、「入試相談・説明会」が43.5%であった。学科別でみると、看護学科は「オープンキャンパス」が58.5%、「高校の先生」が51.2%と特に多かった。理学療法学科は、「オープンキャンパス」は33.3%、「高校の先生」も33.3%であり、他の学科に比べて少ない傾向が見られた。

看護学科や作業療法学科においては、「オープンキャンパス」や「高校の先生」の割合が高く、本学や他者から提供されることにより、情報を得ていた可能性が窺える。しかしながら、理学療法学科は、これらの割合は低く、これら以外の情報源を自ら探すことによって、情報を得ていた可能性が示唆される。アフターコロナとなり「オープンキャンパス」や「入試相談・説明会」など、本学の魅力を直接的に発信すること、高校訪問などを通じて高校の先生にも本学を知っていただく機会をもつことが重要だといえる。

(4) 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率・満足度（表1, 図17, 図18）

「オープンキャンパス」「高校で実施された大学説明会」「塾・予備校で実施された大学説明会」「一般の会場で実施された大学説明会」「その他、模擬授業など」の全5項目について、その参加率と満足度の回答を得た。満足度については『満足』、『どちらかといえば満足』、『どちらかといえば不満』、『不満』から四肢択一の回答を得た。

参加率は、「オープンキャンパス」が54.3%、「高校で実施された大学説明会」が77.1%であり、参加率が高かった。

満足度は5項目全てにおいて、『満足』、『どちらかといえば満足』を合わせてほぼ100%に近い満足度であった。「オープンキャンパス」について『満足』と回答したのは86.8%であり、2023年度の62.2%よりも割合が高くなっていた。作業療法学科では他の学科より『満足』と回答した割合がやや低い傾向がみられた。一方で、「高校で実施された大学説明会」は、『満足』と回答した割合が2022年度・2023年度よりもやや低くなっており、改善の余地が示唆された。

(5) 本学への入学（受験）を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか（図19）

本学への入学（受験）を決めるにあたり、最も重視した意見やアドバイスを受けた人について、「両親・保護者」「兄弟・姉妹」「高校の先生」「塾・予備校の先生」「親戚や知人」「本学に在学中の友人や先輩」「特に相談しなかった」の七肢択一で回答を得た。

その結果、「高校の先生」が最も多く40.0%、次いで「両親・保護者」が28.6%、「塾・予備校の先生」が17.1%の順であった。学科別にみると、看護学科は「高校の先生」の割合が高く（47.6%）、「両親・保護者」の割合が低い（19.0%）傾向がみられた。一方で、作業療法学科は「両親・保護者」

の割合が他の学科と比較して高かった（47.4%）。

本学を知るうえで役立つ情報と同様に「高校の先生」も進路選択の重要な役割を担っており、高校訪問を含め継続的な連携を図っていく必要がある。また、高校生のみではなく、その両親・保護者を含めて、情報提供の内容と方法を検討していく必要がある。

(6) 札幌医科大学の選択理由（図20, 図21）

札幌医科大学を選択した理由について、「札幌医科大学のブランドやイメージ」、「カリキュラムや授業構成」、「教授・講師陣が充実している」、「入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）」、「キャンパスの立地や周辺環境」、「両親や先生から勧め」、「自分の能力レベルに相応」、「通学の利便性」の全8項目について、『大きな理由になった』、『少しは理由になった』、『情報はあったが、理由にはならなかった』、『情報がなかった・知らなかった』から四肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体として『大きな理由になった』と回答したのは、「カリキュラムや授業構成」が69.8%と最も多く、次いで「教授・講師陣が充実している」が67.7%、「入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）」が63.9%の順であった。

学科別にみると、理学療法学科では「教授・講師陣が充実している」が87.5%で高い傾向にあり、作業療法学科は「入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）」（85.7%）を選択理由とした割合が高かった。

2022・2023年度と比較すると、「カリキュラムや授業構成」、「通学の利便性」が高くなっており、これらの強みを生かした広報戦略を練ることが重要である。

(7) 札幌医科大学の魅力（図22, 図23）

本学の魅力について、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」、「札幌医科大学周辺の環境が魅力的である」の4項目について、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらともいえない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』、『わからない』から六肢択一の回答を得た。

4項目のうち『そう思う』と回答した割合が最も多かったのは、「札幌医科大学の施設・設備が魅力的である」の91.4%であり、「札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である」が80.0%と続いた。

学科別にみると、理学療法学科では、「札幌医科大学の教授陣が魅力的である」に『そう思う』と回答したのは88.9%であり、他の学科よりも高い数値を示した。札幌医科大学の施設・設備に関する評価は既に得られているので、今後は教育方針・カリキュラム・教授陣の魅力を継続的に発信していくことが重要である。

(8) 建学の精神の認知度（図24）

本学の建学の精神について、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三肢択一の回答を得た。

その結果、学部全体及び各学科に共通して、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が62.9%で、2023年度よりも減少していた。また、「知らない、聞いたり読

んだりしたことがない」と回答する割合は1.4%と低く、入学後により深い理解を促すための対応が必要と考える。

(9) アドミッションポリシーの認知度 (図25)

保健医療学部のアドミッションポリシーについて、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」、「聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない」、「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」から三択一-の回答を得た。

その結果、「聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している」と回答した割合が77.1%で、2023年度とはほぼ同様の傾向だった。「知らない、聞いたり読んだりしたことがない」と回答した者はいなかったため、アドミッションポリシーを理解した上で入学する傾向が高く維持されていると言える。

④ 大学入学後の不安・期待、活動について

(1) 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち (図26, 図27)

札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ちとして、「1. 入学を希望していた大学である」、「2. 入学した学部は希望通りの学部である」の2つの質問を設け、『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』、『どちらでもない』、『どちらかといえばそう思わない』、『そう思わない』から五択一-の回答を得た。

その結果、1については、学部全体で『そう思う』(82.9%)、『どちらかといえばそう思う』(14.3%)を合わせて97.2%であった。とくに、看護学科では『そう思う』が85.7%を占めており、他学科よりも高かった。しかしながら、否定的な意見も5%ほど認められており、入学後の動向に留意する必要があるだろう。

2については、学部全体で『そう思う』、『どちらかといえばそう思う』を合わせて97.2%であった。いずれの学科でも90%以上の学生が、『そう思う』と回答しており、希望通りの学部に入學できたと考えている学生の割合が高かった。

(2) 入学にあたって、不安に思っていること (図28, 図29)

入学にあたって不安に思っていることについて、「経済的なこと」、「住まい・通学などの生活環境のこと」、「健康に関すること」、「学業についての不安」、「友人などの人間環境」、「卒業後の進路・勤務に関すること」、「その他」、「特にない」のうち、複数回答可で尋ねた。

その結果、「学業についての不安」が最も多く72.5%であった。次いで、「友人などの人間環境」(50.7%)、「卒業後の進路・勤務に関すること」(24.6%)、「経済的なこと」(21.7%)、「住まい・通学などの生活環境のこと」(17.4%)、「健康に関すること」(8.7%)であった。「特にない」と答えた学生は14.5%であった。2023年度調査と比較して、2024年度調査では、「学業についての不安」および「友人などの人間環境」の2項目に関する不安が10ポイント以上増加していた。学科ごとに見ると、看護学科では「友人などの人間環境」(53.7%)が他学科に比較して多く、理学療法学科では「学業についての不安」(44.4%)が低く、作業療法学科では「卒業後の進路・勤務に関すること」(36.8%)が多い傾向が見られた。

以上より、各学科の特徴をふまえた、新入生の不安軽減に向けた情報提供やサポート等が必要だと考える。

(3) 大学生活の中で力を入れたい活動（図30, 図31）

大学生活の中で力を入れたい活動として、「学部の専門的な勉強」、「語学に関する勉強」、「部活・サークル活動」、「社会活動・ボランティア活動」、「海外への短期留学」、「アルバイト」、「一般教育科目の勉強」の7項目について、『特に力を入れたい』から『力を入れたいと思わない』の四肢択一の回答を得た。

その結果、『特に力を入れたい』の割合が最も高かったのは、「学部の専門的な勉強」(90.1%)であり、次いで「一般教育科目の勉強」(31.4%)、「アルバイト」(25.7%)であった。

2023年度と比較して、学習に関連しない項目において『どちらでもない』または『力を入れたいと思わない』の回答が増えており、学生が幅広い活動に興味を持つことが出来ていない可能性が示唆された。

(4) 現在（4月）困っていること（自由記載）（表2）

入学時点において困っていることについて自由記述で回答を求めたところ、看護学科8件、理学療法学科1件、作業療法学科2件の回答があった。

具体的には、「睡眠時間の確保」、「生活サイクルの安定」などの生活状況に関するものが5件、「履修登録の方法」、「PCが自宅にないため機械操作に不安」といった学修システムや環境に関するものが3件、「友人ができるか不安」など人間関係のことが1件、「授業についていけるかが不安」といった学業に関するものが2件であった。

この欄に記載したのは全体の約8%であったが、困っていることの内容は多岐に渡っていた。学修システムや環境など、学生生活を積み重ねるにつれて習得可能な内容もあるが、生活状況などは学生生活を通して持続的に続く可能性のある困り事であるため、学生自身で問題解決が困難になった場合に相談できる環境を作っていくことが必要である。

(5) 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（自由記載）（表3）

札幌医科大学で何を求めどんなことに取り組みたいかについて、自由記載で回答を求めた。

看護学科では27件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「看護師としての専門的な知識や技術」、「コミュニケーション能力の獲得」、「主体性や行動力の強化」などであった。その他に、「地域医療への貢献意識」、「助産師や保健師などの進路」、「課外活動やアルバイトを通じた成長」、「自己の価値観を広げることの重視」などが挙げられた。理学療法学科は6件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「医療知識や技術の獲得」、「医療人としての人間性やコミュニケーション能力の獲得」であった。その他の回答としては、「海外で活躍するための準備」、「スポーツ理学療法」などが挙げられた。作業療法学科も14件の回答が得られた。多く挙げられていたのは、「コミュニケーション能力の獲得」や「専門科目の学習」であった。その他の回答としては、「海外で活躍するための準備」などが挙げられた。

全体を通して、「専門的な知識や技術の習得」や「コミュニケーション能力の獲得」などの回答が多く、医療人に求められる内容に対する意欲が高いこと推察できる。加えて、卒後を意識した進路や海外での活躍という回答もあり、保健医療専門職としての資質を高めながら、将来的に活躍できる人材を養成することが大学に求められている役割だといえる。

Ⅲ. 図表

図 1. 入試区分

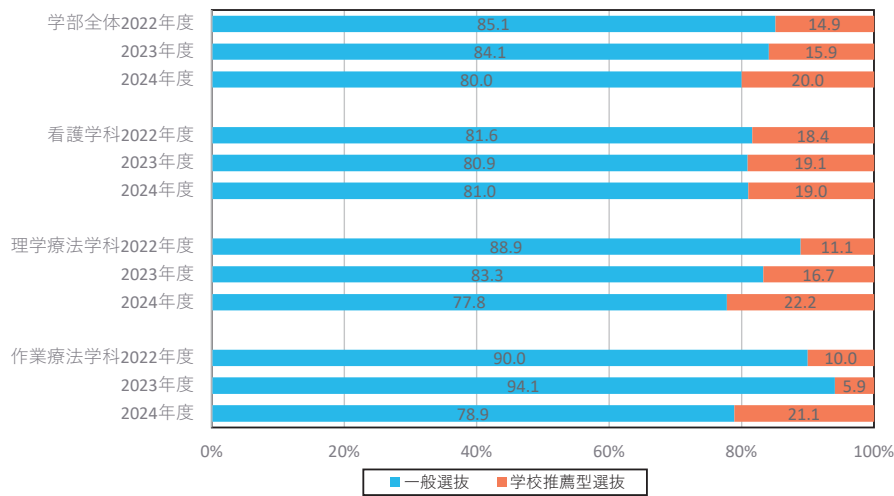


図 2. 入学前の居住地（2月時点の居住地）

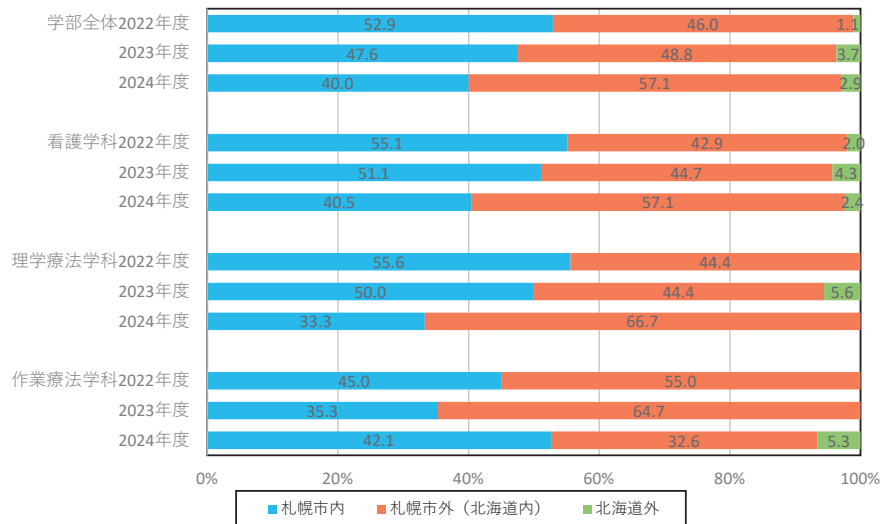


図 3. 入学後の住まい

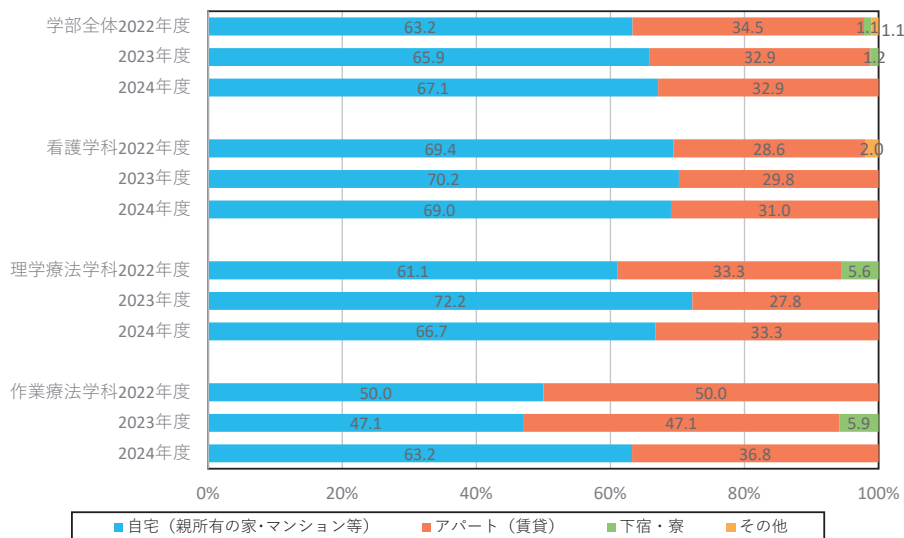


図 4. 主な通学手段（複数選択可）

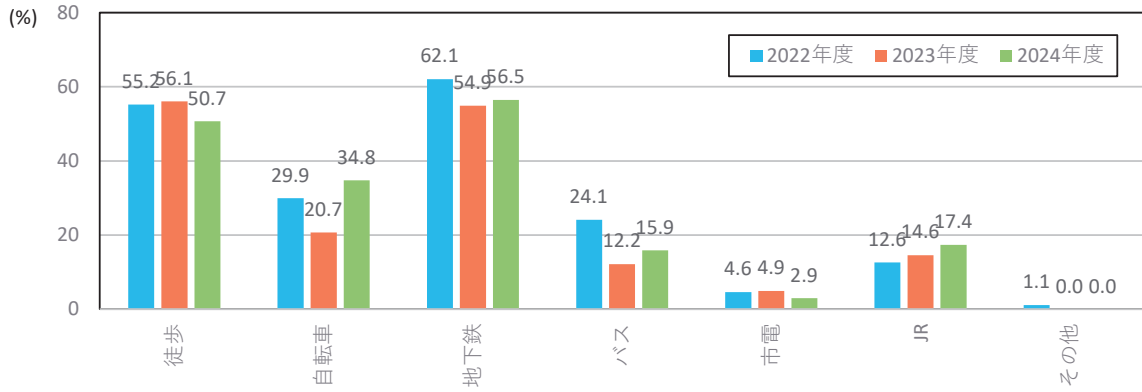


図 5. 主な通学手段（複数選択可）：学科別（2024年度）

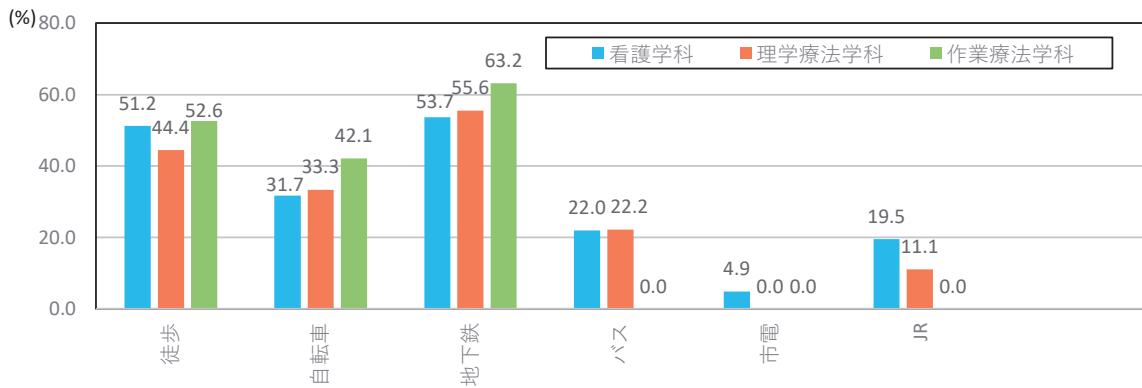


図 6. 自分専用のパソコンと印刷できるプリンタの所有

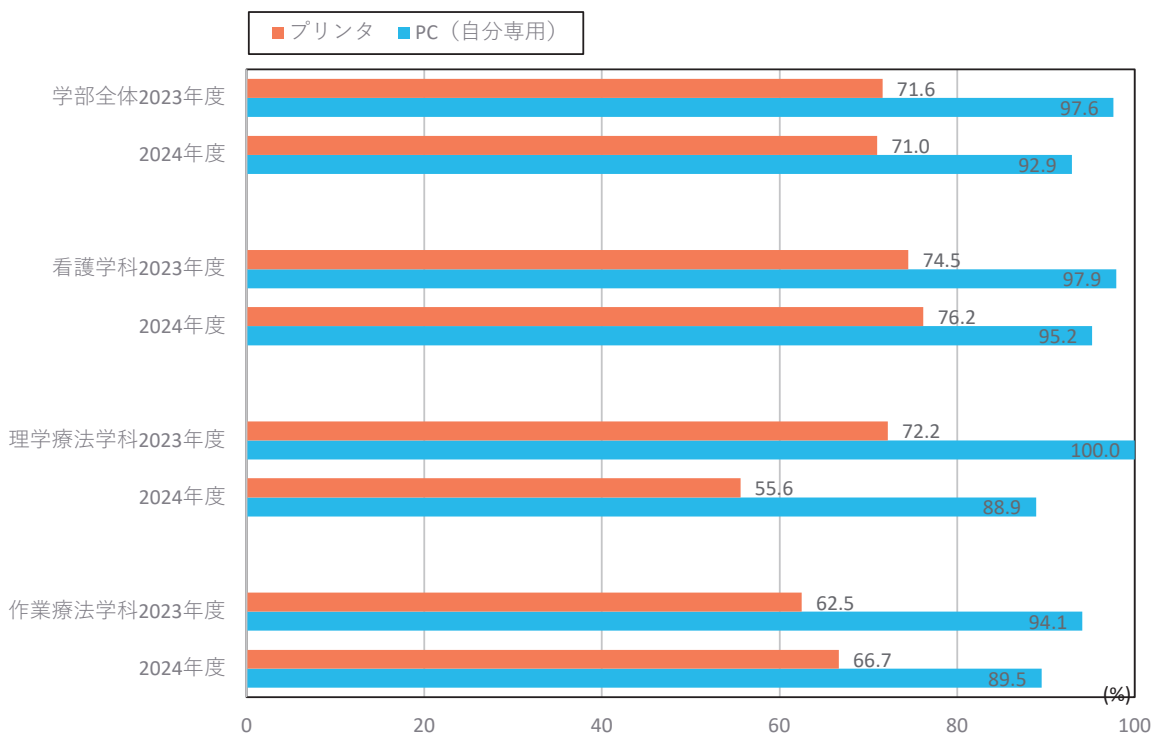


図7. 高校3年生の9月頃における平日の勉強時間（学校での授業を除く）

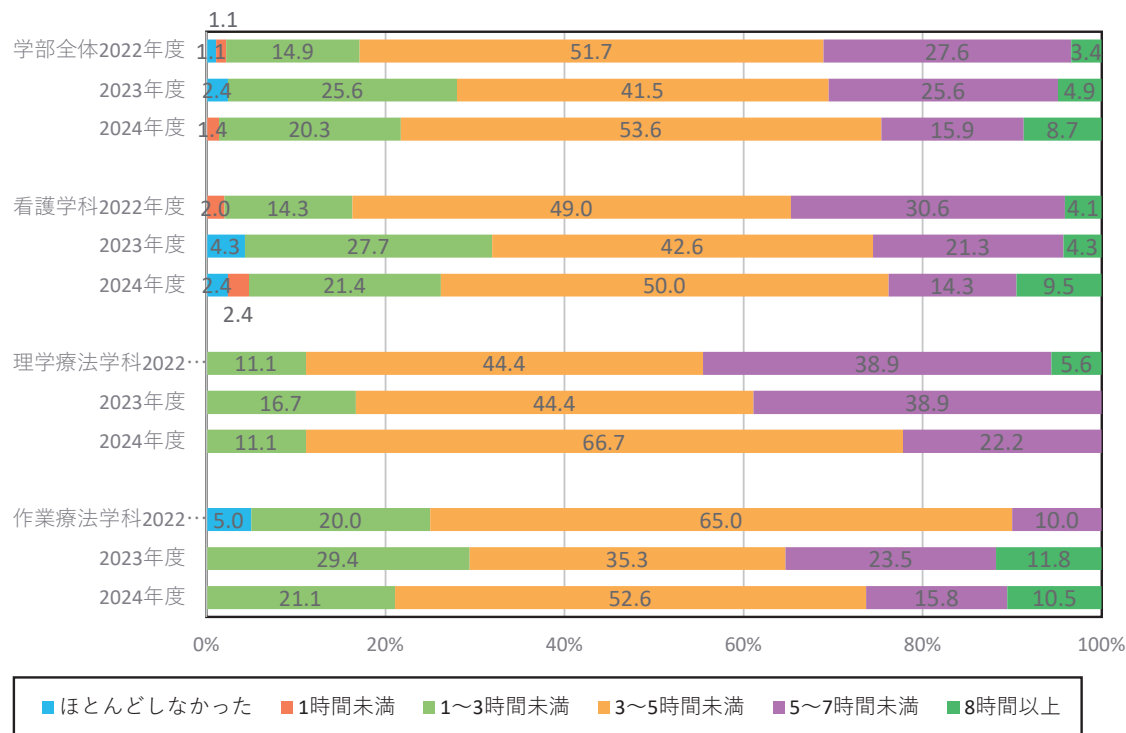


図8. 高校時代における能動的な学習の経験：学部全体

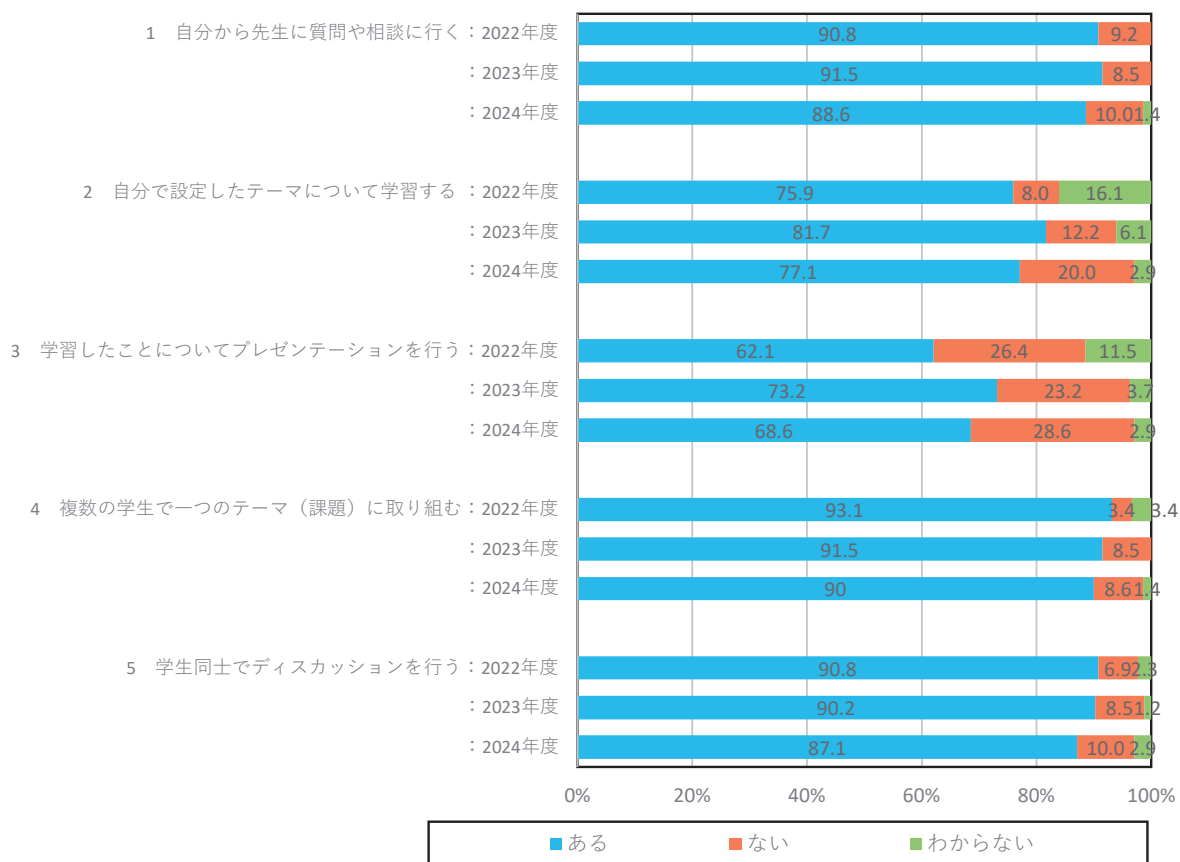


図9. 高校時代における能動的な学習の経験：学科別



図 10. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価

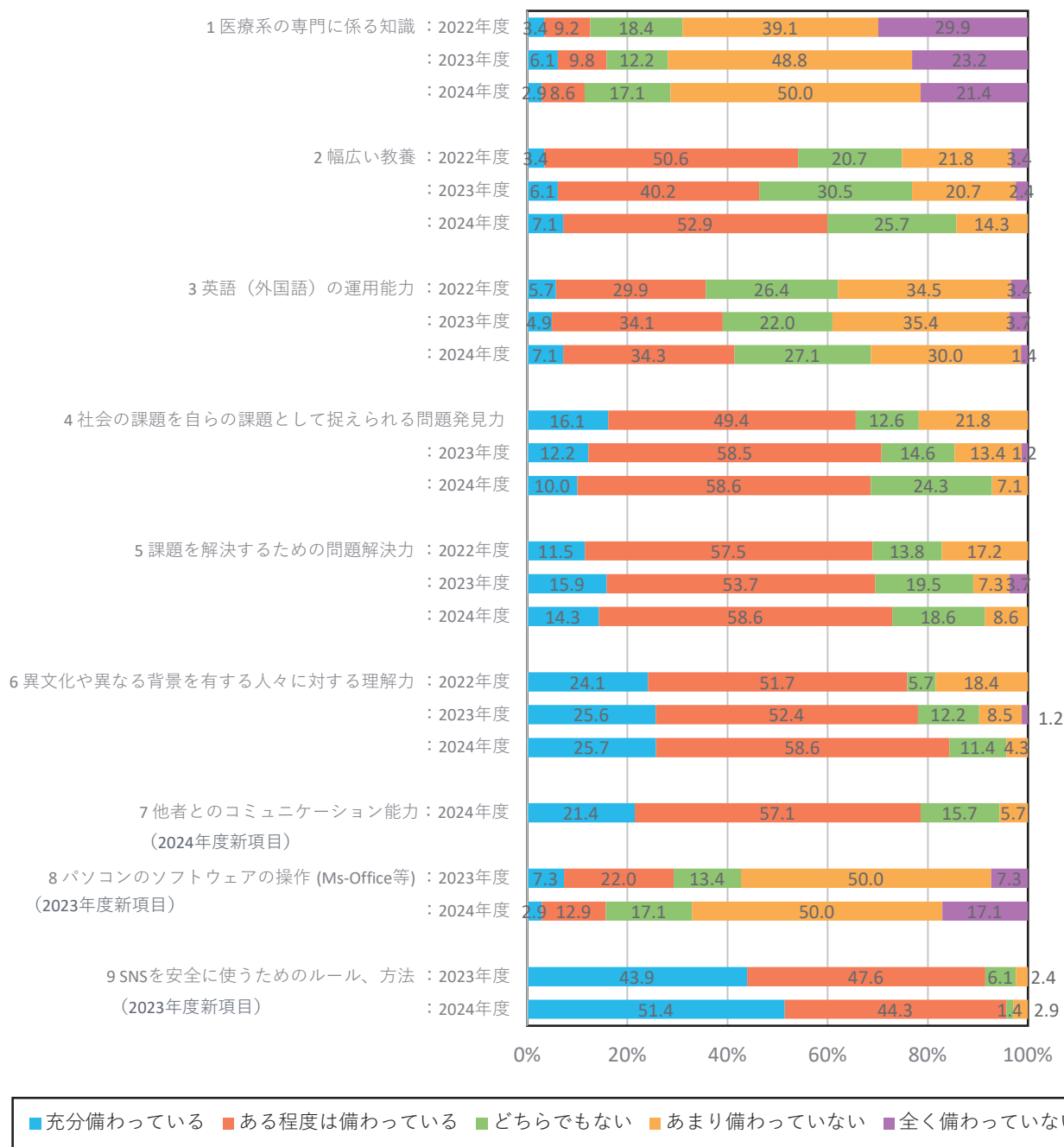


図 11. 現時点（4月）での知識・能力の自己評価（学科別）（2024年度）

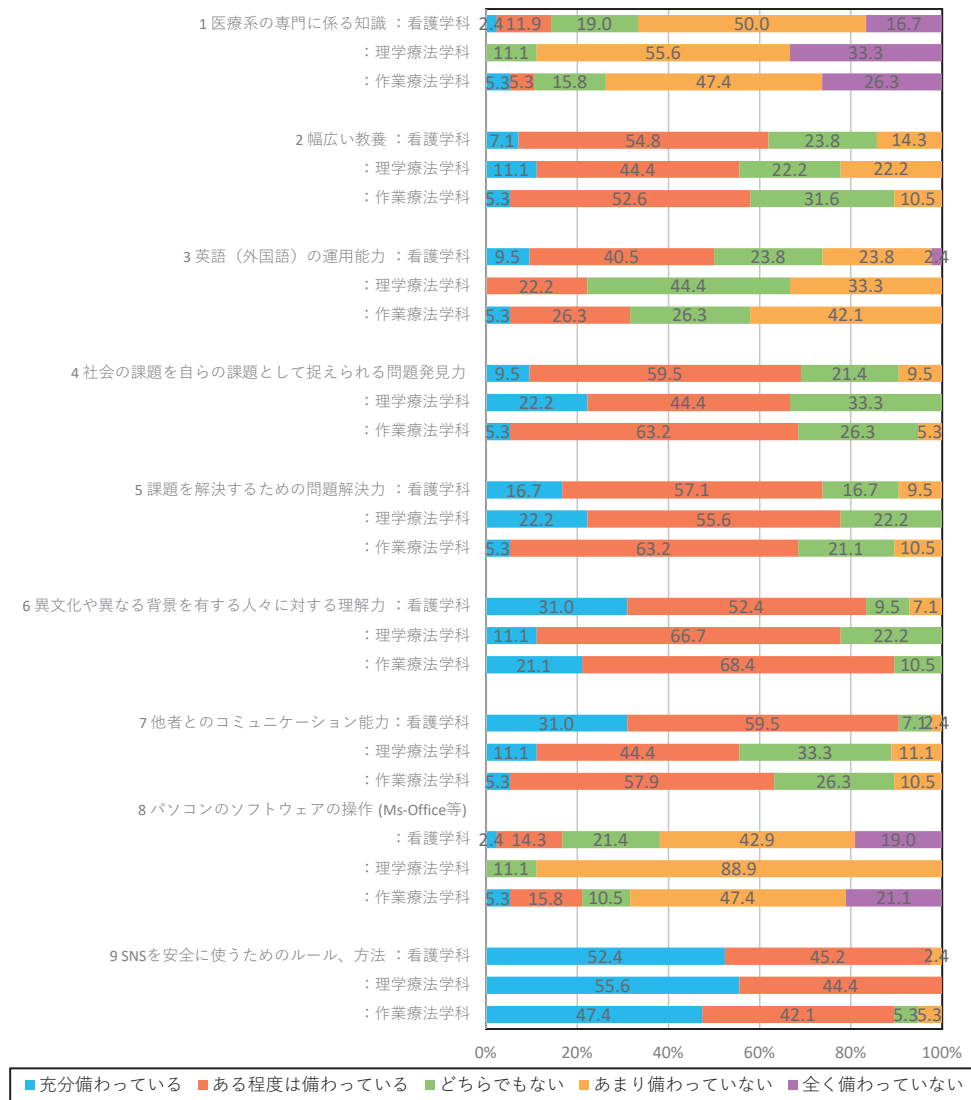


図 12. 札幌医科大学を受験することを決定した時期

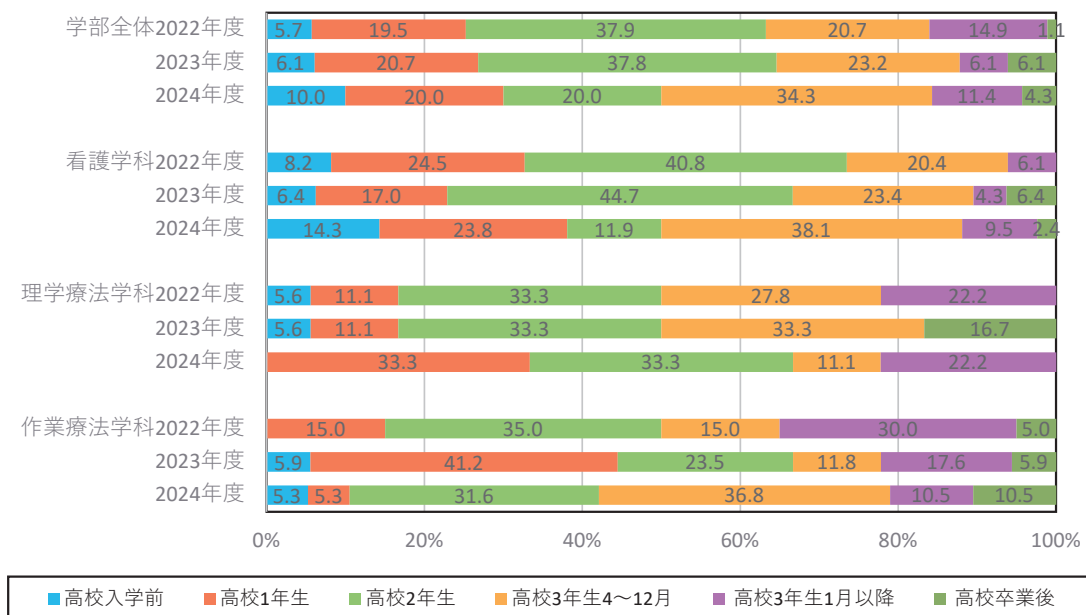


図 13. 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）：学部全体

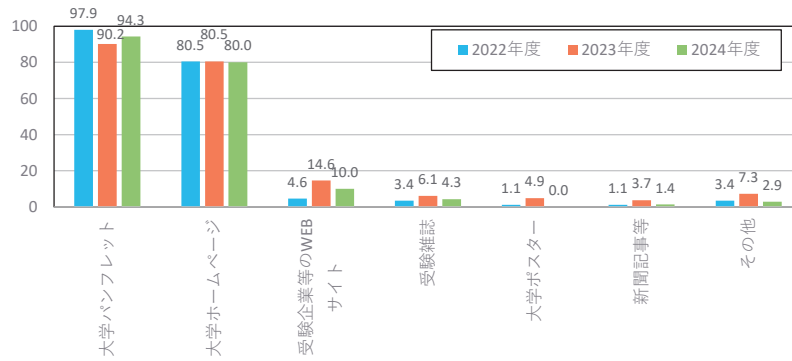


図 14. 進路選択をする際に役立った情報（複数選択）：学科別（2024年度）

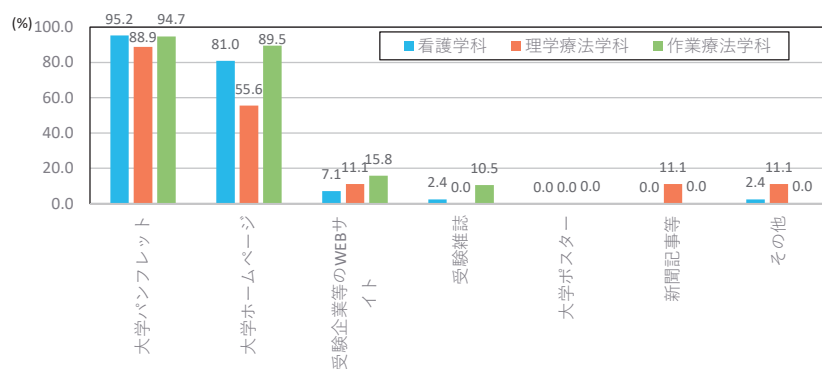


図 15. 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）：学部全体

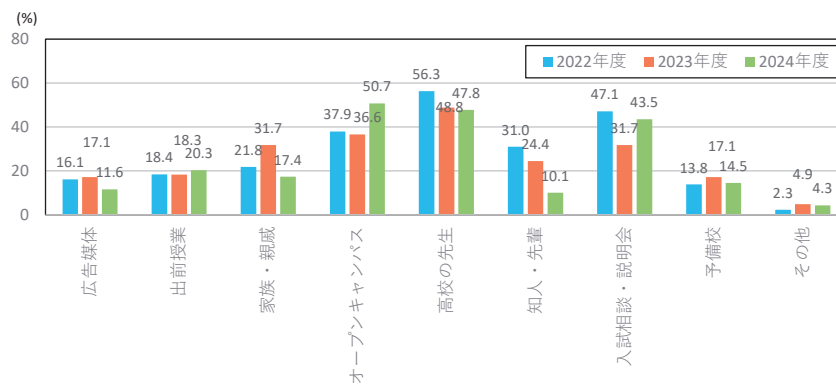


図 16. 本学を知るうえで役立った情報源（複数選択）：学科別（2024年度）

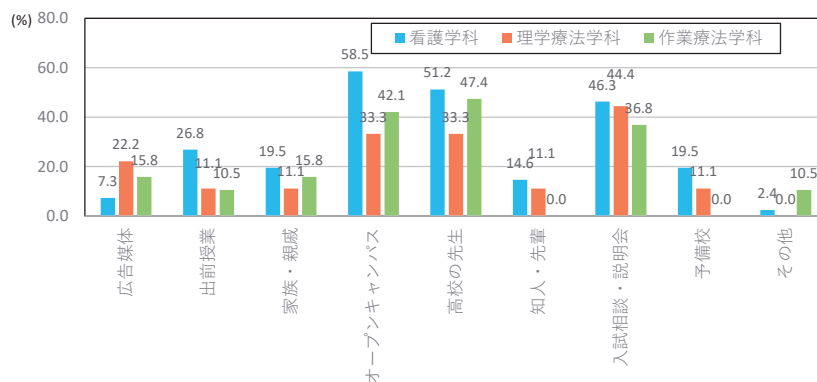


表 1. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会への参加率 (%)

学科	年度	オープン キャンパス	高校で 実施された 大学説明会	塾・予備校で 実施された 大学説明会	一般の会場で 実施された 大学説明会	その他、 模擬授業など
学部全体	2022	51.7	73.6	3.4	6.9	21.7
	2023	54.9	62.2	8.5	11.0	28.0
	2024	54.3	77.1	5.7	5.7	20.0
看護学科	2022	51.0	75.5	2.0	8.2	24.5
	2023	55.3	68.1	8.5	10.6	27.7
	2024	64.3	64.3	9.5	4.8	19.0
理学療法学科	2022	50.0	66.7	5.6	0.0	16.7
	2023	66.7	61.1	5.6	11.1	33.3
	2024	33.3	77.8	0.0	0.0	33.3
作業療法学科	2022	55.0	75.0	5.0	10.0	15.0
	2023	41.2	47.1	1.8	11.8	23.5
	2024	42.1	57.9	0.0	10.5	15.8

図 17. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度 (参加者のみ)

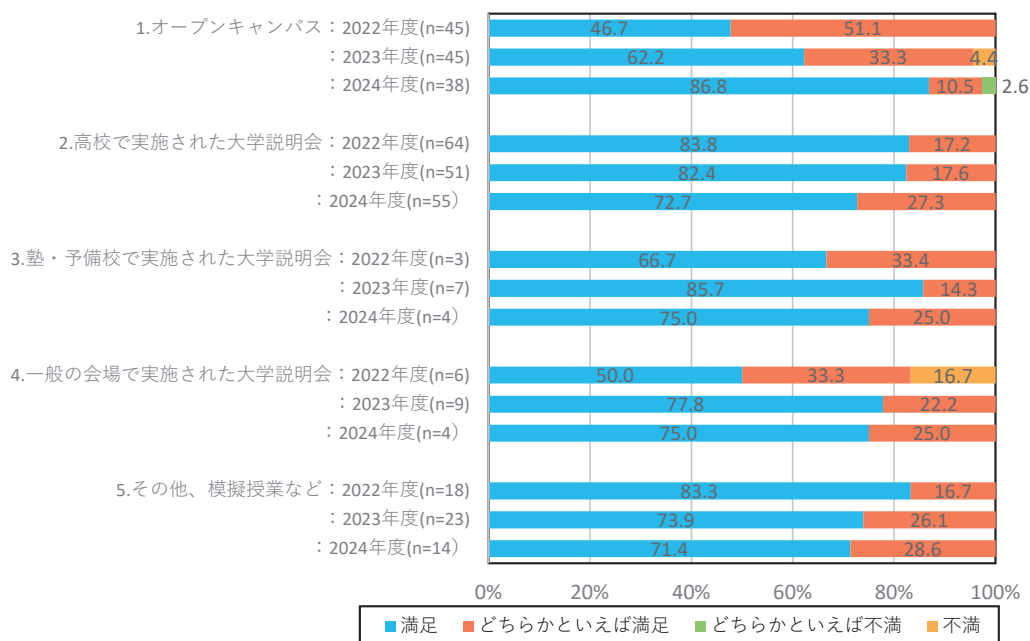


図 18. 札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会の満足度（参加者のみ）：学科別 * 抜粋

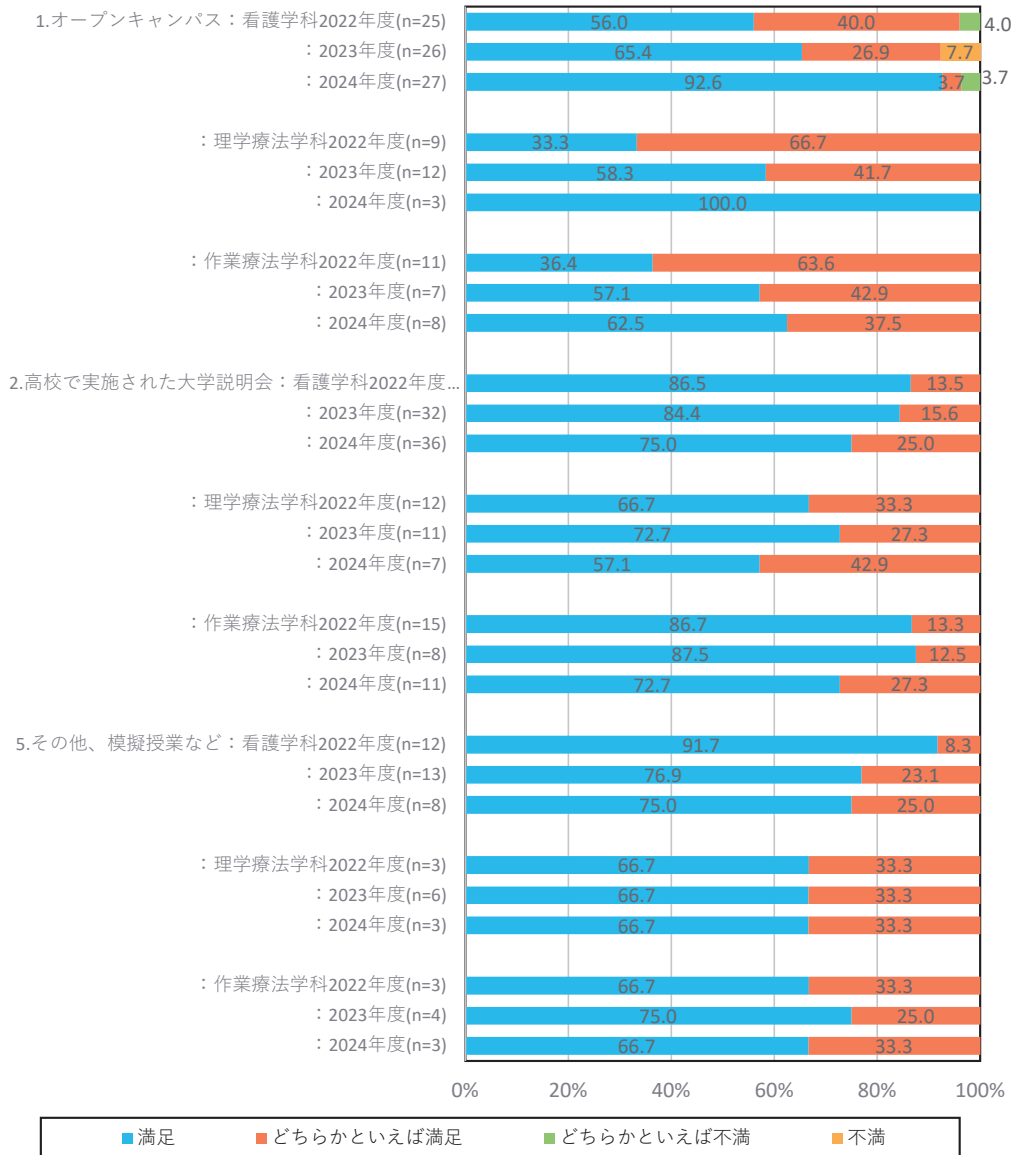


図 19. 本学への入学（受験）を決めるにあたり、誰からの意見やアドバイスを最も重視したか

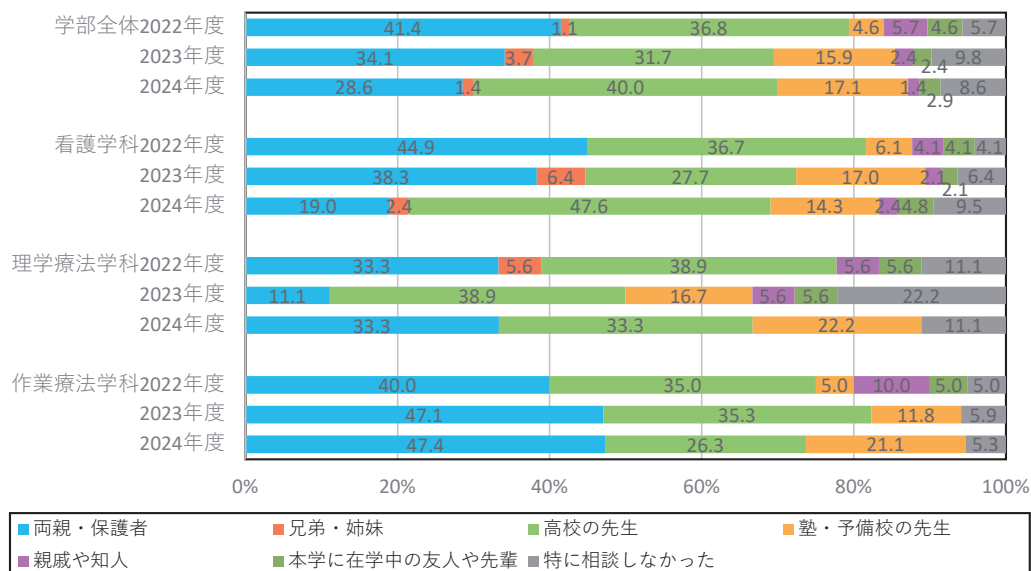


図 20. 札幌医科大学の選択理由（学部全体）

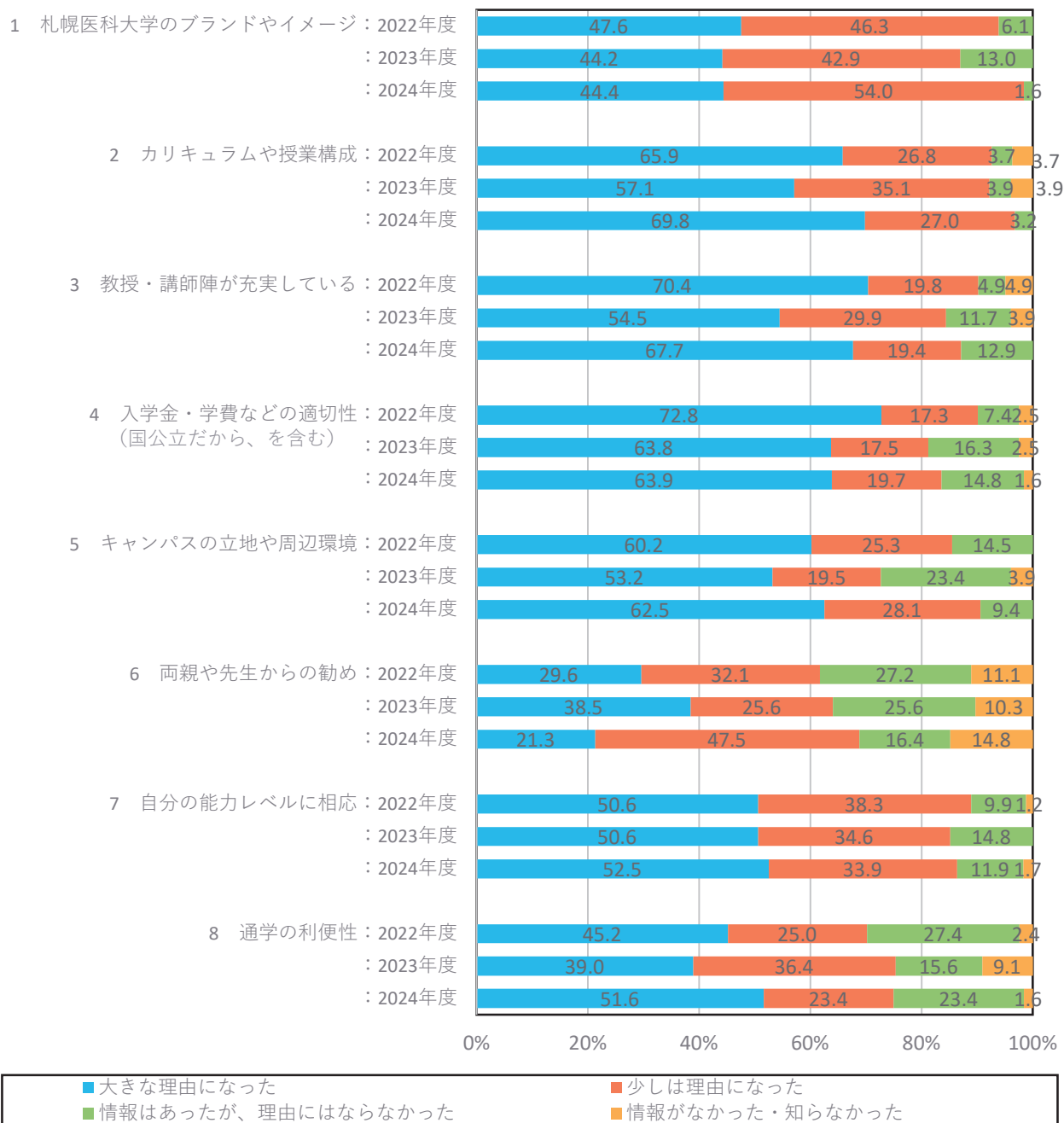


図 21. 札幌医科大学の選択理由（学科別）（2024 年度）

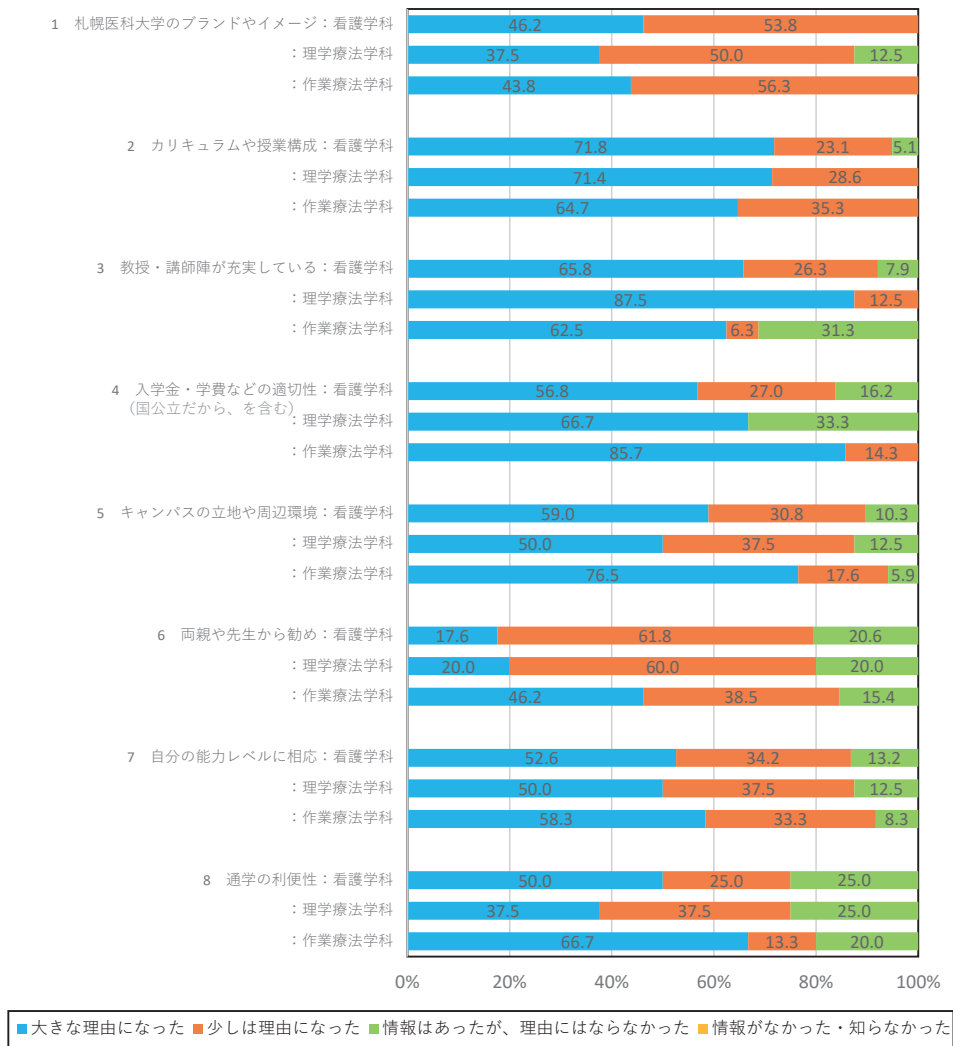


図 22. 札幌医科大学の魅力

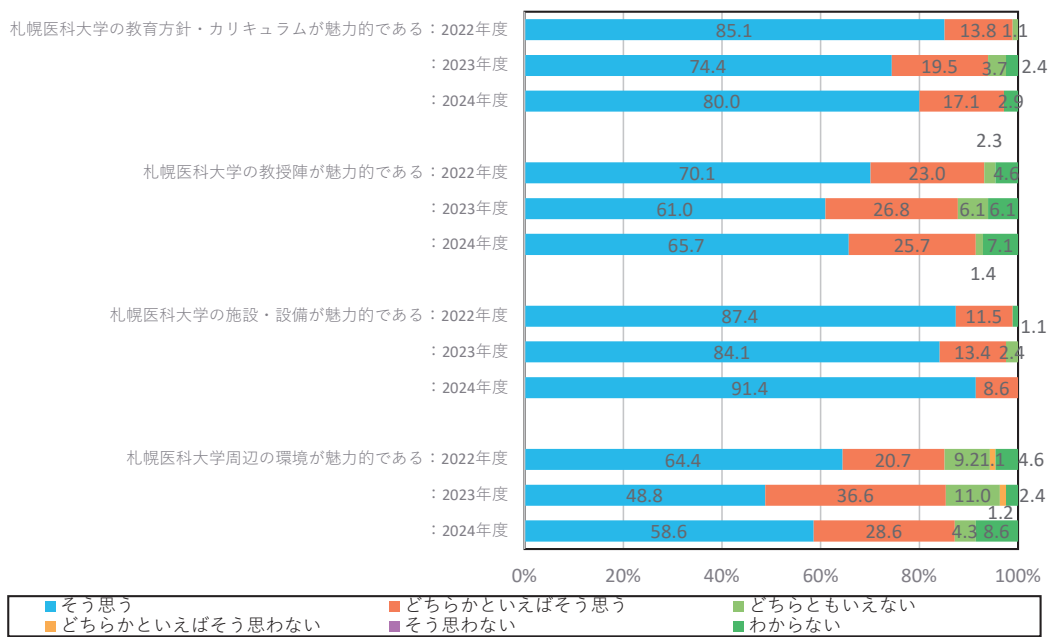


図 23. 札幌医科大学の魅力（学科別）（2024 年度）

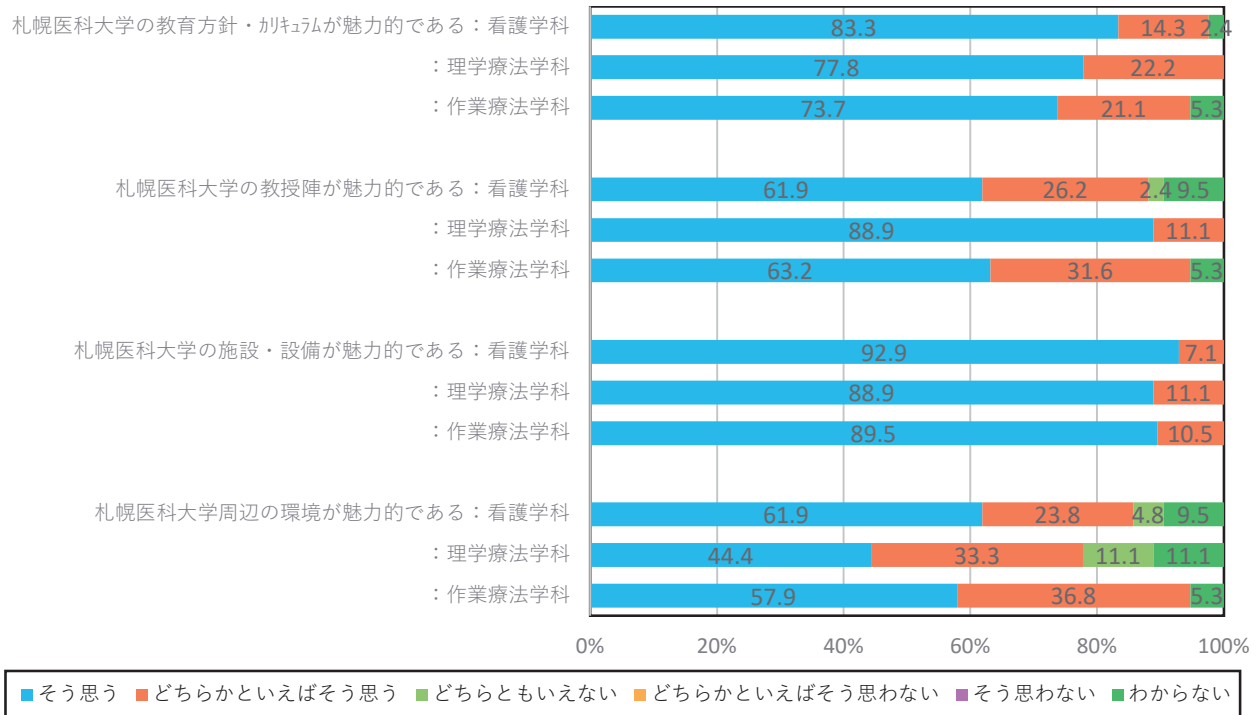


図 24. 建学の精神(進取の精神と自由闊達な気風、医学・医療の攻究と地域医療への貢献)の認知度

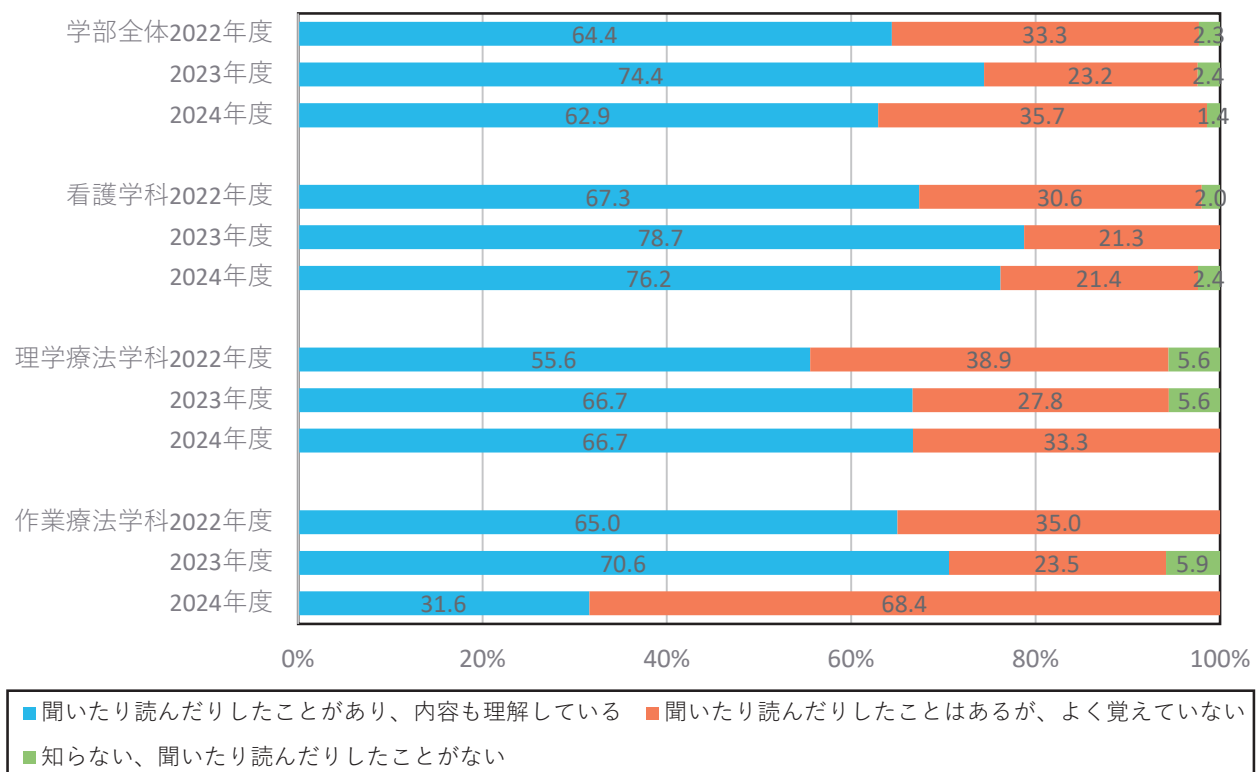


図 25. アドミッションポリシーの認知度

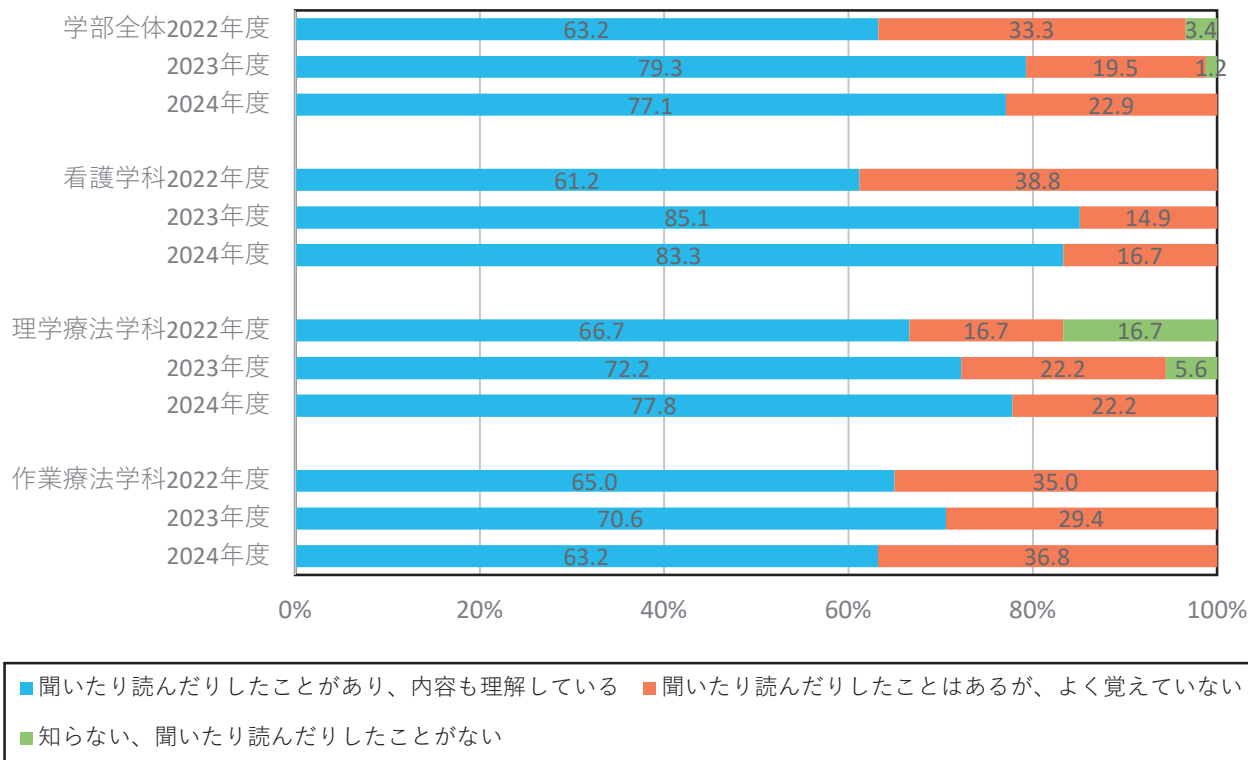


図 26. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：1. 入学を希望していた大学である

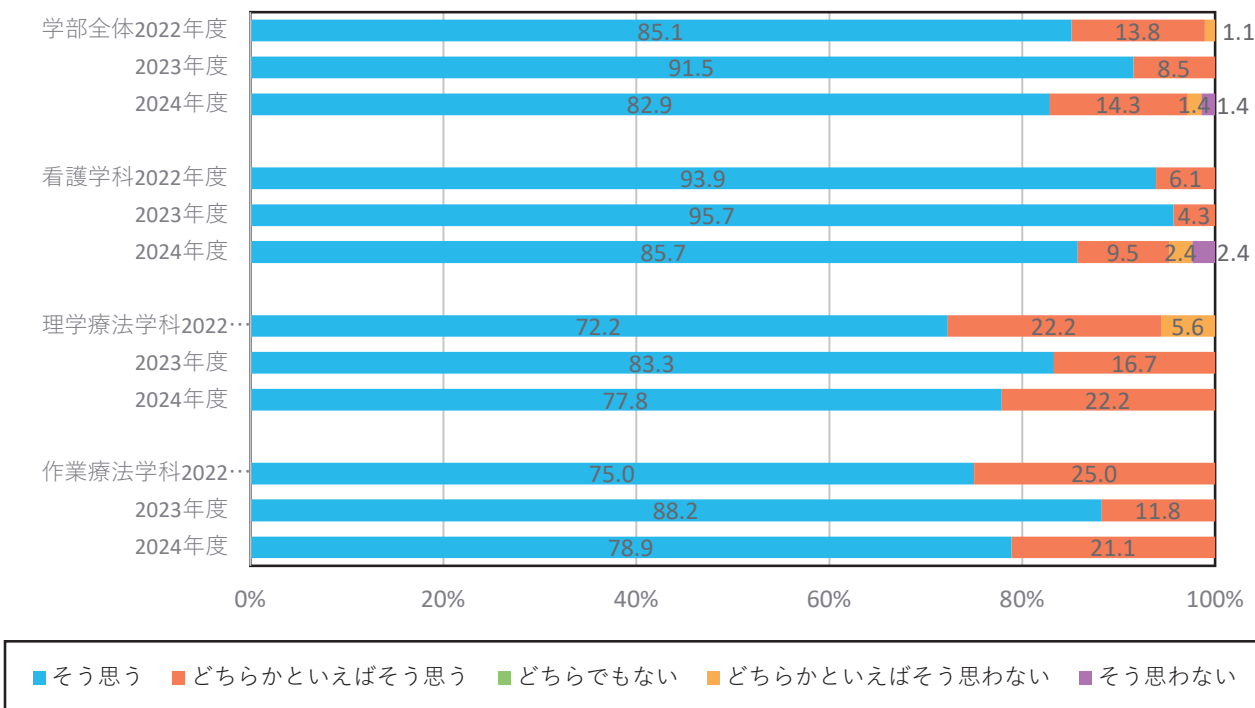


図 27. 札幌医科大学への入学決定にあたっての気持ち：2. 入学した学部は希望通りの学部である

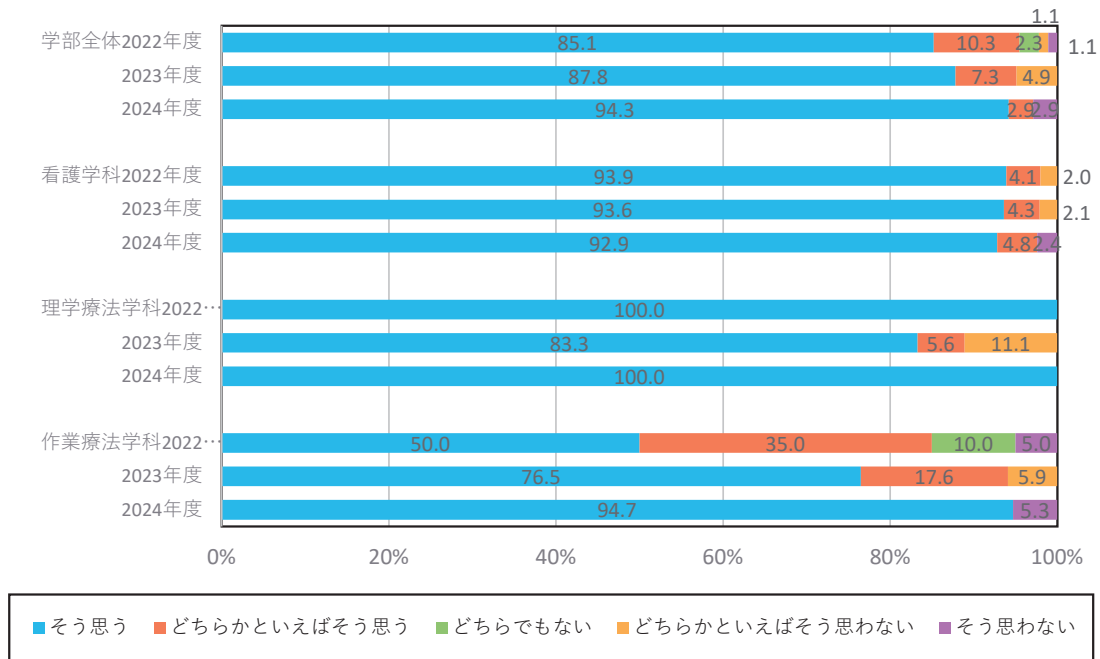


図 28. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）

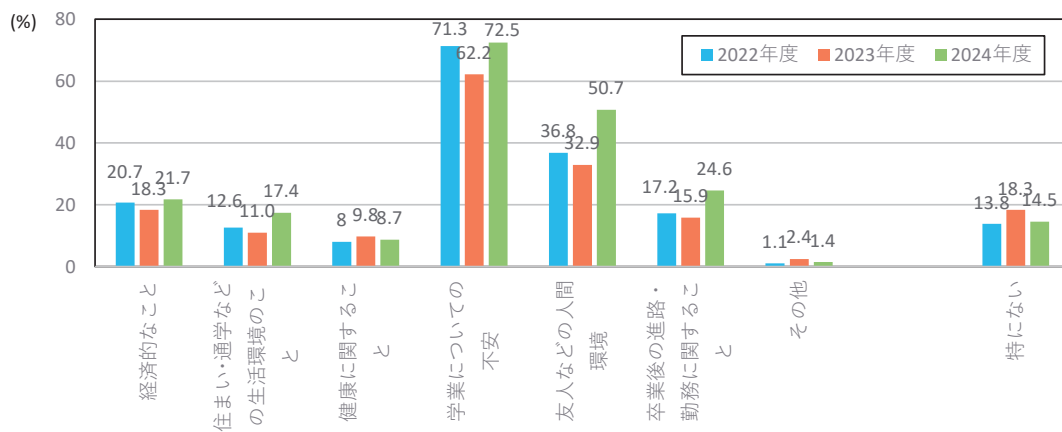


図 29. 入学にあたって、不安に思っていること（複数回答可）：学科別（2024年度）

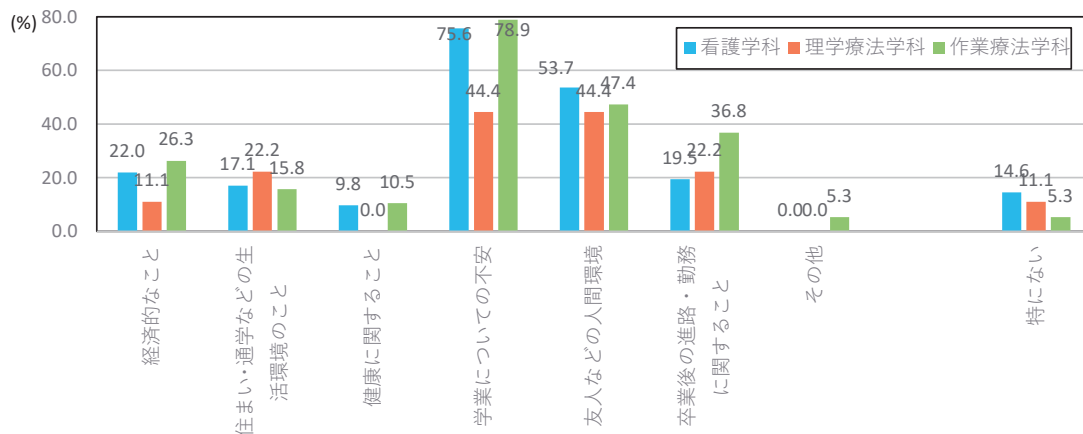


図 30. 大学生活の中で力を入れたい活動

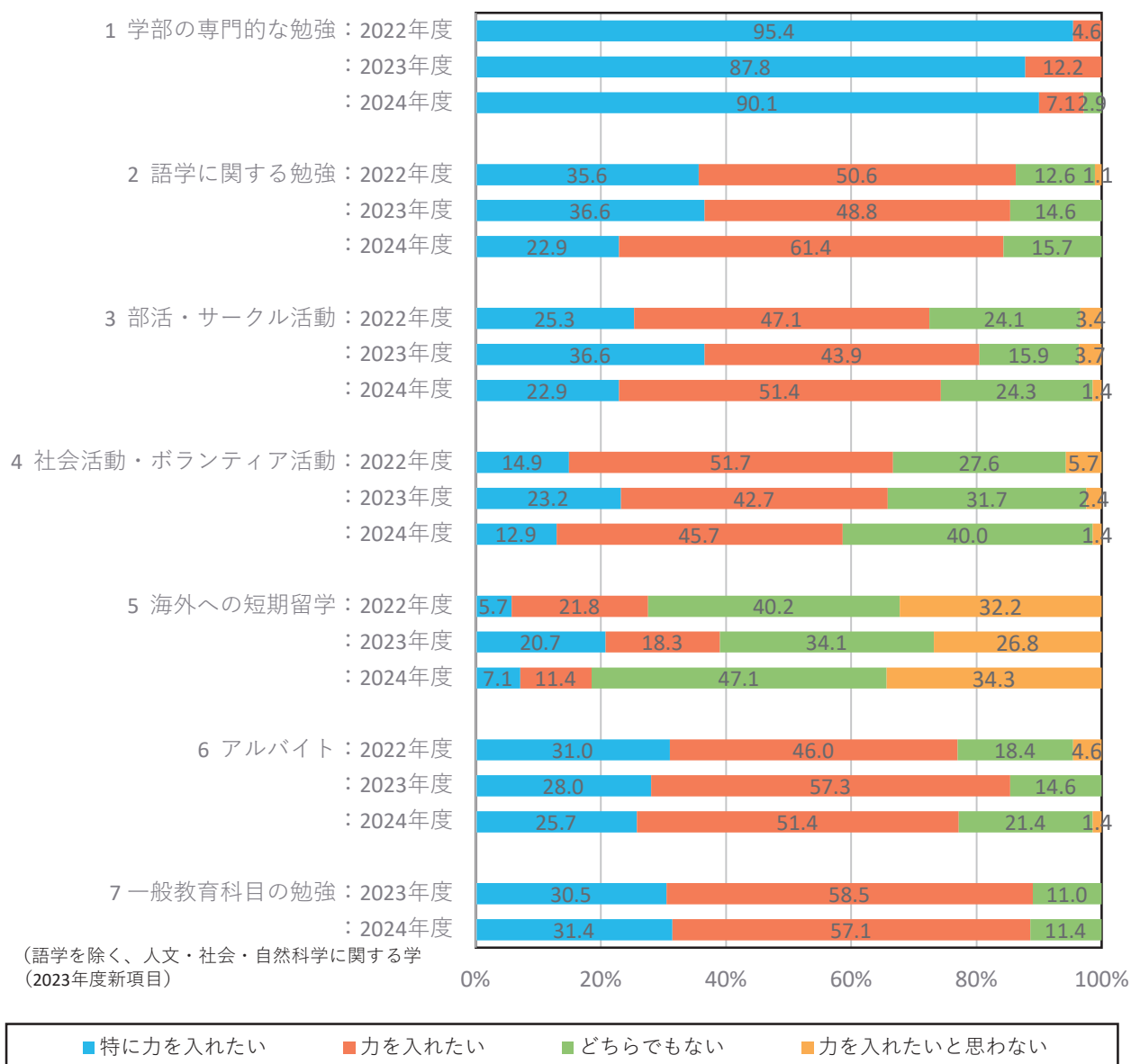


図 31. 大学生活の中で力を入れたい活動（学科別）（2024 年度）

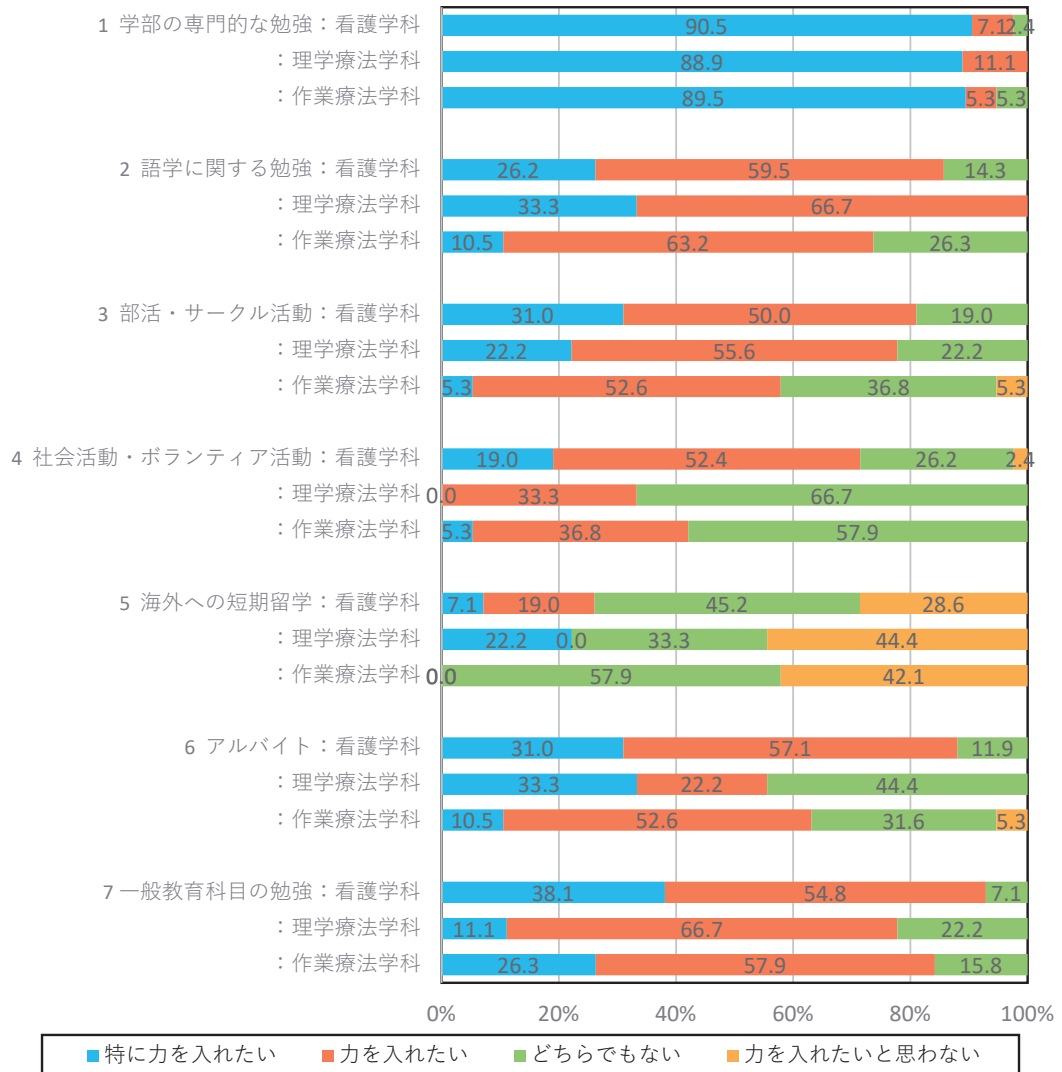


表 2. 現在（4月）困っていること（自由記載）

<看護学科>

- ・ A市から来た生徒が私しかいなく、友達ができるか不安です
- ・ 睡眠時間の確保
- ・ 帰宅時間が遅くなり、自宅を出発する時間が早まったことによる睡眠時間の確保
- ・ PCが自宅にないため、機械をつかったりする部分が苦手なこと
- ・ 履修登録が不安です
- ・ 学サポのメールがGmailだったため、設定がまだできていないこと
- ・ 生活サイクルの安定
- ・ 授業についていけるか不安

<理学療法学科>

- ・ 学業面での不安

<作業療法学科>

- ・ 自分自身が忘れっぽいところ
- ・ 時間に余裕がないのが悩み（*記載を一部改変）

表3. 札幌医科大学で何を求め、どんなことに取り組みたいか（自由記載）

<看護学科>

- ・同学科他学科に関わらず色々な人と積極的にコミュニケーションをとること
- ・4年後、附属病院またはそれに準ずる地域への貢献ができる病院で力になりたいと考えているので1年次の前半から専門科目含め勉学していきたい。また、頭に入っている行動に移せないと意味が無いのでそこを追求していきたい。自分からできる範囲で実践的な演習にとりくみ、先生方から助言をいただいて、自分の理想とする医療人を再度追い求めていきたい
- ・せっかく施設も教育も充実している札医で学べるので、知識量技術ともに患者さんが不安を感じない看護師になりたい
- ・チーム医療についてよく理解し、スキルを身につけたい
- ・ディスカッションや合同授業の中での活発な意見交流。他者への理解力や患者さんに寄り添う力をつけていくこと
- ・よりよい医療人になるために看護に関する知識を身につけていきたい
- ・学びたいことを学びたいだけ学び、目標としている助産師像に近づきたい
- ・学科内で協力して共に立派な看護師になること。助産師や保健師などの進路についても考えていきたい
- ・学生の段階からチーム医療の基礎となるコミュニケーション力や判断力、行動力を育むことのできる環境を最大限活用して看護を学びたい
- ・患者やその家族に寄り添える医療従事者になるための人間力
- ・看護学における専門的な学び
- ・看護師になるための知識を身につけたい
- ・看護師に必要な知識を確実に身につけるとともに、多くの人とのコミュニケーションを通して人間性を高め大きく成長したい。振り返った時に充実した大学生活だったと言えるように日々の努力を怠らずいろんなことに挑戦してみたい
- ・自分で課題を設定して何かに取り組んだ経験が乏しいので、その点に力を入れて取り組みたいです
- ・自分の考えをしっかりと持って伝えることができるように、積極的にグループワークなどに参加していきたいです
- ・自分の専門とする看護学科の人だけではなく他の保健医療学部の人、また医学部の人とも積極的にコミュニケーションをとり他職種連携にも力を入れて学んでいきたいです
- ・周りの人と励まし合いながら、看護に関することだけでなく人として成長すること
- ・人と接する時に、先入観ではなくその人をしっかりみることをできるようになりたい
- ・専門的な知識とコミュニケーションの築き方を学びたい
- ・他者とのコミュニケーション能力を高めたい。講義内外で積極的に人と関わる。勉強を能動的に行う
- ・知識の習得に加えて、得た知識を発揮できる実践力もしっかりと付けていきたい。何事にも自発的に取り組んでいきたい
- ・地域医療を支えるための学びに力を入れたいです
- ・幅広い知識と技術を身につけることを目標に、大学の授業では積極的に学び、自主自学により知識の定着をはかりたい
- ・保健師になれるように日々努力していきたい
- ・目指す看護師になれるように学習を頑張りたい
- ・より多くの考え方に触れ、自分の価値観を広げていきたい
- ・また、部活動やアルバイトなど様々なことに挑戦して成長したい

<理学療法学科>

- ・アメリカで活躍するという夢を叶えるための環境。口だけの目標にならないように行動に移すよう努力していきます
- ・スポーツ理学療法学の勉強に力を入れたいです
- ・医療の専門的な知識、それを実践できる技術、コミュニケーション能力を身につけたい
- ・医療者としての人間性を求めたい
- ・現場で使える実践的な知識、経験を積むため、講座・演習に力を入れたい
- ・高度な医療知識を身につけて、将来の仕事などに生かしたい

<作業療法学科>

- ・WFOT認定の質の高いカリキュラムに魅力を感じ入学しました。将来は海外で働く可能性も視野に入れて、幅広く学んでいきたいと考えています
- ・まずは基礎知識を固め、土台を作りたいと思っています。そして、患者さんとのコミュニケーションを円滑に取れるようになりたいです。また、楽しいと思えるリハビリ方法を考えたいです
- ・医療人のあり方について学び、専門分野に力を入れたい
- ・患者さんにいろいろな選択肢を提示することができるように専門的な知識や医療技術を身に付けたい。実習では現場で求められていることを感じとれるようによく周りを観察したい
- ・作業療法について詳しく学びたい
- ・作業療法士にとって必要なものを身に付けたい
- ・周りをよく見れる医療人になるために、コミュニケーションのとり方や医療についての知識を学びたい
- ・深い知識を学ぶために、多くの先生と生徒と関わり、意欲的に学んでいきたいです
- ・進路実現を求め、理想の作業療法士像に向けて勉学に励みたい
- ・専門的な分野について深い知識をつけたい
- ・他の大学では学べない一般教養科目の展開があるので、それを学んでみたいです
- ・日頃から学業に励んでいきたい
- ・立派な作業療法士になる
- ・自分の性格などを見極めて将来に活かせるようにしていきたい

IV. 資料（調査票）

学籍番号（ ） 氏名（ ）

以下の設問について、選択で回答するものについては、数字に○をつけ、記入して回答するものについては、具体的に記入してください。

①あなたが高校3年生（2月時点）の時に居住していた地域を教えてください。

1	札幌市内	2	札幌市外(北海道内)	3	札幌市外(北海道外)
---	------	---	------------	---	------------

②あなたが入学した入試区分を選択してください。

1	一般選抜	2	学校推薦型選抜		
---	------	---	---------	--	--

③あなたが進路選択をする際に役立つ情報を選択してください（複数選択可）

1	大学パンフレット	2	大学ホームページ	3	大学ポスター
4	受験企業等のWEBサイト	5	受験雑誌	6	新聞記事等
7	その他（ ）				

④あなたが本学を知るうえで役立つ情報源を選択してください（複数選択可）

1	広告媒体	2	オープンキャンパス	3	入試相談・説明会
4	出前授業	5	高校の先生	6	予備校
7	家族・親戚	8	知人・先輩	9	その他（ ）

⑤札幌医科大学への入学決定にあたって、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

		そう思 う	どちら かとい えばそ う思う	どちら でもな い	どちら かとい えばそ う思わ ない	そう思 わない
1	入学を希望していた大学である	5	4	3	2	1
2	入学した学部は希望通りの学部である	5	4	3	2	1

⑥あなたは、高校3年生の9月（昨年の9月）頃において、平日に学校等の授業以外で1日平均何時間くらい勉強していましたか。（授業の予復習のほか、予備校、学校での課外の補習・講習を含む）

1	ほとんどしなかった	2	1時間未満	3	1～3時間未満
4	3～5時間未満	5	5～7時間未満	6	8時間以上

⑦あなたは、高校時代の学習において、以下の様な経験をしたことがありますか。

		ある	ない	わからない
1	自分から先生に質問や相談に行く	3	2	1
2	自分で設定したテーマについて学習する	3	2	1
3	学習したことについてプレゼンテーションを行う	3	2	1
4	複数の生徒で一つのテーマ（課題）に取り組む	3	2	1
5	生徒同士でディスカッションを行う	3	2	1

⑧札幌医科大学を受験することを決定したのはいつ頃ですか。

1	高校入学前	2	高校1年生	3	高校2年生
4	高校3年生4～12月	5	高校3年生1月以降	6	高校卒業後

⑨あなたは進学や受験の時に、どんなことを理由に札幌医科大学を選びましたか。

		大きな理由になった	少しは理由になった	情報はあったが、理由にはなかった	情報がなかった・知らなかった
1	札幌医科大学のブランドやイメージ	4	3	2	1
2	カリキュラムや授業構成	4	3	2	1
3	教授・講師陣が充実している	4	3	2	1
4	入学金・学費などの適切性（国公立だから、を含む）	4	3	2	1
5	キャンパスの立地や周辺環境	4	3	2	1
6	両親や先生から勧め	4	3	2	1
7	自分の能力レベルに相応	4	3	2	1
8	通学の利便性	4	3	2	1

⑩札幌医科大学への入学（受験）を決めるにあたり、もっとも重視したのは誰からの意見やアドバイスでしたか。

1	保護者	2	兄弟・姉妹	3	高校の先生
4	塾・予備校の先生	5	親戚や知人	6	本学に在学中の友人や先輩
7	特に相談しなかった				

⑪札幌医科大学のオープンキャンパスや大学説明会に参加した際の満足度についてお答えください

		満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	参加せず
1	オープンキャンパス	4	3	2	1	0
2	高校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
3	塾・予備校で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
4	一般の会場で実施された大学説明会	4	3	2	1	0
5	その他、模擬授業など	4	3	2	1	0

⑫あなたが考える札幌医科大学の魅力についてお答えください。

		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
1	札幌医科大学の教育方針・カリキュラムが魅力的である	5	4	3	2	1	0
2	札幌医科大学の教授陣が魅力的である	5	4	3	2	1	0
3	札幌医科大学の施設・設備が魅力的である	5	4	3	2	1	0
4	札幌医科大学周辺の環境が魅力的である	5	4	3	2	1	0

⑬あなたは札幌医科大学の建学の精神（「進取の精神と自由闊達な気風」「医学・医療の攻究と地域医療への貢献」）であることを知っていますか

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑭あなたは札幌医科大学保健医療学部のアドミッション・ポリシー（大学がどのような学生を入学者として求めているか明文化したもの）を知っていますか。

1	聞いたり読んだりしたことがあり、内容も理解している	2	聞いたり読んだりしたことはあるが、よく覚えていない
3	知らない、聞いたり読んだりしたことがない		

⑮現時点であなたは、以下の知識・能力についてどの程度備わっていると考えていますか。

		充分備わっている	ある程度は備わっている	どちらでもない	あまり備わっていない	全く備わっていない
1	医療系の専門に係る知識	5	4	3	2	1
2	幅広い教養	5	4	3	2	1
3	英語（外国語）の運用能力	5	4	3	2	1
4	社会の課題を自らの課題として捉えられる問題発見力	5	4	3	2	1
5	課題を解決するための問題解決力	5	4	3	2	1
6	異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力	5	4	3	2	1
7	他者とのコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
8	パソコンのソフトウェアの操作（Word, Excel, Powerpoint など）	5	4	3	2	1
9	SNS を安全に使うためのルール、方法	5	4	3	2	1

⑯大学生活の中でどのような活動に力を入れたいと考えていますか。

		特に力を入れたい	力を入れたい	どちらでもない	力を入れたいと思わない
1	学部の専門的な勉強	4	3	2	1
2	語学に関する勉強	4	3	2	1
3	一般教育科目の勉強（語学を除く、人文・社会・自然科学に関する学問）	4	3	2	1
4	部活・サークル活動	4	3	2	1
5	社会活動・ボランティア活動	4	3	2	1
6	海外への短期留学（短期は不要では）	4	3	2	1
7	アルバイト	4	3	2	1

⑰入学後の住まいについて教えてください。

1	自宅（親所有の家・マンション等）	2	アパート（賃貸）
3	下宿・寮	4	その他（ ）

⑱入学後の主な通学手段を教えてください。（複数選択可）

1	徒歩	2	自転車	3	地下鉄
4	バス	5	市電	6	その他（ ）

⑩入学にあたって、不安に思っていることを教えてください。(複数回答可)

1	経済的なこと	2	住まい・通学などの生活環境のこと	3	健康に関すること
4	学業についての不安	5	友人などの人間環境	6	卒業後の進路・勤務に関すること
7	特になし	8	その他 ()		

⑪あなたは自分専用あるいは家族で共有しているパソコンを持っていますか。

1	自分専用の PC を持っている	2	持っていない		
---	-----------------	---	--------	--	--

⑫で回答した PC から印刷できるプリンターがありますか。

1	ある	2	ない		
---	----	---	----	--	--

⑬あなたは札幌医科大学で、何を求め、どんなことに取り組みたいですか。(自由記載)

--

⑭現在、何か困っていることがあれば教えてください。(自由記載)

--

8.2.2 在学生調査報告書

I. 概要

<目的>

保健医療学部1-4年生を対象に、ディプロマ・ポリシー（以下、「DP」とする）の到達度、学生生活（居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等）の実態、学部の支援体制の有用性を把握することを目的に実施した。

<方法>

調査票を用いた集合調査（看護学科3年生はインターネット調査）により行った。調査時期は2024年7月～2024年8月である。基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。

<結果>

回収率：92.2%（332名回収/360名配付）だった（表1）。昨年度（2023年度）よりインターネット調査から集合調査に戻した結果、高い回収率を維持できている。

基本属性：居住形態については自宅が62.3%、下宿／アパートが37.7%であった（図1）。通学時間は片道15分未満（33.4%）の学生が最も多く、1時間以上の者も約2割いた（図2）。サークル・部活動は、何らかの活動をしている学生が76.2%だった（図3）。加入率は2016年（88.3%）と比較すると依然低いが、1年生の加入率が高く（94.4%）、Covid-19の影響が小さくなりつつあると考えられる（表5）。部活動・サークル活動で得たことはコミュニケーション能力が76.6%と最も多く、次いで人格形成・忍耐力・責任感が59.9%であった（図5）。

生活状況：平日の平均睡眠時間は、5～7時間が全体の75.9%を占めていた（図6）。過去の調査と比較すると、5時間未満と回答する学生の割合（13.6%）が増加していた（表8）。食事の頻度については、各学科とも三食きちんと食べている者が65.1%だった（図7）。アルバイトの時間は、1週間あたり10時間以上が最も多く（59.0%）、アルバイトをしていない学生は11.4%だった（図8）。アルバイトで得たことについては、社会人としての基礎力が81%、コミュニケーション能力が74.5%、人格形成・忍耐力・責任感が72.8%、問題適応能力が57.8%だった。YouTube、X、Instagram等の閲覧に費やした時間は、1日に1時間～3時間と回答した学生が最も多かった（57.1%）。5時間以上の者もいたが（6.9%）、2021年（15.4%）よりもその割合は低い（図11）。読書に費やした時間は、読書していないとの回答が65.9%を占めていた（図12）。ボランティア活動は15.4%の学生が行っており（図13）、過去の調査よりも活動している学生が多くなっていた（表15）。

学業の成果（DPの評価）：「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について肯定的な回答が94.6%と最も多く、次いで「他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が84.9%であった（図15）。学年別にみると、4年生の平均点が全般的に低かった（表17）。「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」では、「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」の平均点が最も高く（図16）、1年次から肯定的な回答が多かった（表18）。

悩みや不安：現在の悩みや不安はない、と回答した学生が47.0%であった（図17）。悩みや不安の内容は、進路と回答した学生は54.0%、学業は48.9%、対人関係は36.8%だった（図18）。学年別に見ると、1年生は学業（59.6%）、2年生は対人関係（51.4%）、3年生は進路（78.6%）、4年生は進路と学業（い

ずれも56.0%)が最も多く、学年進行にしたがって悩みや不安が変化していた(表20)。悩みや不安への対処については、できていると回答した学生は64.3%であった(図19)。現在の悩みや不安の相談相手については、家族・友人と回答した学生が93.2%だった(図20)。

経済状況:授業料、生活費の支弁者は、88.5%が親・親族であり、自分自身(奨学金を含む)が8.8%だった(図21)。奨学金は33.7%の学生が受給していた(図22)。学業を続けていく上での経済的な不安がない学生が82.2%であった(図23)。

支援制度:学生担当教員制度について、「よく知っている」と回答した学生は67.8%だった(図24)。学年が上がるにつれ制度の認知度は概ね上昇していた(表26)。保健管理センターは、97.0%の学生が「よく知っている」あるいは「聞いたことがある」と回答した(図25)。一方で、ハラスメント相談窓口は31.9%の学生が認知していなかったが(図26)、以前よりも認知度はやや上昇している(表28)。今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容としては、進路(49.2%)、国家試験対策(48.6%)、就職(45.6%)が多く、学年によって希望する支援内容は異なっていた(表29)。

<考察>

調査方法については、集合調査が有効であることが確認できたため、回収率とコスト(時間・費用)等を考慮した最適な調査方法について、継続して検討する必要があると考えられる。

前回調査との比較で、学生の生活状況に大きな変化は認められないが、昨年度と比較すると部活動・サークル活動の加入率が増加しており、とくに1年生の加入率が高いことから、Covid-19が落ち着き、通常の学生生活を取り戻しつつあると考えられる。また、1日のインターネット利用時間も、コロナ禍(2021年調査)に比較すると短くなっており、生活環境の変化がうかがわれる。ボランティア活動をする者の割合も増えている。

DPの評価については、コミュニケーション能力や対象者と適切に関わることができる能力の自己評価が高い。「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」という評価については、1年次より肯定的な回答が多く、学習意欲の高い学生が入学していることや、入学後に主体的な学修姿勢を育む機会が充分にあることに関連していると考えられる。

学生担当教員制度と保健管理センターの認知度は高く、とくに保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。ハラスメント相談窓口については、より認知を広げるための方策を検討する必要がある。

悩みや不安と支援制度への希望は、学業、進路、人間関係等が挙げられるが、学年によってその内容は異なるため、支援を担当する組織・委員会において、細やかな対応が求められる。

II. 目的

本調査は保健医療学部1-4年生を対象に、DPの到達度、学生生活(居住環境、経済状況、課外活動、心理状況、健康問題等)の実態、学部の支援体制の有用性を把握し、今後の学生の大学生活をより豊かなものとする学生の支援体制を構築するために、またカリキュラム評価に用いる資料を得ることを目的とする。なお、学生生活については2004年(平成16年)から2021年(令和3年)まで、教務委員会によって「学生生活基礎調査」として5回実施されており、管轄が統合IR部門に移されてからは2回目の調査となる。過去の調査と同じ項目で測定・評価されている内容については、それらとの比較により学生生活の変化についても検討を行う。

Ⅲ. 方法

1. 調査方法

保健医療学部に在籍する1-4年生332名を対象に、調査票を用いた集合調査により行った。Qookerを用いたインターネット調査により回答を得た。調査時期は2024年（令和6年）7月～2024年（令和6年）8月である。

2. 調査内容

基本的属性、生活状況、学業の成果（DPの評価）、悩みや不安、経済状況、支援制度について調査した。学生の生活実態は、過去の学生生活基礎調査で行った項目をもとに、医学部と比較が可能な調査内容とした。

3. 倫理的配慮

調査の実施において、下記の点に留意し、学生には依頼文書を用いて周知し、調査の協力を依頼した。

- 1) 調査協力への同意：本調査への回答をもって、調査への同意と見なす。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はない。
- 3) プライバシー保護：入学時に継続的的教学情報収集の同意を得ているため、記名式で調査を行った（他の情報と連結して統計的分析を行う可能性がある）。ただし、4年生は入学時に同意を得ていないため、調査は無記名で行った。データは統計学的に処理され、結果の公表において個人が特定されることはない。
- 4) 回答は統合IR部門が管理するインターネットに接続しないPCまたはハードディスクに保管され、厳重に管理する。
- 5) 調査の結果は、拡大学科長会議で報告されるほかに、全学のデータブック2024に収載され、公表される。
- 6) 予期される危険と費用負担：回答には15分程度の時間と作業を要する。費用負担はない。

4. 分析

各項目について度数分布、学科別集計、学年別集計を行った。過去に行われた学生生活基礎調査と調査項目及び選択肢が同一または類似している場合は、経時的変化を考察した。なお、DPの評価については、昨年度行われた卒業生調査、雇用者調査とも比較が可能な（旧DPの評価と内容が同じである）項目についてのみ比較検討を行う。

Ⅳ. 調査結果

1. 回答状況

回収率は92.2%（332名回収/360名配付）だった（表1）。学科別では、作業療法学科（98.8%）、理学療法学科（95.1%）、看護学科（88.4%）の順で高かった。学年別では2年生が低く（82.2%）、1年生（98.9%）と4年生（97.8%）が高くなっていた（表2）。第5回調査（2021年）においてインターネット調査を導入したことにより大幅な回収率の低下がみられたため、第6回調査（2023年）から調査票を用いた集合調査に戻したが、高い回収率が得られた。回収率とコスト等を考慮した最適な調査方法について継続して検討する必要がある。

2. 基本属性

基本属性として「居住形態」「通学時間」「加入しているサークル・部活動」「部活動・サークル活動への参加頻度」「部活動・サークル活動で得たこと」について調査を行った。

「居住形態」については『自宅』が62.3%、『下宿／アパート』が37.7%であった(図1)。学科別にみると作業療法学科、学年別にみると4年生が他と比較して『自宅』の割合が少なかった(表3)。

「通学時間」は片道『15分未満』(33.4%)、『30分から1時間未満』(28.6%)が多く、『1時間以上』も約2割いた(図2)。2023年度より『30分から1時間未満』が減少していた(表4)。

「加入しているサークル・部活動(複数回答)」は『運動系』が約6割と最も多く、何らかの活動をしている学生は8割弱であった(図3)。学年別にみると、1年生が94.4%と最も多く加入しており、次いで2年生が79.7%であった(表5)。2023年度との比較では加入率が増加しており、Covid-19が落ち着いてきたことの影響があったものと考えられる(表5)。

「部活動・サークル活動への参加頻度」は『週1回』(33.7%)が最も多く、次いで『週2回』と『週3回』(いずれも30.5%)が多かった(図4)。学年が上がるにつれて、参加頻度が低下する傾向にあった。2023年度との比較では、参加頻度が『週2回』より多い者が増加していた(表6)。

「部活動・サークル活動で得たこと」は『コミュニケーション能力』が約8割と最も多く、次いで『人格形成、忍耐力・責任感』が約6割であった(図5)。医療従事者として欠かせない力を養う機会でもあると考えられる。また、2023年度との比較では『授業では得られない知識・教養』が1割ほど増加していた(表7)。

3. 生活状況

学生の生活状況を把握するために、「平日の平均睡眠時間」「食事の頻度」「アルバイトの時間」「アルバイトで得たこと」「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」「YouTube、X(旧Twitter)、Instagram等の閲覧に費やした時間」「読書に費やした時間」「ボランティア活動」「友人の人数」に関して調査を行った。

「平日の平均睡眠時間」は、『5～6時間』(39.2%)、『6～7時間』(36.7%)が多かった(図6)。学科別では看護学科において『5時間未満』と『5～6時間』が併せて60.2%と睡眠時間が短く(表8)、この傾向は3年生において強く認められた(72.5%：未公開データ)。学年別では、1年生が他学年に比べて『5時間未満』の割合が多かった(表8)。過年度調査との比較では、昨年度調査(2023年度)と同様に、『5～6時間』が最も多かった。一方で、2016年度からの調査を比較すると、『5時間未満』と回答する学生の割合が年ごとに増加していた。これは、学生のライフスタイルの変化が反映されたものと考えられるが、慢性的な睡眠不足が学力のみならず精神衛生を含めた心身へ与える影響も大きいことから、原因の解明とともに引き続き経過を観察する必要がある。

「食事の頻度」については、各学科とも『三食きちんと食べている』が過半数を占めていた(図7)。「三食きちんと食べている」と回答した学生は、看護学科で68.8%と他学科よりも多く、学年別では1年生で80.9%と他学年よりも多い結果であった(表9)。

「アルバイトの時間」は1週間あたり『10時間以上』が最も多く(59.0%)、『していない』『3時間未満』と回答した学生は、全体の約1割であった(図8)。学年別では、3年生で『10時間以上』が7割を超え、2・4年生で『3時間以上-10時間未満』『10時間以上』が合わせて8割を超えていた(表10)。「していない」と回答した割合は年度により増減があり、学生の経済状況の変化やCovid-19の影響があったものと考えられる。

「アルバイトで得たこと」については、『社会人としての基礎力』と回答した学生が81.0%、『コミュニケーション能力』『人格形成、忍耐力、責任感』と回答した学生がそれぞれ74.5%、72.8%、『問題対応能力』『授業では得られない知識・教養』とした学生がそれぞれ57.8%、52.0%であった（図9）。学科別では、看護学科と理学療法学科で『社会人としての基礎力』とした学生が8割程度と最も多く、作業療法学科では『人格形成、忍耐力・責任感』とした学生が7割以上であった（表11）。学年別では、4年生で『社会人としての基礎力』『コミュニケーション能力』とした学生が8割弱を占めていた。「アルバイトで得たこと」については、今後の社会生活において必要とされる能力や知識が大多数を占めていたことから、大学生活において、経済的理由によるアルバイト活動に加えて、大学内では学ぶことの出来ない一般的な教養を身につける場としても活用されていることが窺える。

「PC・スマホ・タブレット等で他者とのコミュニケーションに費やした時間」は、1日あたり『30分～2時間』とした学生が45.2%と最も多く、次いで『2時間以上』が32.8%、『30分未満』が22.0%で、使用していない学生はいなかった（図10）。学科別においては同様の結果であった。学年別では、3年生で『2時間以上』と回答した割合が38.8%とやや多くなっていた（表12）。

「YouTube、X（旧 Twitter）、Instagram等の閲覧に費やした時間」について、『1時間～3時間』と回答した学生が57.1%と最も多く、『3時間～5時間』『5時間以上』は合わせて3割以上を占めていた（図11）。学年別では、『5時間以上』と回答した学生は2年生で10%以上であったのに対し、他の学年では1割未満であった（表12）。

2021年度調査では、1日のインターネット利用時間が『5時間以上』と回答した学生が15.4%であったのに対して、2023年度に引き続き今年度も6.9%でありおよそ半減していた。新型コロナウイルス対策による行動制限解除に伴い、生活環境がコロナ禍以前に戻っていることが要因の一つと推察される。

「読書に費やした時間」は『していない』が最も多く（65.9%）、『30分未満』が23.3%、残りの2割が『30分～2時間』『2時間以上』であった（図12、表14）。

「ボランティア活動」については、全体の84.6%が『していない』と回答した（図13）。学科別では作業療法学科で20.3%とやや多くなっていた（表15）。年度別では、直近2年間においてボランティア活動を行う学生が増えている傾向にある。

「友人の人数」については『まあまあいる』が66.9%と最も多かった（図14）。学年別では3・4年生で『ほとんどいない』と回答した学生が数名おり、1・2年生より少ない傾向が見られた（表16）。2013年度から今回までの過去5回の調査では、『まあまあいる』が半数以上を占めており、同様の傾向が続いている（表16）。

4. 学業の成果：卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況（DPの評価）

学業の成果を把握するために、卒業までに身に付けたい能力である「建学の精神を実現するための基盤となる能力」「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」に関して調査を行った。

「建学の精神を実現するための基盤となる能力」は、「(3) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている」について『そうである／まあそうである』の回答が94.6%で最も多く、次いで「(4) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる」が84.9%だった（図15）。『そうである／まあそうである』の割合が最も低かったのは、「保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている」（53.0%）であった。学科別の平均点に大きな違いはみられなかったが、ほとんどの項目において4年生の平均点が他の学年に

比べて低くなっていた（表17）。

他者の尊重、コミュニケーションや対人関係の構築については、授業や演習で基本を学び、実習等での対象者への援助、さらに部活動・サークルおよびアルバイトの経験等から獲得されてきたものと推察される。一方、保健医療福祉システム全般の理解、システム促進に向けた思考は難易度が高く、学修の機会を重ね広い視野を持つことで能力の獲得が促進されると考える。卒業を目前に控えた4年生の平均点が他項目と比較して低いことから、意図的な教授が必要であるといえる。

「保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力」は、「(3) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる」を除くすべての項目で『そうである／まあそうである』（59.6%）の回答が6～8割であった（図16）。科学的な思考に基づき問題解決する能力を高めるための教授内容の方法・内容の検討が必要と考えられる。肯定的な回答が最も多かったのは「自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている」（89.1%）であった。この項目は1年次から肯定的な回答が多く、学習意欲の高い学生が入学していることや、入学後に主体的な学修姿勢を育む機会が充分にあることが考えられる（表18）。

5. 悩みや不安

学生生活における悩みや不安を把握するために、「現在の悩みや不安」「悩みや不安の内容」「悩みや不安への対処」「悩みや不安の相談相手」に関して調査を行った。

「現在の悩みや不安」の有無について、『たくさんある』と回答した学生は5.1%であった（図17）。『まあまあある』『少しはある』と回答した学生と併せると53.0%であった。学科別にみると、作業療法学科は『たくさんある』と回答した学生が他学科よりも多かった（8.9%）（表19）。学年別では『たくさんある』『まあまあある』『少しはある』を併せた回答が4年生で最も多く（56.2%）、1年生（53.9%）、3年生（52.5%）、2年生（48.7%）の順に多かった。以前の調査および前回調査の結果（65.7%）と比較すると悩みや不安があるとする回答は年々減っている。

「悩みや不安の内容」については、『進路』と回答した学生は54.0%、『学業』と回答した学生は48.9%、『対人関係（家族／友人／異性）』と回答した学生は36.8%、『経済状況』と回答した学生は20.7%であった（図18）。学年別に見ると、1年生は『学業』（59.6%）、2年生は対人関係（51.4%）、3年生は『進路』（78.6%）、4年生は『進路』と『学業』が同率（56.0%）で悩みとして多く回答していた（表20）。学年進行によって学生が抱える悩みは変化するため、状況に応じた対応が求められる。

「悩みや不安への対処」については、『ほとんどできている』『まあまあできている』と回答した学生は64.3%で、『まあまあできている』と回答した学生が最も多かった（56.3%）（図19）。学年別に見ると、4年生において悩みや不安への対処について、『ほとんどできている』『まあまあできている』の回答が他の学年より多くなっていた（74.0%）（表21）。

「現在の悩みや不安の相談相手」については、『家族・友人』と回答した学生が93.2%と最も多く、『学担・副学担』に相談すると回答した学生は1割強にとどまっていた（図20）。しかし、3年生は『学担・副学担』の回答が多く（23.8%）、4年生は『学担・副学担以外の教員』（14.0%）も多く、状況に応じて相談相手を選択していることがわかる（表22）。

6 経済状況

学生の経済状況を把握するために、「授業料、生活費の支弁者」「奨学金の受給」「学業を続けていく上での経済的な不安」について調査を行った。

「授業料、生活費の支弁者」は、88.5%が『親・親族』であり、次いで『自分自身(奨学金を含む)』が8.8%、『全額免除されている』が2.7%であった(図21)。学科別、学年別、年度別に見たときの大きな違いは認められなかった(表23)。

「奨学金の受給」は、33.7%の学生が受給していた(図22)。学科別では理学療法学科で19.5%とやや少なくなっていた(表24)。

「学業を続けていく上での経済的な不安」について、『ある』が17.8%、『ない』が82.2%であった(図23)。学科別・学年・年度別の比較では顕著な差は認められなかった(表25)。

7. 支援制度

大学の「支援制度」に関する学生の認知度および満足度を把握するために、「学生担当教員(学担・副学担)制度の認知」「保健管理センターの認知」「ハラスメント相談窓口の認知」「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」に関して調査を行った。

「学生担当教員(学担・副学担)制度の認知」について、『よく知っている』と回答した学生は全体で67.8%であった(図24)。学年別にみると、1年生では『よく知っている』と回答した学生は50.6%であったが、学年が進むにつれておおむね認知度が上昇していた(表26)。「今後の学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」(図27)で挙げられている『進路』『就職』などのサポートにおいても、学生担当教員は重要な役割を担う存在であるが、その周知が課題として窺える。

「保健管理センターの認知」については、97.0%の学生が『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』と回答した(図25)。学年別では、1年生において『よく知っている』の回答がやや少ない(41.6%)傾向が見られた(表27)。保健管理センターに保健師・看護師ならびに心理士が配置され、体調不良や怪我の時だけでなく、メンタルヘルスに関わる相談が可能になったことから、保健管理センターは学生にとって身近な存在として定着していることが推察される。

「ハラスメント相談窓口の認知」については、『よく知っている』あるいは『聞いたことがある』が68.1%であり、約3分の1の学生は『知らない』と回答した(図26)。2023年度調査より『良く知っている』『聞いたことはある』と回答した学生の割合は微増し、ハラスメント相談窓口の認知が定着しつつある(表28)。しかしながら、ハラスメント相談窓口の存在を『知らない』学生も一定数いることから、その役割や支援内容について学生に周知する方法を改めて検討する必要がある。

「今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容」としては、『進路』(49.2%)、『国家試験対策』(48.6%)、『就職』(45.6%)の順に多かった(図27)。学担・副学担に加え、各学科教員や科目担当責任者が連携して、これらをサポートする体制の整備が重要となる。学年別に比較すると、『学習』は1年生(42.7%)、『キャリア教育』は3年生(38.8%)、『就職』が3-4年生(57.5%, 51.1%)に多く、それぞれの学年で充実させてほしいと考える内容に違いがあり、学年にあわせた支援が望まれる。

V. 図表

1. 回収率

表1. 回収率：学科別・学年別

％（配布数/回収数）

学科	学年				
	全体	1年生	2年生	3年生	4年生
看護学科	88.4 (176/199)	98.0 (49/50)	78.0 (39/50)	81.6 (40/49)	96.0 (48/50)
理学療法学科	95.1 (77/81)	100.0 (20/20)	80.0 (16/20)	100.0 (20/20)	100.0 (21/21)
作業療法学科	98.8 (79/80)	100.0 (20/20)	95.0 (19/20)	100.0 (20/20)	100.0 (20/20)
全体	92.2 (332/360)	98.9 (89/90)	82.2 (74/90)	89.9 (80/89)	97.8 (89/91)

表2. 回収率：年度別

調査年度	回収数	％
第3回 2013年 (N=358)	291	81.3
第4回 2016年 (N=352)	349	99.1
第5回 2021年 (N=362)	220	60.8
第6回 2023年 (N=271)	228	84.1
第7回 2024年 (N=360)	332	92.2

2. 基本属性と生活状況

1) 居住形態



表3. 居住形態：学科別・学年別・年度別

（％）

		自宅	下宿／アパート等	学生寮
学科別	看護学科 (n=176)	65.3	34.7	
	理学療法学科 (n=77)	62.3	37.7	
	作業療法学科 (n=79)	55.7	44.3	
学年別	1年生 (n=89)	67.4	32.6	-
	2年生 (n=74)	63.5	36.5	
	3年生 (n=80)	60.0	40.0	
	4年生 (n=89)	58.4	41.6	
年度別	第3回 2013年 (n=291)	63.7	31.5	4.8
	第4回 2016年 (n=349)	63.0	30.9	6.0
	第5回 2021年 (n=220)	71.6	27.9	0.5
	第6回 2023年 (n=226)	63.6	36.4	-
	第7回 2024年 (n=332)	62.3	37.7	-

2) 通学時間 (片道)

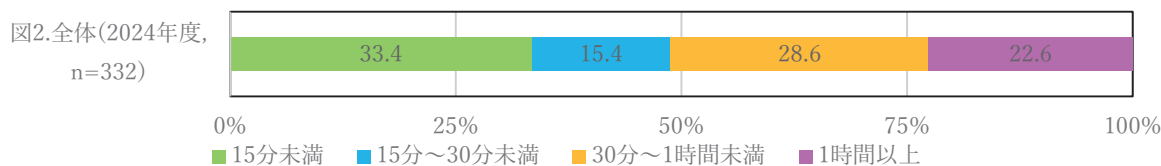


表4. 通学時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		15分未満	15-30分未満	30分-1時間未満	1時間以上
学科別	看護学科 (n=176)	29.0	18.2	26.7	26.1
	理学療法学科 (n=77)	35.1	10.4	35.1	19.5
	作業療法学科 (n=79)	41.8	13.9	26.6	17.7
学年別	1年生 (n=89)	28.1	14.6	28.1	29.2
	2年生 (n=74)	39.2	10.8	27.0	23.0
	3年生 (n=80)	35.0	15.0	32.5	17.5
	4年生 (n=89)	32.6	20.2	27.0	20.2
年度別	第6回2023年 (n=226)	30.9	14.5	33.9	20.7
	第7回2024年 (n=332)	33.4	15.4	28.6	22.6

3) 加入している部活動・サークル (複数回答)

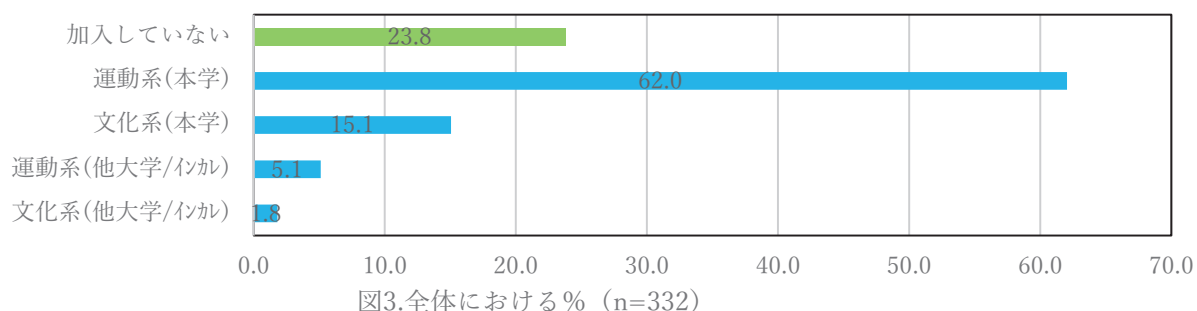


表5. 加入している部活動・サークル：学科別・学年別(複数回答) (%)

		加入して いない	運動系 (本学)	文化系 (本学)	運動系 (他大学/イカ)	文化系 (他大学/イカ)
学科別	看護学科 (n=176)	23.9	59.7	17.6	5.7	2.8
	理学療法学科 (n=77)	23.4	71.4	7.8	1.3	0.0
	作業療法学科 (n=79)	24.1	58.2	16.5	7.6	1.3
学年別	1年生 (n=89)	5.6	84.3	16.9	1.1	1.1
	2年生 (n=74)	20.3	63.5	23.0	5.4	2.7
	3年生 (n=80)	26.3	55.0	15.0	7.5	2.5
	4年生 (n=89)	42.7	44.9	6.7	6.7	1.1
年度別	第4回2016年 (n=349)	12.7	-	-	-	-
	第5回2021年 (n=220)	21.8	-	-	-	-
	第6回2023年 (n=226)	36.0	50.4	10.5	5.3	2.2
	第7回2024年 (n=332)	23.8	62.0	15.1	5.1	1.8

4) 部活動・サークル活動への参加頻度（1週あたり、加入者のみ）

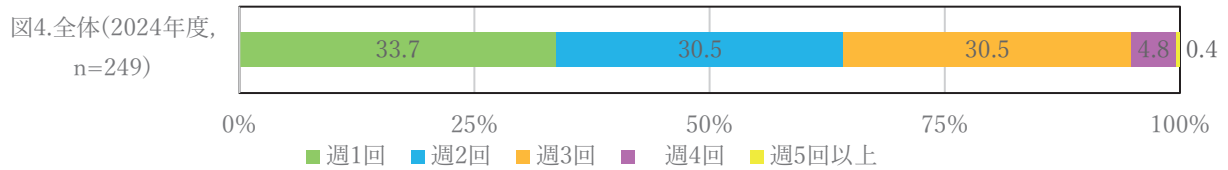


表6. 部活動・サークル活動への参加頻度：学科別・学年別・年度別 (%)

		週1回	週2回	週3回	週4回	週5回以上
学科別	看護学科 (n=131)	37.4	30.5	29.0	2.3	0.8
	理学療法学科 (n=58)	25.9	29.3	29.3	15.5	0.0
	作業療法学科 (n=60)	33.3	31.7	35.0	0.0	0.0
学年別	1年生 (n=83)	21.7	34.9	34.9	7.2	1.2
	2年生 (n=59)	30.5	32.2	35.6	1.7	0.0
	3年生 (n=58)	32.8	29.3	29.3	8.6	0.0
	4年生 (n=49)	59.2	22.4	18.4	0.0	0.0
年度別	第6回 2023年 (n=146)	41.1	28.1	23.3	6.8	0.7
	第7回 2024年 (n=249)	33.7	30.5	30.5	4.8	0.4

5) 部活動・サークル活動で得たこと（複数回答）（加入者のみ）

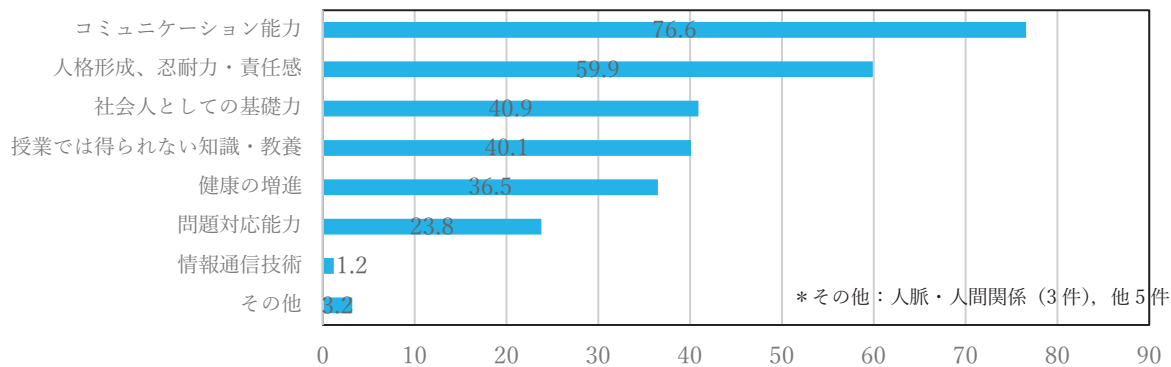


図5.加入者における% (n=252)

表7. 部活動・サークル活動で得たこと：学科別・学年別 (%)

		コミュニケーション能力	人格形成、忍耐力・責任感	社会人としての基礎力	授業では得られない知識・教養	健康の増進	問題対応能力	情報通信技術	その他
学科別	看護学科 (n=134)	82.1	61.9	43.3	41.8	26.9	23.1	1.5	2.2
	理学療法学科 (n=59)	71.2	52.5	47.5	35.6	54.2	22.0	1.7	5.1
	作業療法学科 (n=59)	69.5	62.7	28.8	40.7	40.7	27.1	0.0	3.4
学年別	1年生 (n=84)	76.2	64.3	39.3	48.8	53.6	15.5	1.2	1.2
	2年生 (n=58)	77.6	55.2	32.8	31.0	22.4	24.1	0.0	5.2
	3年生 (n=59)	81.4	61.0	44.1	40.7	32.2	35.6	1.7	3.4
	4年生 (n=51)	70.6	56.9	49.0	35.3	29.4	23.5	2.0	3.9
年度別	第6回2023年 (n=146)	74.0	52.1	35.6	28.8	32.9	26.0	4.1	3.4
	第7回2024年 (n=252)	76.6	59.9	40.9	40.1	36.5	23.8	1.2	3.2

6) 平日の平均睡眠時間

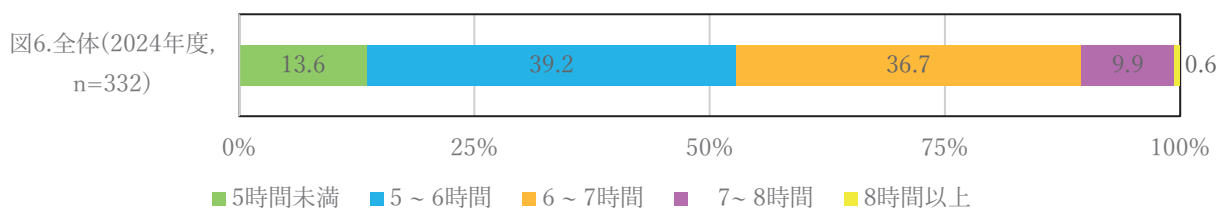


表8. 平日の平均睡眠時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		5時間未満	5~6時間	6~7時間	7~8時間	8時間以上
学科別	看護学科 (n=176)	17.0	43.2	32.4	7.4	0.0
	理学療法学科 (n=77)	10.4	36.4	40.3	10.4	2.6
	作業療法学科 (n=79)	8.9	32.9	43.0	15.2	0.0
学年別	1年生 (n=89)	18.0	32.6	42.7	6.7	0.0
	2年生 (n=74)	13.5	36.5	33.8	14.9	1.4
	3年生 (n=80)	15.0	41.3	32.5	11.3	0.0
	4年生 (n=89)	7.9	46.1	37.1	7.9	1.1
年度別	第4回 2016年 (n=349)	6.9	41.8	39.8	10.9	0.6
	第5回 2021年 (n=220)	8.3	35.0	41.0	13.4	2.3
	第6回 2023年 (n=224)	10.6	43.6	35.2	10.1	0.4
	第7回 2024年 (n=332)	13.6	39.2	36.7	9.9	0.6

7) 食事の頻度

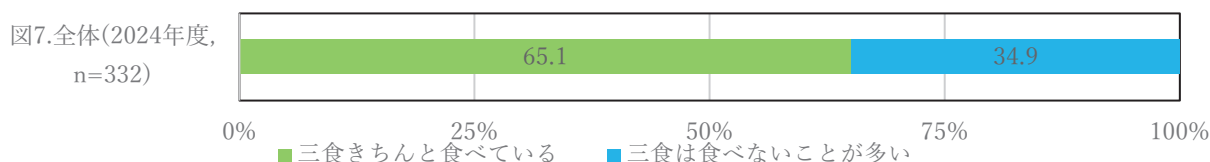


表9. 食事の頻度：学科別・学年別・年度別 (%)

		三食きちんと食べている	三食は食べないことが多い
学科別	看護学科 (n=176)	68.8	31.3
	理学療法学科 (n=77)	61.0	39.0
	作業療法学科 (n=79)	60.8	39.2
学年別	1年生 (n=89)	80.9	19.1
	2年生 (n=74)	63.5	36.5
	3年生 (n=80)	51.2	48.8
	4年生 (n=89)	62.9	37.1
年度別	第6回 2023年 (n=226)	57.1	42.9
	第7回 2024年 (n=332)	65.1	34.9

8) アルバイトの時間 (1週あたり)

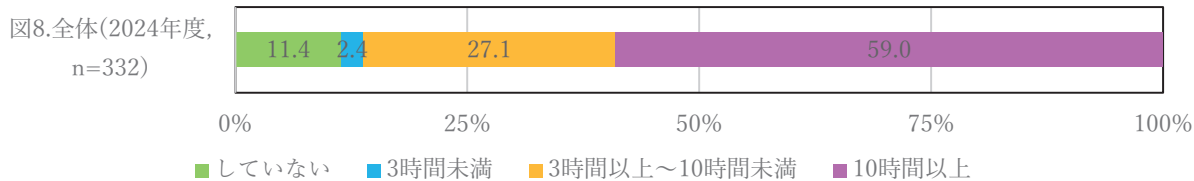


表10. アルバイトの時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		していない	3時間未満	3時間以上 - 10時間未満	10時間以上
学科別	看護学科 (n=176)	8.0	1.1	27.8	63.1
	理学療法学科 (n=77)	15.6	2.6	24.7	57.1
	作業療法学科 (n=79)	15.2	5.1	27.8	51.9
学年別	1年生 (n=89)	18.0	2.2	39.3	40.4
	2年生 (n=74)	9.5	1.4	25.7	63.5
	3年生 (n=80)	7.5	2.5	13.8	76.3
	4年生 (n=89)	10.1	3.4	28.1	58.4
年度別	第3回 2013年 (n=295)	22.7	-	-	-
	第4回 2016年 (n=349)	15.2	-	-	-
	第5回 2021年 (n=220)	16.4	-	-	-
	第6回 2023年 (n=225)	7.9	4.4	25.1	62.6
	第7回 2024年 (n=332)	11.4	2.4	27.1	59.0

9) アルバイトで得たこと（複数回答）（活動者のみ）

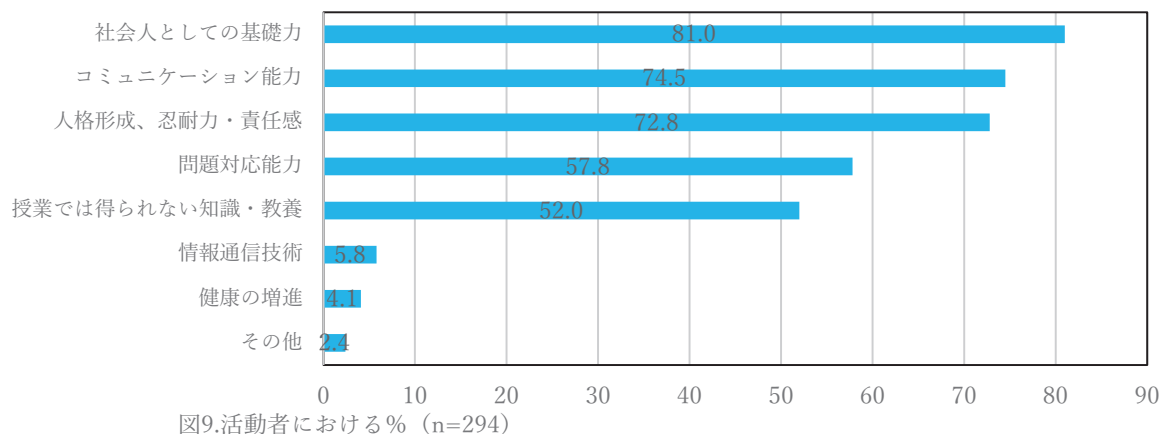


表11. アルバイトで得たこと：学科別・学年別・年度別 (%)

		コミュニケーション能力	社会人としての基礎力	人格形成、忍耐力・責任感	問題対応能力	授業では得られない知識・教養	健康の増進	情報通信技術	その他
学科別	看護学科 (n=162)	85.2	77.2	74.7	59.9	56.8	5.6	3.7	1.9
	理学療法学科 (n=65)	78.5	73.8	63.1	58.5	43.1	4.6	3.1	6.2
	作業療法学科 (n=67)	73.1	68.7	77.6	52.2	49.3	7.5	6.0	0.0
学年別	1年生 (n=73)	82.2	74.0	82.2	63.0	50.7	6.8	1.4	1.4
	2年生 (n=67)	76.1	70.1	74.6	52.2	47.8	9.0	4.5	0.0
	3年生 (n=74)	86.5	74.3	58.1	58.1	59.5	2.7	5.4	5.4
	4年生 (n=80)	78.8	78.8	76.3	57.5	50.0	5.0	5.0	2.5
年度別	第6回2023年 (n=209)	72.2	72.2	62.2	62.2	54.5	2.4	4.3	2.9
	第7回2024年 (n=332)	81.0	74.5	72.8	57.8	52.0	5.8	4.1	2.4

10) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間（1日あたり：大学の講義で使用した時間は除く）

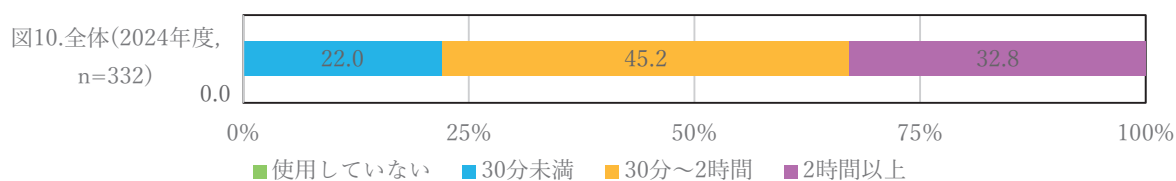


表12. PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間：学科別・学年別・年度別（%）

		使用していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科 (n=176)	0.0	19.9	45.5	34.7
	理学療法学科 (n=77)	0.0	26.0	46.8	27.3
	作業療法学科 (n=79)	0.0	22.8	43.0	34.2
学年別	1年生 (n=89)	0.0	27.0	42.7	30.3
	2年生 (n=74)	0.0	23.0	47.3	29.7
	3年生 (n=80)	0.0	20.0	41.3	38.8
	4年生 (n=89)	0.0	18.0	49.4	32.9
年度別	第6回 2023年 (n=227)	0.4	24.2	42.7	32.6
	第7回 2024年 (n=332)	0.0	22.0	45.2	32.8

11) YouTube、X（旧Twitter）、Instagram等の閲覧に費やした時間（1日あたり）

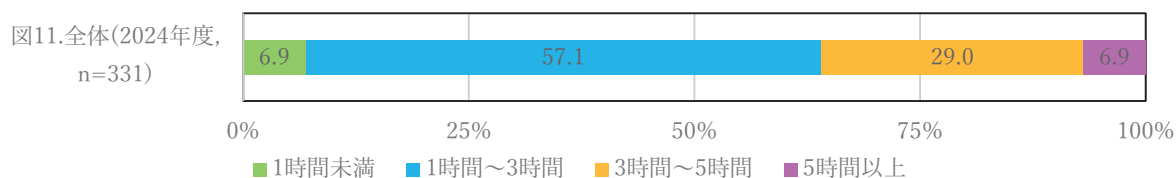


表13. YouTube、X（旧Twitter）、Instagram等の閲覧に費やした時間：学科別・学年別・年度別（%）

		1時間未満	1時間～3時間	3時間～5時間	5時間以上
学科別	看護学科 (n=176)	5.1	55.7	33.0	6.3
	理学療法学科 (n=77)	9.1	62.3	26.0	2.6
	作業療法学科 (n=78)	9.0	55.1	23.1	12.8
学年別	1年生 (n=89)	11.2	65.2	21.3	2.2
	2年生 (n=73)	4.1	42.5	41.1	12.3
	3年生 (n=80)	6.3	61.3	25.0	7.5
	4年生 (n=89)	5.6	57.3	30.3	6.7
年度別	第5回 2021年 (n=220)*	12.6	56.0	24.1	15.4
	第6回 2023年 (n=227)	9.2	53.8	29.2	7.7
	第7回 2024年 (n=332)	6.9	57.1	29.0	6.9

*1日のインターネット利用時間（検索・サーフィン・動画視聴）

12) 読書（マンガ・一般雑誌を除く）に費やした時間（1日あたり）

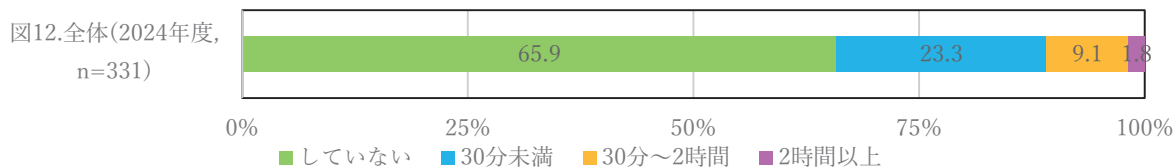


表14. 読書（マンガ・一般雑誌を除く）に費やした時間：学科別・学年別・年度別 (%)

		していない	30分未満	30分～2時間	2時間以上
学科別	看護学科 (n=175)	64.0	25.1	9.1	1.7
	理学療法学科 (n=77)	64.9	22.1	9.1	3.9
	作業療法学科 (n=79)	70.9	20.3	8.9	0.0
学年別	1年生 (n=89)	66.3	24.7	6.7	2.2
	2年生 (n=74)	66.2	27.0	6.8	0.0
	3年生 (n=80)	70.0	18.8	10.0	1.3
	4年生 (n=88)	61.4	22.7	12.5	3.4
年度別	第6回 2023年 (n=227)	59.5	26.9	11.9	1.8
	第7回 2024年 (n=331)	65.9	23.3	9.1	1.8

13) ボランティア活動（この1年間）

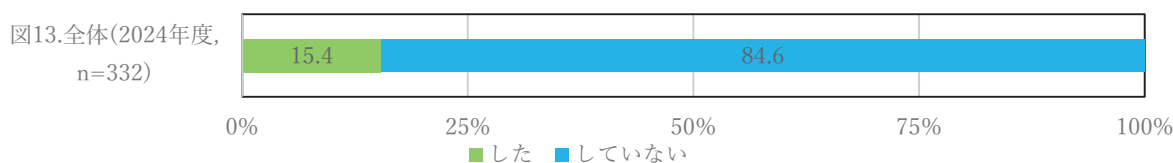


表15. ボランティア活動：学科別・学年別・年度別 (%)

		した	していない
学科別	看護学科 (n=176)	15.3	84.7
	理学療法学科 (n=77)	10.4	89.6
	作業療法学科 (n=79)	20.3	79.7
学年別	1年生 (n=89)	16.9	83.1
	2年生 (n=74)	16.2	83.8
	3年生 (n=80)	10.0	90.0
	4年生 (n=89)	18.0	82.0
年度別	第4回 2016年 (n=349)	6.0	94.0
	第5回 2021年 (n=220)	3.8	96.2
	第6回 2023年 (n=227)	10.6	89.4
	第7回 2024年 (n=332)	15.4	84.6

14) 友人の人数 (学内外問わない)

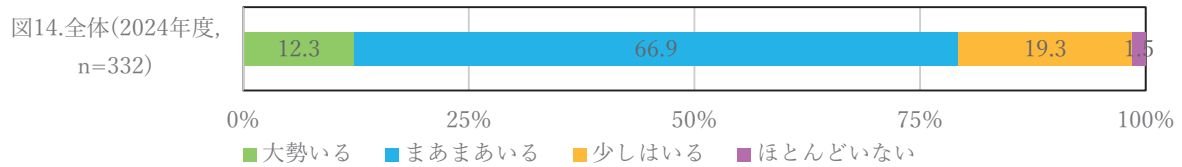
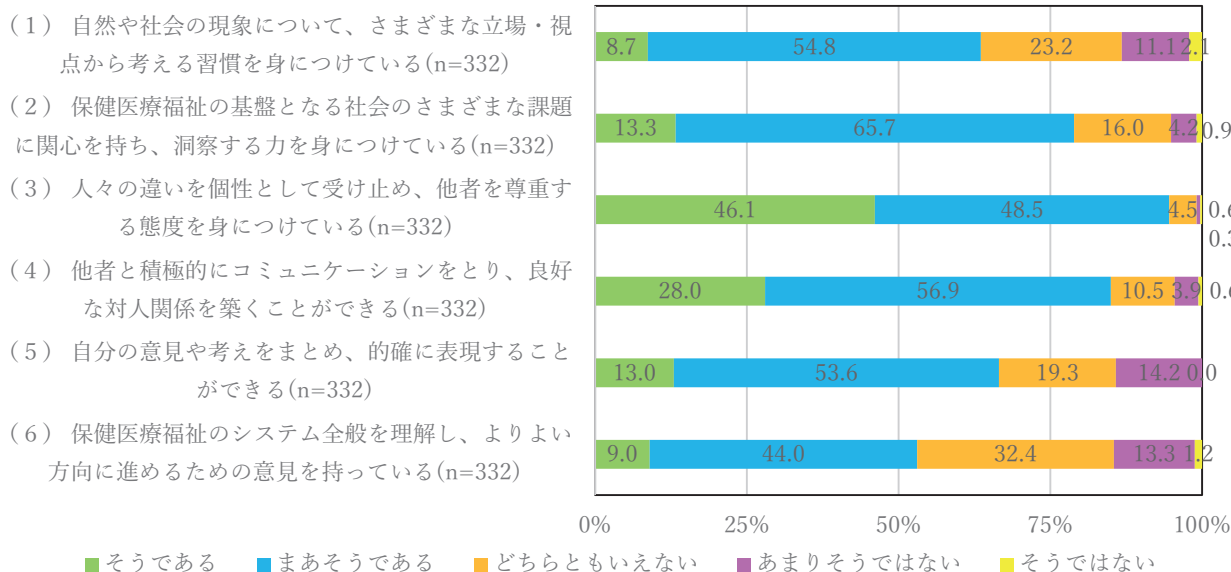


表16. 友人の人数：学科別・学年別・年度別 (%)

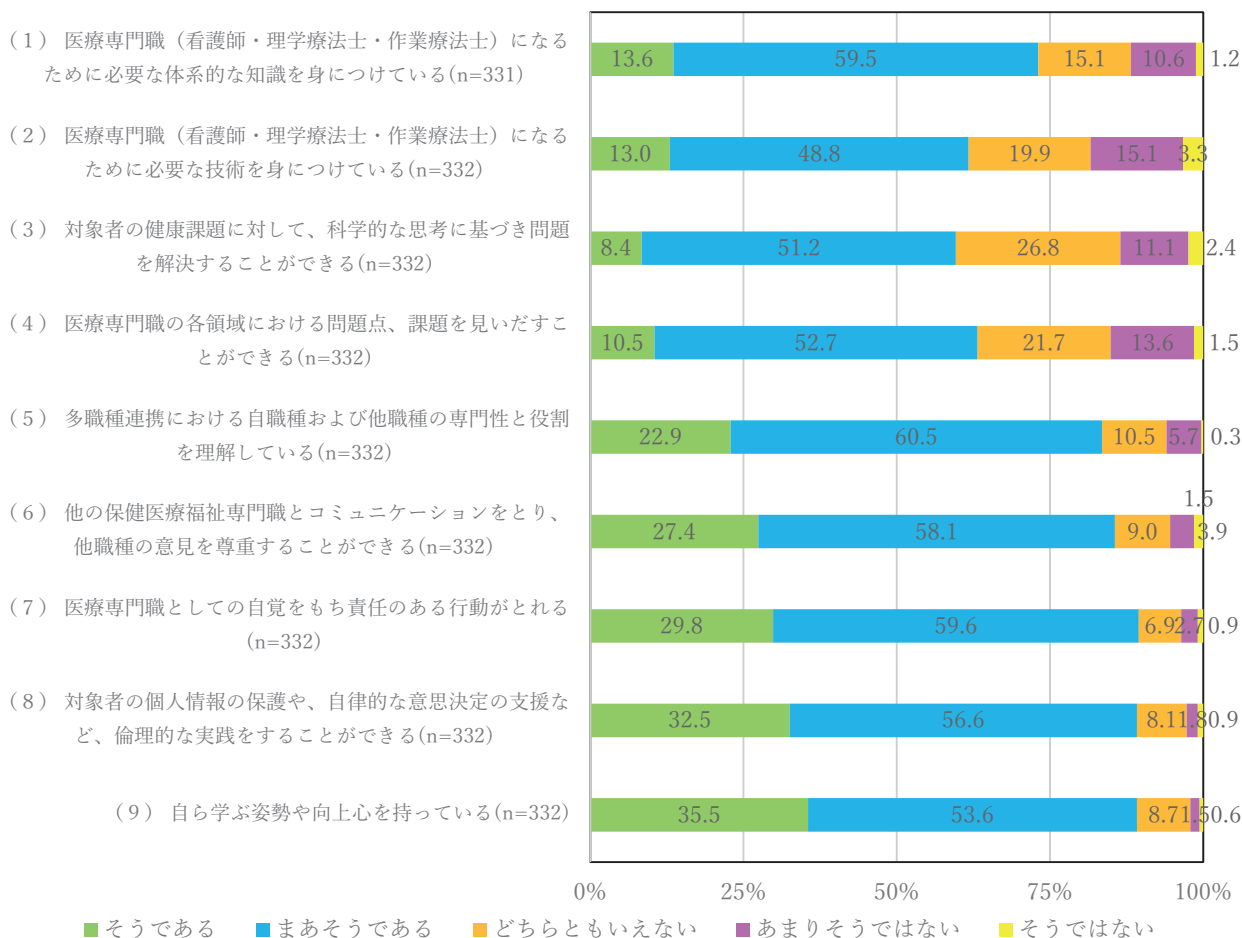
		大勢いる	まあまあいる	少しはいる	ほとんどいない
学科別	看護学科 (n=176)	11.4	67.6	19.3	1.7
	理学療法学科 (n=77)	14.3	68.6	14.3	2.6
	作業療法学科 (n=79)	12.7	63.3	24.1	0.0
学年別	1年生 (n=89)	15.7	67.4	16.9	0.0
	2年生 (n=74)	12.2	70.3	17.6	0.0
	3年生 (n=80)	10.0	67.5	20.0	2.5
	4年生 (n=89)	11.2	62.9	22.5	3.4
年度別	第3回 2013年 (n=291)	18.2	66.0	14.4	2.1
	第4回 2016年 (n=349)	11.2	64.2	22.9	1.7
	第5回 2021年 (n=220)	8.4	64.5	25.2	1.9
	第6回 2023年 (n=227)	13.2	59.0	27.3	0.4
	第7回 2024年 (n=227)	12.3	66.9	19.3	1.5

3. 学業の成果（卒業時まで身に付けたい能力の獲得状況）

1) 建学の精神を実現するための基盤となる能力（図15）



2) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力（図16）



3) 建学の精神を実現するための基盤となる能力：学科・学年別・年度別平均点（表17）

* 範囲1～5（1: そうではない, 2: あまりそうではない, 3: どちらともいえない, 4: まあそうである, 5: そうである）（平均点*）

	全体		学科別			学年別				参考値	
	2024	2023	看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	1年生	2年生	3年生	4年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている	3.57	3.41	3.69	3.55	3.32	3.64	3.69	3.67	3.30	3.86	3.76
(2) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている	3.86	3.66	3.95	3.75	3.76	3.91	3.89	4.04	3.63	-	-
(3) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている	4.39	4.38	4.46	4.34	4.30	4.46	4.43	4.38	4.31	4.38	4.23
(4) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる	4.08	4.07	4.19	3.88	4.01	4.02	4.11	4.17	4.02	-	
(5) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる	3.65	3.60	3.73	3.60	3.53	3.58	3.74	3.81	3.51	-	-
(6) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている	3.46	3.32	3.55	3.32	3.42	3.46	3.46	3.63	3.33	3.45	3.24

4) 保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力：学科・学年別・年度別平均点（表18）

* 範囲 1～5（1: そうではない, 2: あまりそうではない, 3: どちらともいえない, 4: まあそうである, 5: そうである）（平均点*）

	全体		学科別			学年別				参考値	
	2024	2023	看護 学科	理学 療法 学科	作業 療法 学科	1年生	2年生	3年生	4年生	卒業生 調査 (2023)	雇用者 調査 (2023)
(1) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている	3.74	3.74	3.95	3.55	3.44	3.52	3.80	3.85	3.81	4.14	4.00
(2) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている	3.53	3.51	3.81	3.27	3.15	3.15	3.68	3.73	3.62	3.93	3.70
(3) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる	3.52	3.58	3.69	3.38	3.28	3.22	3.47	3.65	3.74	3.93	3.82
(4) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる	3.57	3.58	3.78	3.25	3.42	3.29	3.49	3.79	3.73	4.07	3.73
(5) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している	4.00	4.02	4.07	3.90	3.95	3.79	4.05	4.20	3.99	-	-
(6) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる	4.06	4.11	4.14	3.99	3.95	3.87	3.96	4.29	4.13	4.35	3.96
(7) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる	4.15	4.10	4.26	4.10	3.95	3.99	4.19	4.28	4.16	4.43	4.20
(8) 対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる	4.18	4.24	4.19	4.21	4.13	3.99	4.16	4.35	4.24	-	
(9) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている	4.22	4.10	4.31	4.21	4.03	4.27	4.26	4.28	4.09	4.31	4.38

4. 悩みや不安、経済的な課題

1) 現在の悩みや不安

図17.全体(2024年度,
n=332)

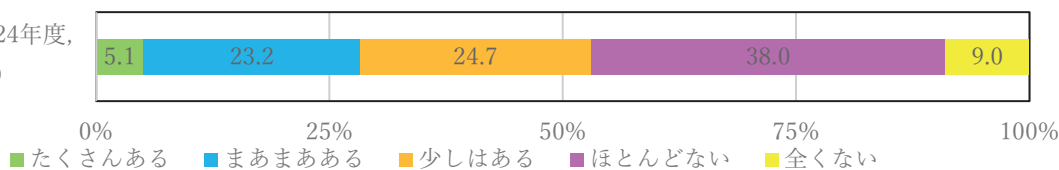


表19. 現在の悩みや不安友人の人数：学科別・学年別・年度別 (%)

		たくさんある	まあまあある	少しはある	ほとんどない	全くない
学科別	看護学科 (n=176)	5.1	25.6	25.0	37.5	6.8
	理学療法学科 (n=77)	1.3	22.1	31.2	33.8	11.7
	作業療法学科 (n=79)	8.9	19.0	17.7	43.0	11.4
学年別	1年生 (n=89)	2.2	24.7	27.0	36.0	10.1
	2年生 (n=74)	2.7	20.3	25.7	39.2	12.2
	3年生 (n=80)	7.5	17.5	27.5	40.0	7.5
	4年生 (n=89)	7.9	29.2	19.1	37.1	6.7
年度別	第3回 2013年 (n=291)	13.3	45.1	33.8	7.8	
	第4回 2016年 (n=349)	8.8	30.7	42.8	17.7	
	第6回 2023年 (n=226)	8.3	31.1	26.3	29.4	4.8
	第7回 2024年 (n=332)	5.1	23.2	24.7	38.0	9.0

2) 悩みや不安の内容（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

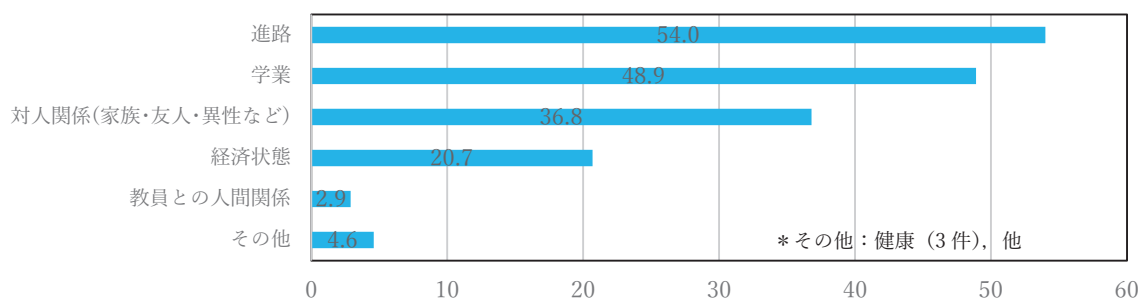


図18.悩み・不安がある者における% (n=174)

表20. 悩みや不安の内容：学科別・学年別・年度別 (%)

		進路	学業	対人関係 (家族・友人 ・異性など)	経済状態	教員との 人間関係	その他
学科別	看護学科 (n=97)	51.5	47.4	41.2	21.6	3.1	3.1
	理学療法学科 (n=41)	61.0	43.9	26.8	19.5	2.4	9.8
	作業療法学科 (n=36)	52.8	58.3	36.1	19.4	2.8	2.8
学年別	1年生 (n=45)	34.0	59.6	36.2	17.0	0.0	8.5
	2年生 (n=45)	48.6	37.1	51.4	17.1	5.7	5.7
	3年生 (n=53)	78.6	38.1	38.1	23.8	2.4	0.0
	4年生 (n=51)	56.0	56.0	26.0	24.0	4.0	4.0
年度別	第3回 2013年 (n=253)	60.4	56.5	42.2	39.1	3.0	3.9
	第4回 2016年 (n=319)	31.1	40.9	25.3	11.8	0.0	1.0
	第5回 2021年 (n=211)	61.2	64.1	31.1	30.1	2.4	8.3
	第6回 2023年 (n=147)	50.3	44.3	31.5	19.5	2.0	2.7
	第7回 2024年 (n=174)	54.0	48.9	36.8	20.7	2.9	4.6

3) 悩みや不安への対処（悩み・不安がある者のみ）

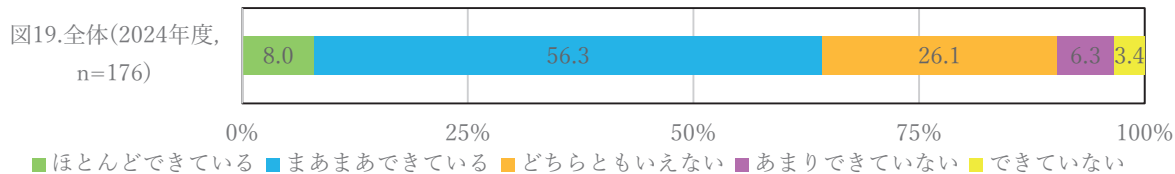


表21. 悩みや不安への対処：学科別・学年別・年度別 (%)

		ほとんどできている	まあまあできている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
学科別	看護学科 (n=98)	9.2	60.2	21.4	6.1	3.1
	理学療法学科 (n=42)	9.5	50.0	35.7	4.8	0.0
	作業療法学科 (n=36)	2.8	52.8	27.8	8.3	8.3
学年別	1年生 (n=48)	4.2	52.1	31.3	8.3	4.2
	2年生 (n=36)	16.7	52.8	19.4	8.3	2.8
	3年生 (n=42)	9.5	47.6	31.0	9.5	2.4
	4年生 (n=50)	4.0	70.0	22.0	0.0	4.0
年度別	第3回 2013年 (n=291)	9.5	57.7	26.1	6.7	
	第4回 2016年 (n=349)	11.4	46.9	35.5	6.2	
	第5回 2021年 (n=211)	9.0	49.5	32.9	8.6	
	第6回 2023年 (n=146)	8.8	52.0	28.4	10.1	0.7
	第7回 2024年 (n=176)	8.0	56.3	26.1	6.3	3.4

4) 悩みや不安の相談相手（複数回答）（悩み・不安がある者のみ）

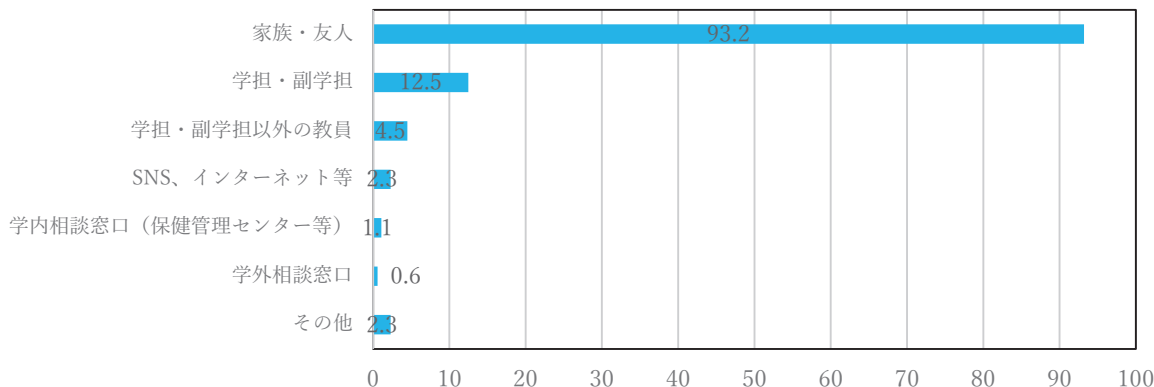


図20.悩み・不安がある者における% (n=176)

表22. 悩みや不安の相談相手：学科別・学年別・年度別 (%)

		家族・友人	学担・副学担	学担・副学担以外の教員	SNS、インターネット等	学内相談窓口（保健管理センター等）	学外相談窓口	その他
学科別	看護学科 (n=98)	98.0	8.2	4.1	2.0	1.0	0.0	1.0
	理学療法学科 (n=42)	83.3	14.3	7.1	2.4	0.0	0.0	7.1
	作業療法学科 (n=36)	91.7	22.2	2.8	2.8	2.8	2.8	0.0
学年別	1年生 (n=44)	97.9	8.3	2.1	2.0	2.1	2.1	2.1
	2年生 (n=44)	94.4	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年生 (n=51)	92.9	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4
	4年生 (n=50)	88.0	12.0	14.0	6.0	2.0	0.0	4.0
年度別	第5回 2021年 (n=220)	66.8 (家族) 81.0 (友人)	14.7	7.1	-	0.4	-	-
	第6回 2023年 (n=145)	93.1	7.6	6.2	4.8	4.1	0.7	3.4
	第7回 2024年 (n=176)	93.2	12.5	4.5	2.3	1.1	0.6	2.3

5) 授業料、生活費の支弁者（最も負担額が大きい者）

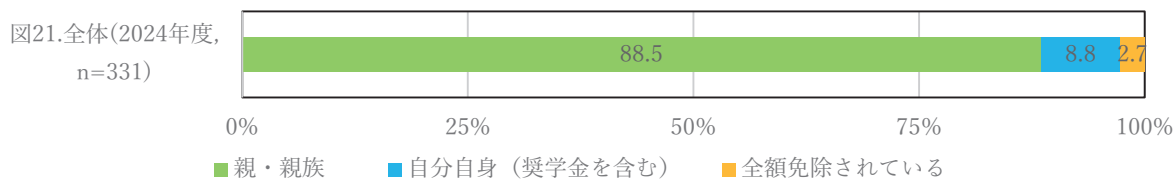


表23. 授業料、生活費の支弁者：学科別・学年別・年度別 (%)

		親・親族	自分自身 (奨学金を含む)	全額免除されている
学科別	看護学科 (n=176)	88.6	9.1	2.3
	理学療法学科 (n=76)	90.8	5.3	3.9
	作業療法学科 (n=79)	86.1	11.4	2.5
学年別	1年生 (n=89)	89.9	7.9	2.2
	2年生 (n=74)	94.6	4.1	1.4
	3年生 (n=80)	85.0	12.5	2.5
	4年生 (n=88)	85.2	10.2	4.5
年度別	第6回 2023年 (n=228)	87.7	9.2	3.1
	第7回 2024年 (n=331)	88.5	8.8	2.7

6) 奨学金の受給

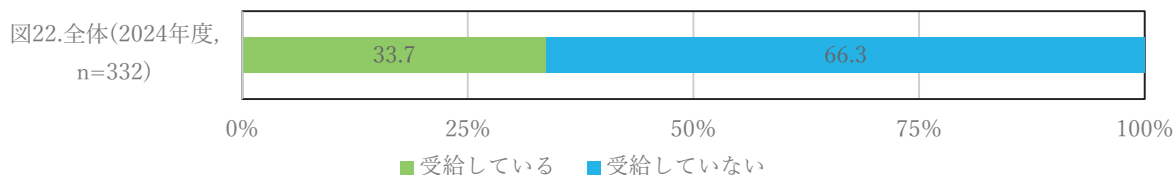


表24. 奨学金の受給：学科別・学年別・年度別 (%)

		受給している	受給していない
学科別	看護学科 (n=176)	35.8	64.2
	理学療法学科 (n=77)	19.5	80.5
	作業療法学科 (n=79)	43.0	57.0
学年別	1年生 (n=89)	31.5	68.5
	2年生 (n=74)	24.3	75.7
	3年生 (n=80)	41.3	58.8
	4年生 (n=89)	37.1	62.9
年度別	第3回 2013年 (n=295)	37.7	62.3
	第4回 2016年 (n=349)	47.0	53.0
	第5回 2021年 (n=220)	38.1	61.9
	第6回 2023年 (n=228)	38.6	61.4
	第7回 2024年 (n=332)	33.7	66.3

7) 学業を続けていく上での経済的な不安

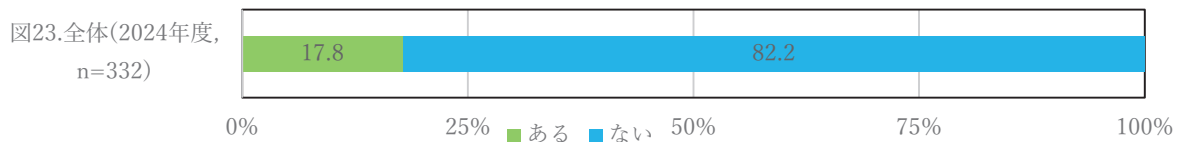


表25. 学業を続けていく上での経済的な不安：学科別・学年別・年度別 (%)

		ある	ない
学科別	看護学科 (n=176)	14.2	85.8
	理学療法学科 (n=77)	22.1	77.9
	作業療法学科 (n=79)	21.5	78.5
学年別	1年生 (n=89)	14.6	85.4
	2年生 (n=74)	18.9	81.1
	3年生 (n=80)	20.0	80.0
	4年生 (n=89)	18.0	82.0
年度別	第6回 2023年 (n=228)	19.7	80.3
	第7回 2024年 (n=332)	17.5	82.2

5. 支援制度の利用状況

1) 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知

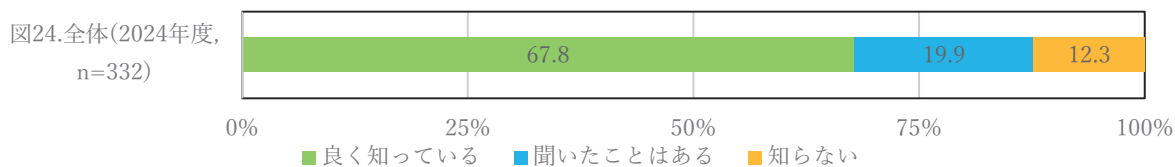


表26. 学生担当教員（学担・副学担）制度の認知：学科別・学年別・年度別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=176)	67.0	19.9	13.1
	理学療法学科 (n=77)	70.1	16.9	13.0
	作業療法学科 (n=79)	67.1	22.8	10.1
学年別	1年生 (n=89)	50.6	30.3	19.1
	2年生 (n=74)	66.2	17.6	16.2
	3年生 (n=80)	80.0	11.3	8.8
	4年生 (n=89)	75.3	19.1	5.6
年度別	第3回 2013年 (n=291)	51.4	38.7	9.9
	第4回 2016年 (n=349)	26.9	40.5	32.7
	第5回 2021年 (n=220)	64.6	31.6	3.8
	第6回 2023年 (n=225)	75.8	14.1	10.1
	第7回 2024年 (n=332)	67.8	19.9	12.3

2) 保健管理センターの認知

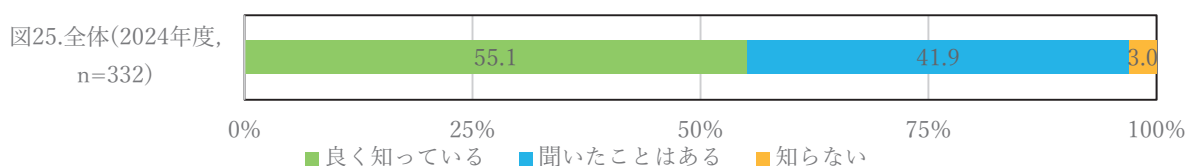


表27. 保健管理センターの認知：学科別・学年別・年度別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=176)	56.8	41.5	1.7
	理学療法学科 (n=77)	58.4	37.7	3.9
	作業療法学科 (n=79)	48.1	46.8	5.1
学年別	1年生 (n=89)	41.6	53.9	4.5
	2年生 (n=74)	56.8	39.2	4.1
	3年生 (n=80)	65.0	31.3	3.8
	4年生 (n=89)	58.4	41.6	0.0
年度別	第3回 2013年 (n=291)	8.6	33.8	57.6
	第4回 2016年 (n=349)	14.7	52.6	32.7
	第5回 2021年 (n=220)	73.9	25.2	0.9
	第6回 2023年 (n=227)	69.2	30.0	0.9
	第7回 2024年 (n=332)	55.1	41.9	3.0

3) ハラスメント相談窓口の認知

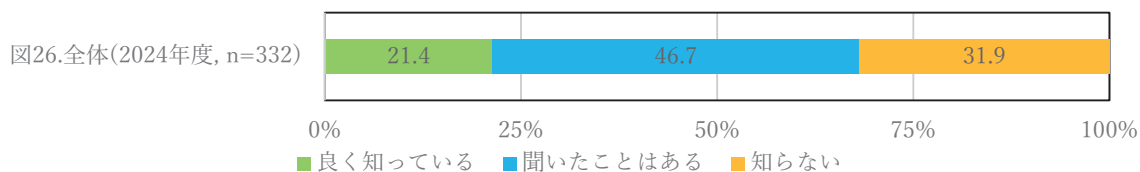


表28. ハラスメント相談窓口の認知：学科別・学年別 (%)

		良く知っている	聞いたことはある	知らない
学科別	看護学科 (n=176)	21.6	43.8	34.7
	理学療法学科 (n=77)	19.5	51.9	28.6
	作業療法学科 (n=79)	22.8	48.1	29.1
学年別	1年生 (n=89)	22.5	46.1	31.5
	2年生 (n=74)	13.5	40.5	45.9
	3年生 (n=80)	23.8	46.3	30.0
	4年生 (n=89)	24.7	52.8	22.8
年度別	第3回 2013年 (n=291)	4.8	35.9	59.3
	第4回 2016年 (n=349)	6.4	51.3	42.3
	第5回 2021年 (n=220)	19.7	32.1	48.2
	第6回 2023年 (n=228)	20.6	45.6	33.8
	第7回 2024年 (n=332)	21.4	46.7	31.9

6. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容（複数回答）

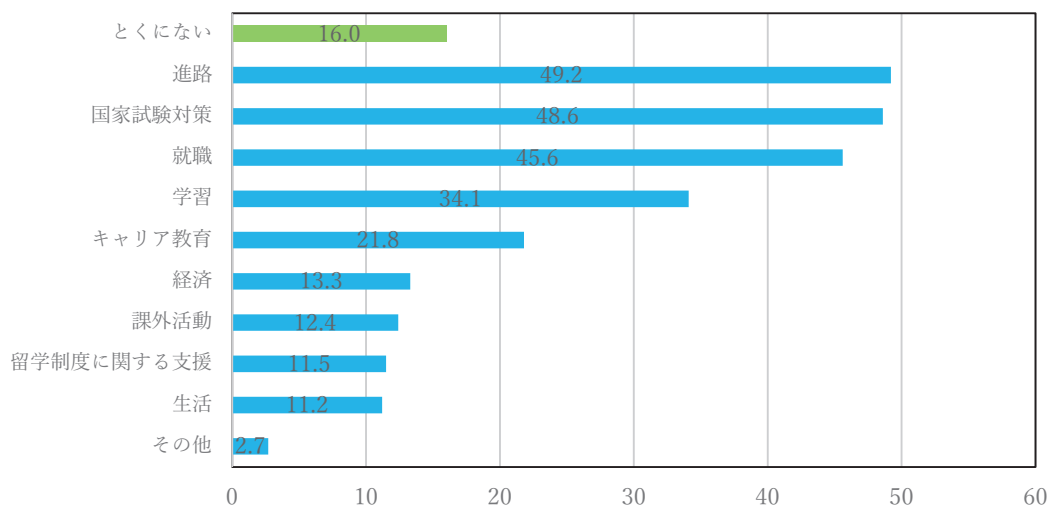


図27.全体における% (n=331)

*その他：サークル等の整備 (EV の修理), 学務課のサポート, 他

表29. 今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容：学科別・学年別・年度別 (%)

		とくにない	進路	国家試験対策	就職	学習	キャリア教育	課外活動	生活	経済	留学制度に関する支援	その他
学科別	看護学科 (n=175)	14.3	47.4	50.3	46.9	34.9	22.3	14.9	9.1	13.7	12.0	3.4
	理学療法学科 (n=77)	14.3	58.4	44.2	40.3	36.4	24.7	11.7	14.3	14.3	9.1	3.9
	作業療法学科 (n=79)	21.5	44.3	49.4	48.1	30.4	17.7	11.4	17.7	3.8	11.4	0.0
学年別	1年生 (n=89)	19.1	48.3	51.7	36.0	42.7	12.4	18.0	16.9	14.6	13.5	2.2
	2年生 (n=74)	20.3	35.1	41.9	37.8	28.4	12.2	9.5	6.8	10.8	9.5	2.7
	3年生 (n=80)	11.3	61.3	56.3	57.5	37.5	38.8	13.8	12.5	11.3	15.0	1.3
	4年生 (n=88)	13.6	51.1	44.3	51.1	27.3	23.9	11.4	12.5	9.1	6.8	4.5
年度別	第3回 2013年 (n=291)	7.6	50.2	49.1	39.5	39.4	11.0	15.8	10.0	8.6	11.0	-
	第5回 2021年 (n=220)	8.2	49.5	43.2	44.1	39.5	19.5	25.9	18.2	10.5	16.8	-
	第6回 2023年 (n=228)	11.0	47.8	44.7	43.4	28.1	22.4	14.0	16.7	11.4	15.4	2.2
	第7回 2024年 (n=332)	16.0	49.2	48.6	45.6	34.1	21.8	13.3	12.4	11.5	11.2	2.7

IV. 資料

1. 依頼文書

在学生各位

令和 6 年 7 月 1 日

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および
生活実態に関する調査 ご協力をお願い

北海道公立大学法人 札幌医科大学
保健医療学部 学部長 片寄 正樹
医療人育成センター・統合 IR 部門長 辻 喜久

保健医療学部では、本学で行われている教育の学修成果を総合的に評価することを目的に、在学生、卒業生、および雇用者の方々に対する調査を行っています。この結果をもとに、教育内容の一層の充実を図りたく、調査への協力をお願いいたします。

1. 調査の目的

2020（令和 2）年度カリキュラム及び、現行の保健医療学部ディプロマポリシー（以下 DP とする）のもとで教育を受けている在学生を対象とした調査を行い、在学生の DP の到達度及び生活実態を明らかにします。また、卒業生や卒業生が勤務する施設・自治体・企業を対象に同様の調査を行い、多角的に DP の到達度を評価することにより、現在のカリキュラムの評価及び次期カリキュラム改定に活用します。

2. 対象者

在学生：2021 年度～2024 年度に保健医療学部に入学生した 1～4 年生約 360 名

3. 倫理的配慮

- 1) 調査協力への同意：本調査票の提出をもって、調査への同意とみなします。
- 2) 同意しない場合の不利益：調査協力は任意であり、協力しなくても不利益はありません。
- 3) プライバシー保護：調査は記名式（学籍番号の記入）、4 年生は無記名式で行われます。データは統計的に処理され、個人のデータが公開されることはありません。回答は、統合 IR 部門が管理するインターネットに接続しない PC またはハードディスクに保管され、厳重に管理します。
- 4) 調査結果の公表：調査結果は全学、学部、医療人育成センターの会議を通じて関係者に報告します。
- 5) 予期される危険と費用負担：回答は 15 分程度の時間を要します。費用負担はありません。

4. 調査期間：2024 年 7 月 1 日～2024 年 8 月 30 日

5. 調査方法

記入後、密封の上、担当者に提出してください。

<問合せ先>

本調査につきご不明な点は、保健医療学部統合 IR 部門連携ワーキンググループの教員へお尋ねください。調査の趣旨をご理解の上、ご協力のほどお願いいたします。

札幌医科大学保健医療学部 統合 IR 部門連携ワーキンググループ

e-mail: iir-desk@sapmed.ac.jp（日中・夜間）

電話：代表 011-611-2111（日中）

担当：山本 武志（看護学科：内線 23780）

横山 和樹（作業療法学科：内線 28870）

深川 周平（看護学科：内線 28670）

根木 亨（理学療法学科：内線 29150）

2. 調査票

札幌医科大学保健医療学部のディプロマポリシーに基づく学修成果の評価および 生活実態に関する調査

この調査では学部学生の基本属性と生活状況、学業の成果、学生支援のニーズ及びその利用状況について調査を行い、より効果的な学生支援につなげるための基礎資料を作成することを目的とします。是非ともご協力をお願いします。結果は調査の目的以外には使用いたしません。ありのままをご回答下さい。

<各設問について該当する番号をチェックしてください>

I. 基本属性と生活状況（あなたのことについて教えてください）

(1) あなたの学籍番号をお答えください

学籍番号 _____

*回答いただいた情報は、入学時に同意いただいた「教育プログラム改善のための継続的教學情報収集」の方針に基づいて管理し、集合データとして活用されます。ご協力のほど、よろしくお願いたします。

(2) 居住形態

1. 自宅（家族等と同居） 2. 下宿、アパート、学生寮など

(3) 通学時間（片道）

1. 15分未満 2. 15分以上～30分未満 3. 30分以上～1時間未満 4. 1時間以上

(4) 加入している部活動・サークル（複数回答可）

1. 運動系(本学) 2. 文化系(本学) 3. 運動系(他大学/イカ) 4. 文化系(他大学/イカ)
5. 加入していない（→(7)へおすすみください）

(5) 部活動・サークル活動への参加頻度は1週あたりどのくらいですか

1. 週1回 2. 週2回 3. 週3回 4. 週4回 5. 週5回以上

(6) 部活動・サークル活動でどのようなことを得られましたか（複数回答可）

1. 人格形成、忍耐力・責任感 2. 授業では得られない知識・教養 3. 社会人としての基礎力
4. 問題対応能力 5. コミュニケーション能力 6. 情報通信技術 7. 健康の増進
8. その他（ ）

(7) 平日の平均睡眠時間

1. 5時間未満 2. 5時間以上6時間未満 3. 6時間以上7時間未満
4. 7時間以上8時間未満 5. 8時間以上

- (8) 食事はどのようにとっていますか (最も頻度が高いものを選んでください)
1. 三食きちんと食べている
 2. 三食は食べないことが多い
- (9) アルバイトをした時間は1週あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 3時間未満
 3. 3時間以上～10時間未満
 4. 10時間以上
- (10) アルバイトでどのようなことを得られましたか (している方のみ回答ください。複数可。)
1. 人格形成、忍耐力・責任感
 2. 授業では得られない知識・教養
 3. 社会人としての基礎力
 4. 問題対応能力
 5. コミュニケーション能力
 6. 情報通信技術
 7. 健康の増進
 8. その他 ()
- (11) PC・スマホ・タブレット等で他者とコミュニケーションに費やした時間は1日あたりどのくらいですか (但し、大学の講義で使用した時間は除く)
1. 使用していない
 2. 30分未満
 3. 30分以上～2時間未満
 4. 2時間以上
- (12) YouTube、X (旧 Twitter)、Instagram、TikTok 等の閲覧に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. 1時間未満
 2. 1時間以上3時間未満
 3. 3時間以上5時間未満
 4. 5時間以上
- (13) 読書 (マンガ・一般雑誌を除く) に費やした時間は1日あたりどのくらいですか
1. していない
 2. 30分未満
 3. 30分以上～2時間未満
 4. 2時間以上
- (14) この1年間に、ボランティア活動をしましたか
1. した
 2. していない
- (15) 友人はどのくらいいますか (学内外問いません)
1. 大勢いる
 2. まあまあいる
 3. 少しはいる
 4. ほとんどいない

II. 学業の成果 (卒業時まで身に付けたい能力をどの程度まで獲得できているか)

【1】建学の精神を実現するための基盤となる能力

- (16) 自然や社会の現象について、さまざまな立場・視点から考える習慣を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (17) 保健医療福祉の基盤となる社会のさまざまな課題に関心を持ち、洞察する力を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである
- (18) 人々の違いを個性として受け止め、他者を尊重する態度を身につけている
1. そうではない
 2. あまりそうではない
 3. どちらともいえない
 4. まあそうである
 5. そうである

- (19) 他者と積極的にコミュニケーションをとり、良好な対人関係を築くことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (20) 自分の意見や考えをまとめ、的確に表現することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (21) 保健医療福祉のシステム全般を理解し、よりよい方向に進めるための意見を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- 【2】保健・医療・福祉の実践を担う専門職、専門分野の発展に寄与する能力**
- (22) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な体系的な知識を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (23) 医療専門職（看護師・理学療法士・作業療法士）になるために必要な技術を身につけている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (24) 対象者の健康課題に対して、科学的な思考に基づき問題を解決することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (25) 医療専門職の各領域における問題点、課題を見いだすことができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (26) 多職種連携における自職種および他職種の専門性と役割を理解している
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (27) 他の保健医療福祉専門職とコミュニケーションをとり、他職種の意見を尊重することができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (28) 医療専門職としての自覚をもち責任のある行動がとれる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (29) 対象者の個人情報保護や、自律的な意思決定の支援など、倫理的な実践をすることができる
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである
- (30) 自ら学ぶ姿勢や向上心を持っている
1. そうではない 2. あまりそうではない 3. どちらともいえない 4. まあそうである 5. そうである

III. 悩みや不安、経済的な課題について（学生支援の必要性について聞かせてください。）

(31) 現在悩みや不安はありますか

1. たくさんある 2. まあまあある 3. 少しはある 4. ほとんどない 5. 全くない

→35へお進みください

(32) あなたの悩みや不安について最もあてはまるものを選んで下さい（ある方のみ回答ください）

1. 学業 2. 進路 3. 経済状態 4. 対人関係(家族・友人・異性など) 5. 教員との人間関係
6. その他（ ）

(33) 悩みや不安に対して自分なりに対処できていますか（ある方のみ回答ください）

1. ほとんど 2. まあまあ 3. どちらとも 4. あまり 5. できていない
できている できている いえない できていない

(34) 悩みや不安は誰に相談しますか？（ある方のみ回答ください。複数回答可。）

1. 家族・友人 2. 学担・副学担 3. 学担・副学担以外の教員 4. 学内相談窓口（保健管理センター等）
5. 学外相談窓口 6. SNS、インターネット等 7. その他（ ）

(35) 授業料、生活費の支弁者は誰ですか（最も負担額が大きい者）

1. 自分自身（奨学金を含む） 2. 親・親族 3. 全額免除されている 4. その他（ ）

(36) 奨学金の受給について

1. 受給している 2. 受給していない

(37) 学業を続けていく上での経済的な不安

1. ある 2. ない

IV. 支援制度の利用状況について（学生支援が十分提供されているのか聞かせてください。）

(38) 学生担当教員（学担・副学担）制度を知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(39) 保健管理センターを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(40) 学部にハラスメント相談窓口があることを知っていますか

1. 知らない 2. 聞いたことはある 3. 良く知っている

(41) あなたが今後学生生活を送る上で充実させて欲しい支援内容を選んで下さい（複数回答可）

1. とくにない 2. 学習 3. 進路 4. キャリア教育 5. 国家試験対策 6. 就職
7. 経済 8. 生活 9. 課外活動 10. 留学制度に関する支援 11. その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

8.2.3 卒業生・雇用者調査報告書

今年度は実施年度ではないため、掲載していません。

9. IR活動年間スケジュール

日程	Data Book	新入生 アンケート	在学生 アンケート	卒業生 アンケート (自己評価)	卒業生 アンケート (他者評価)
4～5月	学務課と総務課 から Data 取得	調査実施			本調査実施
6～7月		解析・報告書 作成		予備調査	
8～9月	初版作成・修正	報告書作成		本調査実施	
10～11月		教務・運営委 報告	調査実施		第一版作成
12～1月			解析・報告書 作成	第一版作成	最終版作成
2～3月	最終版確定・ 教務委員会提出		教務・運営委 報告	最終版作成	

10. 分野別作成担当者リスト

データブック

鵜飼*、篠崎、高塚、小山、三原、山本、小川、横山、根木、深川

継続的情報収集の同意書取得・修正

鵜飼*、三原

(医) 新入生、在学生アンケート

三原*、篠崎、木村、鵜飼

(医) 卒業生アンケート (自己評価、他者評価)

小山*、篠崎、鵜飼

(保) 新入生、在学生、卒業生アンケート

山本*、篠崎、横山、深川、根木

*責任者

(専 任)

鵜飼渉

(兼 任)

三原弘、高塚伸太郎、篠崎淳、小山雅之、山本武志、小川宰司、木村心南、
佐藤直、深川周平、横山和樹、根木亨

(センター長)

辻喜久

11. あとがき

このデータブックは半自動的な処理で作成しました。キャンパスプランなどから抽出したデータをCSV形式で保存し、そのファイルを特定のフォルダに入れ、データブック作成スクリプトを走らせると、すべてのデータの読み込み、グラフ描出、文字の記載、組版を自動で行いPDFが出力されます。スクリプトを用いるメリットは

- 再現性が担保できます

スクリプトは作業の全てを説明したマニュアルのようなものです。しかも作業の実行ができます。スクリプトを用いることで、誰がいつ実行しても必ず全く同じPDFが出力されます。マニュアルは不要です。担当者が異動しても仕事が完結します。なんらかのミスが発覚したときでも遡ってその原因を突き止めることができます。

- 速く作成できます

PDFの場合は70秒、HTMLの場合は15秒でデータの読み込み、グラフ描出、文字の記載、組版まで可能です。

- HTMLに簡単に対応できます

format: pdfをformat: htmlとするだけで、html形式でのデータブック作成ができます。

これらの実装にはR言語とQuartoを用いました。R言語でデータの読み込みとグラフ描出を行いました。文字の記載はmarkdown形式で、組版はQuartoによりPDF化（HTML化）してファイル出力しました。

このような自動化のため学内の各部署でご協力をくださった教職員みなさまに、心から感謝申し上げます。またアンケートに快く答えてくださった学生、卒業生、および就職先管理者等、関係者の皆様にも深く感謝申し上げます。

今後もより見やすい、わかりやすいデータブックの作成に挑んでまいりますので、引き続きのご協力と、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

統合IRセンター 篠崎 淳

索引

ST 比, 9
あしがき, 135
アンケート調査, 43, 46, 60, 62
入試, 10, 36
共通テスト, 19
初期研修先, 35, 37
卒後, 33, 34, 36
卒業率, 26
卒業生, 34, 35, 60, 62, 132, 134, 135
合格率, 12, 15, 18, 30
国家試験, 27
在学生, 21, 46, 98, 134
奨学金, 25
女子学生比率, 11, 22
女性教員比率, 6
定員充足率, 23
就職・進学先 一覧（作業療法学科）, 42
就職・進学先 一覧（理学療法学科）, 41
就職・進学先 一覧（看護学科）, 40
巻頭, 4
年齢, 7
性別, 5, 10, 35
教員, 5, 6, 8, 9
新入生, 43, 66, 134
既卒, 16, 28, 29, 31, 32
現役, 16
現役学生比率, 17
留年, 24
若手教員, 8
道内出身者比率, 14
道内外, 13, 33
道内比率, 34